

十四日を以て生れ先代由三郎の養子となり大正十四年...

鹽谷 温

正四位勳三等、文學博士、東京帝國大學教授、文學部勤務...

君は故第一高等學校教授鹽谷時敏の長男にして幕末の...

鹽谷 榮

青山學院教授、東京府士族、安政元、〇生、千葉、士、小島...

君は東京府士族鹽谷愛次郎の長男にして明治六年四月...

第一高等學校理科を卒業し現時青山學院教授たり家族...

鹽谷重次郎

兵庫縣人、田中組、海運業、兵庫縣在籍、明一三、七生、兵庫、木下又七二...

君は兵庫縣人田中重次郎の弟にして明治十一年十一月...

鹽谷恒太郎

辨護士、辦理士、東京府在籍、明一〇、〇生、元賞勳局書記官...

君は舊上州館林藩士鹽谷良翰の長男にして元治元年五...

久三、六生、大阪佐野野四郎三女(弟文之助(明三二、...

當家は先々代藤吉の分家より創る藤吉始め乾物商を營...

鹽谷友厚

三菱海上火災保險會計課長、計理士、新潟縣在籍...

君は新潟縣人鹽谷賢藏の二男にして明治二十六年一月...

鹽谷不二雄

正五位勳六等、醫學博士、東京帝國大學助教授、醫學部附屬醫院分...

君は東京府人鹿倉孫兵衛の四男にして明治十八年二月...

當家は右大臣三條實起の第七子空晃の立つる所なり空...

鹽山甚兵衛

大阪府在籍、大正二、二生、鹽山甚兵衛長女、明三二、八生、大阪、立野平兵衛...

君は大阪府人鹽山甚兵衛の長男にして明治二十九年一...

鹿海文助

金融業、大阪府在籍、明二八、一、二生、大阪、石田武兵衛...

君は大阪府人先代文助の長男にして明治十九年九月を...

五男恒一(同一五、一、一)生、四男信也(同一二、一〇)生、...

明二二、一、一生、美城、小林啓四郎、明二二、一、一生...

君は東京府人鹿倉安太郎の長男にして安政二年八月十...

鹿倉吉兵衛

東京府在籍、明二二、一、一生、明二二、一、一生、東京...

君は東京府人鹿倉安太郎の長男にして安政二年八月十...

明一七、四生、愛知、古居茂八長、明四〇、九生...

鹿園直治

從五位、男爵、舊公卿家、明四三、一、一生、二男忠夫妻、東京...

君は東京府人鹿倉孫兵衛の四男にして明治十八年二月...

鹿野源治郎

京都府在籍、弘化四、七生、京都、酒井喜太郎...

君は京都府人先代源五郎の二男にして慶應三年十二月...

明三三、九生、大阪、村上房次郎、明三〇、九生...

分家し姉ヤエ(萬延元、九生)は京都府人湯淺猪之助に嫁つた(明三、一一生)は同府人森彦兵衛に同じ(同六、六生)は兵庫縣人磯田種治郎に各嫁せり(四七、四六、六生)は京都市中京區壬生御所町電本局八六〇)

鹿野治三郎

前福岡紡績營業部用度課長  
岐阜縣在籍  
妻とく 明一、六生、三重、佐野直市二男  
明三四、二生、三井物産會社員、東京商大出身  
男 邦彦 明三四、二生、邦彦妻、岐阜、石井駒次郎三女、大垣高女出身  
女 綾子 大元、一〇生、兵庫縣立神戸第二高女本科及同第一高女家政科出身  
女 歌子 高女本科及家政科出身

鹿村 美久

東京商工會議所議員、富士瓦斯紡績專務取締役、滿洲紡績專務取締役、東京府在籍  
妻 初恵 明四三、七生  
女 初恵 明四三、七生

鹿野 誠

君は愛媛縣土族鹿野村眞吉の三男にして明治十七年五月十一日を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し歐米に遊學す事三年歸朝後富士瓦斯紡績會社に入り現に專務取締役たる

外前記會社の重役にして推されて東京商工會議所議員たり二女喜久恵(大二、一一生)は兵庫縣人田邊輝一郎に嫁せり(七一、八一〇)京都市大森區新井宿一ノ二二三八電大森四六一〇

敷波重治郎

從三位勳二等、醫學博士、岡山醫科大學教授、石川縣在籍  
妻 セイ 明二三、一一生、新潟、南助吉四女  
明三一、九生、長女重子夫、山形和田惣次三男、醫學博士  
女 重子 明三八、一一生、養子義雄妻

鳴原 彌作

福島縣多額納稅者、絲纒農表金物商、福島縣在籍  
妻 佐久 明四一、一一生、養父彌作長女  
鳴原家は福島縣山唯一の舊家にして十三代を経て先代彌作に至る君は分家專次郎の三男にして明治三十六年八月二十五日を以て生れ後當本家に迎へられ家督を相続し號名ヲ絲纒農表金物商を營み福島縣多額納稅者に列し直接國稅千三十二圓を納む家族は尙養妹喜久(大二、七生)同茂登(同五、一一生)あり(郡山市中町四電二一四)

茂野 誠

村松町長、新潟縣多額納稅者、蒲原縣專務取締役、片倉越後製絲專務取締役、オリエンタル自動車中野興業各監査役、新潟縣在籍  
妻 サク 明一〇、六生、新潟、本多丹吾二女

君は新潟縣人茂野恭平の長男にして明治三十一年八月三十日を以て生れ大正七年家督を相続す現時前記諸會社の重役にして推されて村松町長たり新潟縣多額納稅者に列し直接國稅千七十八圓を納む家族は尙三男正(昭二、九生)長女せつ(同五、五生)姉ワケ(明三〇、二生)弟友衛(同三八、一一生)あり同連衛(同三三、一一生)は新潟縣人茂野榮松の養子となり妹ムロ(同三六、一一生)は同縣人榮原謹一に同姓(同三九、九生)は同縣人指平陸に嫁せり(新潟縣中浦原郡村松町)

茂見 義夫

正四位勳三等、檢事、浦和地方法院檢事正、東京府在籍  
妻 勝 明三七、五生、正七位、檢事、東京區裁判所勤務、法學士  
男 義勝 明四四、一一生、長男義勝妻、東京、稻川與一三女  
男 義正 明四四、八生

重岡寅之助

養家、住友會社取締役  
大阪府在籍  
妻 フサノ 明一六、五生、廣島、井上利一長女  
男 勝三 明三七、三生、鴻池信託社員、同志社專門部出身

君は大阪府人原田幸助の長男にして明治二年一月三日を以て生れ同十一年四月重岡藤兵衛の養子となり同二十一年家督を相続す資産家たり夙に住友會社に入り漸次登用せられて會計部長となり先年勇退し現時同社取締役たり家族は尙孫長一(昭五、五生)、三男勝三(長男)同安二(同六、一一生)同二女種(明三三、三三六)同安二(同六、一一生)同二女種(明三三、三三六)同安二(同六、一一生)同二女種(明三三、三三六)同安二(同六、一一生)同二女種(明三三、三三六)

重田伊兵衛

白水園、茶商  
大阪府在籍  
妻 伊太郎 明三七、七生、長女清子夫、大阪  
養子 伊太郎 明四三、七生、養子伊太郎妻  
女 清子 明四三、七生、養子伊太郎妻

重信 四郎

從五位勳六等、鐵道局技師、大阪鐵道局電氣課電化工事掛主任  
鹿兒島縣在籍  
妻 秀子 明二三年生

重松 重治

衆議院議員(大分縣選出)、柳浦銀行、國東鐵道各取締役  
大分縣在籍

君は大分縣人重松和七郎の長男にして明治三年十二月三日を以て生れ同三十年家督を相続す現時前記銀行會社の重役にして衆議院議員に當選すること五回現に其任にあり立憲政黨に屬す會社字佐郡會議員大分縣會議員に擧げらるる妹タマ(明六、一一生)は大分縣人定別當儀平に同姓(同九、三生)は同縣人藤生正雄に嫁せり(大分縣宇佐郡柳浦村電長洲一六九)

重松武右衛門

金融及書畫買賣業  
大阪府在籍  
妻 鶴子 明四四、七生、清水谷高女出身  
當家は遠く菅原道實十四世の孫重松式部大輔菅原信繼に始まる信繼肥前藩山に住して重松姓を習す其高純祐兼知鶴家の麾下に屬し後播磨國に住し農となる數代を経て大阪に出で米兩替を營み後兩替商に轉業せしが先々代武右衛門維新の際廢業す君は先代武右衛門の長男にして明治十八年六月を以て生れ昭和六年家督を相続し翌年前名武一郎を改む祖業を再興して金融業を營み又書畫買賣業を兼ぶ家族は尙妹ゆき(明三〇、一一生、日本女子大學政科出身)同夫賢恭(同二九、三三、子爵舟橋清賢弟)及其一女子あり妹タス(同二九、三三、父武右衛門庶子)は絶家補家を再興せり(大分縣宇佐郡柳浦村電長洲一六九)

重松 養二

旭紡織取締役會社、山陽無煙炭礦代表取締役、大正鐵林業取締役、鳥取縣在籍  
妻 あや 明二九、一一生、領事、經濟學士  
男 宣雄 明二九、一一生、領事、經濟學士  
男 宣彦 明三二、一〇生、三菱石油會社員  
男 日出子 明三八、四生、二男宣彦妻、長崎大塚榮四郎長女

君は舊島取藩士重松貞幹の二男にして明治二年二月十三日を以て生れ同二十八年家督を相続す夙に東京大學工科大學探險冶金學科を卒業し同二十六年三菱會社に入り技術員として横峯生野佐渡面谷各礦山に勤務し同三十九年面谷礦山長となり高取礦山長を経て大正元年鐵山部技術課長兼鐵山研究所長として本社詰を命ぜられ鐵山部專務理事に榮進す同七年合資會社より分離して三菱鐵業會社となるや擧げられて常務取締役となり現時後進に道を譲り前記各會社の重役たり家族は尙孫宜英(大一一、九生、二男宣彦長男)同宜政(昭三、八生、同二男)及亡弟成三の遺子一男一女あり四男宜也(明四四、七生)は大家家を相続し妹美喜(同二二、四生)は鳥取縣土族米原八十二長男芳藏に嫁せり(一三四一)京都市芝區高輪南町五三電高輪二九九)

重見 龍造

田口商會取締役、文具具商  
大阪府在籍  
妻 ミノ 明一五、一一生、大阪、木村龜之助  
君は大分縣人實宗善兵衛の二男にして明治八年七月二十三日を以て生れ先々代支吾の養子となり同二十五年家督を相続す文具具商を營み田口商會取締役に任じ文具俱樂部監査役たりし事あり(大分縣宇佐郡柳浦村電長洲一六九)

重光 族

從四位勳三等、工學博士、通信技師、管船局船舶課長、大分縣土族  
妻 みよし 明二三、八生、石川、古丸龜三郎長女  
男 章 大三、三生  
女 重子 明四五、一一生

君は大分縣土族重光直胤の長男にして同養の兄なり明治十七年十月十日を以て生れ大正十四年家督を相続す明治四十一年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し同年第四高等學校教授に任ぜられ大正六年通信局技師に轉じ通信技師兼通信局技師等に任じ同十年歐米に出張す歸朝後同十四年東京帝國大學教授兼任となり同十





品川 海 第一銀行札幌支店長

品川 清太郎 北海道華族

品川 末藏 金銀美術彫刻業

品川 良造 大阪機器修務取締役

品川 清治 大七、七生

品川 英之助 正五位勳五等

篠崎 將次 松政、魚商

篠崎 英之助 正五位勳五等

篠崎 大助 正四位勳二等

青木電影五二二

篠崎 正 從四位勳四等

篠崎 都香佐 資産家

區三田一ノ四三電三田八五六

篠崎 又兵衛 篠崎インキ製造社長

篠崎 嘉郎 東亞印刷取締役

篠田 次助

篠田 次助 正四位勳二等

篠田 治策 從三位勳二等

シ之部 篠田(原)

行を命ぜらるるに大正十一年法學博士の學位を授け、...

篠田時化雄 從五位、精華高等女學校校長...

篠田周之 正五位勳五等、佐賀高等學校教授...

篠田利英 東京府在籍、東京府裁判所判事...

篠田三郎 正五位勳三等、陸軍少將...

篠田幸一 從五位勳六等、種馬所技師、...

篠田純治 從四位勳三等、醫師...

篠原英太郎 從四位勳三等、愛知縣知事...

シ之部 篠田(原)

篠田淳三 從五位、醫學博士、徳島高等工業...

篠田せし 東京府在籍、産科婦人科醫師...

篠田利英 東京府在籍、東京府裁判所判事...

篠田三郎 正五位勳三等、陸軍少將...

篠田幸一 從五位勳六等、種馬所技師、...

篠田純治 從四位勳三等、醫師...

篠原三郎 正五位勳三等、陸軍少將...

篠原庄吉 サクラヤ、靴商...

篠原泰助 從四位勳三等、判事、静岡地方裁判...

シ之部 篠原

篠田政之助 内外銘木唐木卸商、...

篠田良二 正五位勳四等、神宮技師、...

篠塚義男 正五位勳三等、陸軍少將、...

篠原泰助 從四位勳三等、判事、静岡地方裁判...

篠原三郎 正五位勳三等、陸軍少將...

篠原英太郎 從四位勳三等、愛知縣知事...



君は愛媛縣士族芝義方の長男にして明治六年二月八日を以て生れ...

芝家 善三

父 源之助 明七、六生、現戸主
母 ナラヲ 三女
妻 セツ 明三、二生、大阪、石田岩太

芝池 眞吉

父 又右衛門 高永六、一〇生
妻 又 彦 明二、二生、山口、土、小坂

區天沼一ノ一六三
芝生佐市郎 正四位勳二等功三級、陸軍中將

君は徳島縣人芝生梅吉の三男にして明治六年五月九日を以て生れ...

芝川 榮助 商店代表社員、大阪毛織物社長、芝川
妻 喜美代 明三五、一、生、長男、兵庫、生

君は京都府人横田清兵衛の二男にして慶應元年六月十四日を以て生れ...

中目覺長男に嫁し二男榮三(同二七、六生)養弟新次郎(同二四、一一生)は分家せり...

君は大阪府人芝川新助の長男同助の養弟同榮三の養父にして明治十四年十一月を以て生れ...

芝川 新次郎 表社員、大阪府在籍
妻 小苗 明一九、五生、大阪、林助三郎二女

君は大阪府人芝川又平の長男同又太郎の父にして嘉永六年十月七日を以て生れ...

父 又右衛門 高永六、一〇生
妻 又 彦 明二、二生、山口、土、小坂

君は正三位芝山國吉の二男從五位芝山立の所な元豊初め南都興福寺に入り...

君は三重縣人芝田惠潮の二男にして明治十二年二月を以て生れ...

芝田 重兵衛 大阪府在籍
妻 翁文 明一〇、九生、寺島文次郎四女

君は大阪府人澤田三郎の長男にして明治八年四月十三日を以て生れ...

君は京都府人芝田岩吉の三男にして明治二十五年八月五日を以て生れ...

芝川 又太郎 東京府在籍
妻 益子 明三七、一、生、大阪、松井市三郎

君は大阪府人芝川又右衛門の三男同又四郎の弟にして明治二十四年十一月二十五日を以て生れ...

君は京都府人芝田岩吉の三男にして明治二十五年八月五日を以て生れ...

芝小 路豊俊 從三位勳四等功五級、男爵、陸軍
妻 益子 明三七、一、生、大阪、松井市三郎

君は大阪府人芝川又右衛門の三男同又四郎の弟にして明治二十四年十一月二十五日を以て生れ...

君は京都府人芝田岩吉の三男にして明治二十五年八月五日を以て生れ...



妻 慶子 明三八、九生、大阪、中島徳次郎... 當家は從三位義経公の三男實忠の立つ所なり...

芝野安兵衛 京都府多額納税者、計理士... 君は京都府人芝野安兵衛の二男にして...

芝本可四郎 住友銀行牛込支店長... 君は京都府人芝本豊延の四男にして...

芝本善次郎 資産家 大阪府在籍... 君は大阪府人芝本源右衛門の長男にして...

芝山孝豊 正五位勳三等功五級、子爵、陸軍... 當家は内大臣勳修寺光豊の男權大納言宣豊の後なり...

柴吉一 柴仁商店取締役、貿易商、化粧... 君は兵庫縣人柴仁三郎の長男にして...

柴五郎 從二位勳一等功二級、陸軍大將... 君は兵庫縣人柴仁三郎の長男にして...

柴勝三郎 從三位勳二等功三級、陸軍中將... 妻 きん 明八、七生、茨城、士、高橋守衛...

柴三郎 正四位勳二等、文部技師、大臣官... 妻 はま 明二、一、生、東京、近藤常次郎...

柴垣市五郎 大野屋、當仕出業 東京府在籍... 妻 たの 慶二、二、生、岐阜、野口鐵次郎...

柴垣鼎太郎 正四位勳二等、文部技師、大臣官... 妻 はま 明二、一、生、東京、近藤常次郎...

柴清一郎 正五位勳三等功五級、陸軍少將... 妻 キキ 明二、一、生、大阪、小西コトラ...

柴平四郎 正五位勳三等功五級、陸軍少將... 妻 みつ 明二、五、六、生、養父五郎長女...

柴垣市五郎 大野屋、當仕出業 東京府在籍... 妻 たの 慶二、二、生、岐阜、野口鐵次郎...

柴崎市郎 家主 東京府在籍... 母 ヨキ 明三四、四生、東京、田中開次長妻...

柴崎三之助 東京府多額納税者、丞子、半繼... 妻 てる 明一〇、一〇生、京都、松村清七...

柴田伊三郎 養産家 大阪府在籍... 妻 テイ 明二一、一〇生、千葉、木内太右衛門...

柴崎長之助 時計商、地主 東京府在籍... 母 ヨキ 明三四、四生、東京、田中開次長妻...

柴田勝太郎 東京府在籍... 母 由太郎 明元、一一生、現戸主... 妻 ヨキ 明三四、四生、東京、田中開次長妻...

柴田勝太郎 東京府在籍... 母 由太郎 明元、一一生、現戸主... 妻 ヨキ 明三四、四生、東京、田中開次長妻...

柴田寛 正五位勳五等、理學博士、第二高等學校教授、千葉縣在籍... 妻 文子 明一〇、一〇生、京都、松村清七...

柴田久一 東京府在籍... 母 幸々 萬延元、三生、祖父久左衛門長女... 妻 幸々 明二〇、七生、東京、田丸銀三郎...

柴田桂太 正四位勳二等、理學博士、東京帝國大學教授、理學部長、東京府在籍... 妻 恭子 明二三、一一生、九州帝大教授、生...

シ之部 柴田

男 承 二 大四、一〇生、成蹊高校高等科在學
女 和 子 大七、一〇生、跡見女學校在學
當家は舊尾州藩士の出にして世々尾張藩の典醫を勤む

柴田源七

君は滋賀縣人、大正九年の長男にして慶應二年五月九日
を以て生れ明治十六年家を相續す縮繭商を督み傍ら

柴田甚藏

君は石川縣人、大正九年の長男にして明治六年五月を
を以て生れ同三十七年分業一家を創立す金銀地金商を

柴田清右衛門

君は東京府人、大正九年の長男にして明治七年五月を
を以て生れ同三十七年分業一家を創立す金銀地金商を

シ之部 柴田

シ之部 柴田

平次郎長男、大正九年の長男にして明治三年四月二十
一日を以て生れ同三十七年分業一家を創立す縮繭商を

柴田三藏

君は大阪府人、大正九年の長男にして明治三年四月二十
一日を以て生れ同三十七年分業一家を創立す縮繭商を

柴田善三郎

君は靜岡縣人、大正九年の長男にして明治六年五月を
を以て生れ同三十七年分業一家を創立す縮繭商を

柴田宗治郎

君は東京府人、大正九年の長男にして明治七年五月を
を以て生れ同三十七年分業一家を創立す縮繭商を

シ之部 柴田

合名會社を主宰する傍ら前記諸會社の重役たり、妹みつ
(明治二七、一〇生)は長野縣人、木下信十郎に嫁せり

柴田潤藏

君は長崎縣人、大正九年の長男にして明治二十三年二月
を以て生れ先代廣作の養子となり大正十二年家を相續す

柴田丈夫

君は長崎縣人、大正九年の長男にして明治二十四年七月
七日を以て生れ大正十年家を相續す、家は尙長女

柴田武

君は東京府人、大正九年の長男にして明治七年五月を
を以て生れ同三十七年分業一家を創立す縮繭商を

シ之部 柴田

シ之部 柴田

(\*印は姻族關係)



同五年歐米に出張す(東京市淀橋區百人町三ノ三三  
電四谷三二)  
柴田桂太、杉村陽太郎、鈴木康道、杉村英三  
郎、須崎島喜三、三浦朝太郎の項

西馬智内町長、秋田縣多額納稅者  
湯澤銀行取締役、農業  
秋田縣在籍  
柴田與之助  
男 與太郎 大元、一、二、三  
妻 衛門三女 明一、八、六、生、秋田、佐々木多右  
君は秋田縣人柴田貞助の長男にして明治十年八月を以て生れ先代與之助の養子となり大正十四年家督を相続し前名貞蔵を改め農業者を営み傍ら湯澤銀行取締役にして直接國稅五千三百三十二圓を納め縣下の多額納稅者たり昭和九年六月秋田縣雄勝郡西馬智内町長に擧げられ現在に及ぶ家族は尙二男政二(大元、一、一、一、男竹藏(同六、六、生、弟榮助(明二八、一〇、一〇、一、一、同三、七、九、生、秋田、中野藤兵衛孫及其子三子、秋田父貞助(壽永元、八、生、同妻ヒサ(安政二、三、生、秋田佐藤平右衛門長女)は其子女を伴ひ分家し長女愛(明四三、四、生)は秋田縣人山崎久治三男永作に從妹セン(同二、一、一、生、叔父貞助長女)は秋田縣人服部源助に同タケ(同二、一、一、生、同三女)は同縣人伊藤仁右衛門に同タケ(同二、三、四、生、同四女)は同縣人服部富之助に嫁せり(秋田縣雄勝郡西馬智内町電四七)  
參照：湯野野利助、木駒之助の項

柴谷兼三郎 堺商會所議員、柴谷代表社員、酒造業、大阪府在籍  
妻 トミ 明二、九、五、生、大阪、官崎市松五  
男 武之祐 明四一、一、生  
女 友治郎 明三二、四、生、長女富美夫、大阪平野平兵衛弟、關西學院出身  
女 富美 明三三、三、生、養子友治郎妻、堺高女出身  
養子 光三 明三三、一、生、二女喜美夫、大阪大塚和二郎孫  
女 喜美 明三六、八、生、養子光三妻、堺高女出身  
男 武良 明四二、九、生  
女 千代子 明四四、七、生、柴谷苞出資社員  
君は大阪府人柴谷武太郎の長男にして明治九年六月一日を以て生れ大正十年家督を相続し酒造業を營み傍ら柴谷兼三代表社員にして又堺商會所議員たり義に堺自動車製造日ノ自動車日本セルベット福島紡績各會社の重役に就任し推されて堺市參事會たりし事あり家族は尙五女美智子(大一一、二、二、生、四男兼次(同一四、四、生)六女美恵子(昭二七、七、生)孫肇一(大一、一、一、生、養子友治郎長男)同幸子(昭二九、九、生、同二女)同浩二(同四、六、生、同二男)同恭子(同六、三、生、同三女)あり富美(明三、八、三、生、堺高女出身)は大阪府人川崎佐右衛門長男佐一に嫁し妹美代(同三、四、五、生)は其一男を伴ひ分家せりA四四〇〇(堺市丸町東一、二、電一二一五)  
參照：大塚和二郎、平野平兵衛、松尾政吉の項

柴戸良五郎 正五位勳六等、農林技師、農務局勤務、福岡縣在籍  
妻 波子 明三二、六、生、福岡、森山安恭六女  
男 良夫 大九、六、生  
君は福岡縣人柴戸善四郎の四男にして明治二十五年九月

柴山壽太郎 不動産業、大正産業各代表取締役、八重垣劇場取締役、南海染工、組閣染工各種監査役  
妻 とく 明七、四、生、養父清兵衛長女  
君は愛知縣人田中孫市の長男にして明治五年九月二日を以て生れ同縣人柴山清兵衛の養子となり昭和三年養弟乙彦方より分れて一家を創立す現時不動産業大正産業各會社代表取締役及八重垣劇場取締役たる外前記各會社の重役たりA四四三(名古屋市東區西魚町三ノ三電一四一)

柴藤治兵衛 川魚料理業、大阪府在籍  
妻 ちよ 明二〇、三、生、大阪、磯島吉之姉  
養子 博助 明三九、三、生、大塚、松村芳助孫  
君は大阪府人先代治兵衛の三男にして明治十五年四月一日を以て生れ大正二年家督を相続し前名貞太郎を改め養子十川魚料理業を營む家族は尙養子富美子(大一一、一、一、〇、生、大阪、吉村芳助長女)ありA三二七(大阪市北區中之島町二ノ三五電本局一三三三)

柴山雄三 正四位勳三等、福壽生命保險會、日本レリース俱樂部各顧問  
妻 まつえ 明二〇、九、生、養父重幸長女  
男 幸雄 大三、一、生  
男 正雄 大三、一、生  
女 秀子 大六、二、生  
君は岐阜縣人藤井嘉右衛門の四男にして明治十六年一月十六日を以て生れ同三十五年柴山重幸の養子となる同四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年文官高等試験に合格し農商務省山林事務官工務局事務官臨時產業調查局事務官農商務書記官同參事官外務事務官密書課長農務局農政課長等に歷任し大正十三年特許局事務官審判部長に轉じ後東京鐵道監理局長たりしが昭和五年官を退き現時日本レリース俱樂部及福壽生命保險會の顧問にして曾て日光鐵道下野電力興業共保生命保險等諸會社の重役たり又南米各國を巡遊して貿易事情を視察し次で華府に開催の第一回國際勞動會議に臨み後華府に開催の第三回國際勞動總會政府代表委員顧問を命ぜられ前後三回に亘り外國に出張す家族は尙三女民子(大九、二、生)養弟博(明三〇、五、生、現戸主)あり(東京市小石川區表町一〇九電小石川六三三〇)  
參照：柴山博の項

柴山鷺雄 野村生命保險、ヤマト土地産業各社長、大阪信託、堂島ビルヂング各取締役、野村銀行、野村證券、野村各監査役、野村事務理事、兵庫縣在籍  
妻 富美 明一六、七、生、東京、紅林登治妹  
君は東京府人柴山重幸の長男にして明治三十年五月九日を以て生れ大正九年文官高等試験に合格し十年東京帝國大學法科大學獨法學科を卒業し直ちに鐵道局に任ぜられ鐵道局書記官同副參事に歷任せしも同十二年病廢の爲め一時官を辭し翌十三年再び復興局事務官に任ぜられ同も官務縣東白井郡長に轉任す同十五年官務縣事務官昭和二年埼玉縣事務官を経て同八年新潟縣書記官事務部長に轉じ現在に至るゴルフ將棋に興味を有す家族は尙長女愛子(大一一、一、一、生)二女重子(昭三、九、生)二男泰(同六、一、一、生)ありA一五〇(新潟市警所通二番町官舎)  
參照：柴山雄三の項

柴山昌生 從四位勳三等、男爵、海軍大佐、從四位勳三等、男爵、海軍大佐、東京府藤原族、日進艦長  
妻 梅子 明二七、四、生、東京、土、園田清彦妹、學習院女學部出身  
男 昌道 大七、六、生  
女 百合子 大七、六、生  
富家は先代矢八より家名を揚ぐ矢八は舊鹿兒島藩士にして故元帥侯爵東郷平八郎の從弟に當る風米國に留學し明治七年海軍中尉に任じ海軍大將に累進す其間水雷局長參謀本部海軍第二局長橫須賀鎮守府參謀長海軍高千穂各艦長海軍兵學校校長常備艦隊司令官海軍大學校長吳佐世保旅順各鎮守府司令官等に歴補し日清戰役の功に依り功三級日露戰役の功に依り功二級を賜ひ同四年華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治十七年八月十三日を以て生れ大正十三年襲爵す風海軍兵學校を卒業し明治四十一年海軍少將に任じ爾來海軍砲術學校教官上海大日本海軍陸戰隊指揮官赤城艦長を歴任し現時海軍大佐にして横須賀海軍官立日進艦長たり家族は尙三男清隆(大一一、五、六、生)三女昭子(昭三、一、一、生)四女妙子(同四、四、生)あり二女綾子(大

瀧井清 東京府多額納稅者、著述業、東京府在籍  
妻 たま子 明三、四、五、生、埼玉、高山市五郎二女  
君は東京府人瀧井右衛門次郎の二男にして明治三十二年六月を以て生れ大正十四年祖父新太郎の後を受け家を相続す著述業を營み東京府多額納稅者に列し直接國稅八千三百五十二圓を納む家族は尙二男東(大一一、四、三、生)長女仁子(昭三、二、生)三男共世(同五、八、生)四男又新(同七、一、一、生)ありA四五〇九(東京市神田區駿河臺一ノ七電神田七〇六)

瀧木直一 東京商業學校校長事務取扱、東京府在籍  
妻 わか 安政二、一〇、生、群馬、神田確也二女  
男 直夫 明三九、六、生、三菱銀行本店勤務  
女 直實 明四一、三、生、三菱信託會社勤務  
男 直實 明四一、三、生、次男直實妻、東京高木健長女  
女 豐子 明四四、一、生

月二十日を以て生れ大正二年分れて一家を創立す同七年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し同年栃木縣農業技師に任じ爾來栃木縣農務技師廣島縣技師等に歴任し同十五年農林技師となり農務局に勤務す家族は尙二男忠夫(大一〇、一〇、生)三男朋夫(同一三、九、生)長女光子(昭三、八、生)あり(東京市世田ヶ谷區代田二ノ七三三)

柴原琢 從五位勳五等、明石商會所理事、兵庫縣土族  
妻 こひ 明三、九、生、兵庫、坊地定吉妹  
男 爾爾 明三二、四、生  
女 泰 明三六、一、生、長男爾爾妻、岡山片岡静太郎長女  
君は舊龍野藩十柴原正甫の長男にして慶應元年五月を以て生れ明治十五年家督を相続す同二十九年兵庫縣屬となり後方部長に任ぜられ次で有馬部長出石部長等に歴任し現時明石商會所理事たり(明石市市上の丸一ノ四一六電九六七)

柴藤治兵衛 川魚料理業、大阪府在籍  
妻 ちよ 明二〇、三、生、大阪、磯島吉之姉  
養子 博助 明三九、三、生、大塚、松村芳助孫  
君は大阪府人先代治兵衛の三男にして明治十五年四月一日を以て生れ大正二年家督を相続し前名貞太郎を改め養子十川魚料理業を營む家族は尙養子富美子(大一一、一、一、〇、生、大阪、吉村芳助長女)ありA三二七(大阪市北區中之島町二ノ三五電本局一三三三)

柴山壽太郎 不動産業、大正産業各代表取締役、八重垣劇場取締役、南海染工、組閣染工各種監査役  
妻 とく 明七、四、生、養父清兵衛長女  
君は愛知縣人田中孫市の長男にして明治五年九月二日を以て生れ同縣人柴山清兵衛の養子となり昭和三年養弟乙彦方より分れて一家を創立す現時不動産業大正産業各會社代表取締役及八重垣劇場取締役たる外前記各會社の重役たりA四四三(名古屋市東區西魚町三ノ三電一四一)

柴山雄三 正四位勳三等、福壽生命保險會、日本レリース俱樂部各顧問  
妻 まつえ 明二〇、九、生、養父重幸長女  
男 幸雄 大三、一、生  
男 正雄 大三、一、生  
女 秀子 大六、二、生  
君は岐阜縣人藤井嘉右衛門の四男にして明治十六年一月十六日を以て生れ同三十五年柴山重幸の養子となる同四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年文官高等試験に合格し農商務省山林事務官工務局事務官臨時產業調查局事務官農商務書記官同參事官外務事務官密書課長農務局農政課長等に歷任し大正十三年特許局事務官審判部長に轉じ後東京鐵道監理局長たりしが昭和五年官を退き現時日本レリース俱樂部及福壽生命保險會の顧問にして曾て日光鐵道下野電力興業共保生命保險等諸會社の重役たり又南米各國を巡遊して貿易事情を視察し次で華府に開催の第一回國際勞動會議に臨み後華府に開催の第三回國際勞動總會政府代表委員顧問を命ぜられ前後三回に亘り外國に出張す家族は尙三女民子(大九、二、生)養弟博(明三〇、五、生、現戸主)あり(東京市小石川區表町一〇九電小石川六三三〇)  
參照：柴山博の項

柴山鷺雄 野村生命保險、ヤマト土地産業各社長、大阪信託、堂島ビルヂング各取締役、野村銀行、野村證券、野村事務理事、兵庫縣在籍  
妻 富美 明一六、七、生、東京、紅林登治妹  
君は東京府人柴山重幸の長男にして明治三十年五月九日を以て生れ大正九年文官高等試験に合格し十年東京帝國大學法科大學獨法學科を卒業し直ちに鐵道局に任ぜられ鐵道局書記官同副參事に歷任せしも同十二年病廢の爲め一時官を辭し翌十三年再び復興局事務官に任ぜられ同も官務縣東白井郡長に轉任す同十五年官務縣事務官昭和二年埼玉縣事務官を経て同八年新潟縣書記官事務部長に轉じ現在に至るゴルフ將棋に興味を有す家族は尙長女愛子(大一一、一、一、生)二女重子(昭三、九、生)二男泰(同六、一、一、生)ありA一五〇(新潟市警所通二番町官舎)  
參照：柴山雄三の項

柴山昌生 從四位勳三等、男爵、海軍大佐、從四位勳三等、男爵、海軍大佐、東京府藤原族、日進艦長  
妻 梅子 明二七、四、生、東京、土、園田清彦妹、學習院女學部出身  
男 昌道 大七、六、生  
女 百合子 大七、六、生  
富家は先代矢八より家名を揚ぐ矢八は舊鹿兒島藩士にして故元帥侯爵東郷平八郎の從弟に當る風米國に留學し明治七年海軍中尉に任じ海軍大將に累進す其間水雷局長參謀本部海軍第二局長橫須賀鎮守府參謀長海軍高千穂各艦長海軍兵學校校長常備艦隊司令官海軍大學校長吳佐世保旅順各鎮守府司令官等に歴補し日清戰役の功に依り功三級日露戰役の功に依り功二級を賜ひ同四年華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治十七年八月十三日を以て生れ大正十三年襲爵す風海軍兵學校を卒業し明治四十一年海軍少將に任じ爾來海軍砲術學校教官上海大日本海軍陸戰隊指揮官赤城艦長を歴任し現時海軍大佐にして横須賀海軍官立日進艦長たり家族は尙三男清隆(大一一、五、六、生)三女昭子(昭三、一、一、生)四女妙子(同四、四、生)あり二女綾子(大

柴山博 從五位、新潟縣書記官、學務部長、愛知縣在籍  
妻 あい 愛治元、六、生、稻葉重清長女  
男 貞 明三六、三、生、東京、柳橋源太郎二女  
男 華 大一、一、一、生  
君は愛知縣人柴山重幸の長男現戸主雄三の養弟にして明治三十年五月九日を以て生れ大正九年文官高等試験に合格し十年東京帝國大學法科大學獨法學科を卒業し直ちに鐵道局に任ぜられ鐵道局書記官同副參事に歷任せしも同十二年病廢の爲め一時官を辭し翌十三年再び復興局事務官に任ぜられ同も官務縣東白井郡長に轉任す同十五年官務縣事務官昭和二年埼玉縣事務官を経て同八年新潟縣書記官事務部長に轉じ現在に至るゴルフ將棋に興味を有す家族は尙長女愛子(大一一、一、一、生)二女重子(昭三、九、生)二男泰(同六、一、一、生)ありA一五〇(新潟市警所通二番町官舎)  
參照：柴山雄三の項



直秋 大九、九生
女子 大八、一、二生
女子 大七、三、五生

澁澤義一

神奈川縣多額納稅者、濱商工會議所副頭、帝國銀行專務取締役、大成、澁澤倉庫、日本カールボンド、七十四銀行、横濱興信銀行、松尾、業各監査役、帝國銀行副理事、澁澤九喜商店、横濱取引所取引員、生絲問屋、神奈川縣在籍
男 喜一郎 明二五、七生、香川、清野長太郎
妻 テイ 長女、御茶の水高女出身

君は神奈川縣人澁澤喜作の三男にして明治十二年五月四日を以て生れ同四十三年兄作太郎の後を襲ひ家督を相續す先は同三十八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時前記各銀行會社の重役に任ぜられ同省多額納稅者に列す家族は尙二男作次(大九、三、生、慶大在學)三男義彦(同六、九、生)四男米雄(同八、六、生)五男芳雄(同二、一、生)あり(四三三八八(横濱市中區宮崎町五六電本局四四四四))

君は東京府士族澁澤木直智の長男にして明治十四年十月二日を以て生れ同二十九年家督を相續す現時東京商業學校事務取扱たり家族は尙四男直弘(大九、一、一、生)孫清子(昭六、二、生、長男直夫長女)同朋子(同九、二、生、同二女)あり妹益子(明二七、一、二、生)は埼玉縣人澁谷利三郎に嫁せり(一四二四(東京市牛込區築土八幡町三〇))

澁澤敬三

正五位、子爵、澁澤同濟社社長、東京貯蓄銀行會長、第一銀行常務取締役兼業務部長、東洋生命保險取締役、有終會堂有限責任社員、澁澤倉庫理事、東京府華族議員、澁澤倉庫社長、御茶の水高女出身
男 敬三 明一三、五生、伯爵橋本實斐叔母
妻 登喜子 明三五、一、生、故貴族院議員尾身重四郎二女、御茶の水高女出身
男 雅英 大九、四、二生

當家は先代榮一より家名を揚ぐ榮一は埼玉縣人澁澤市郎右衛門の長男同治治太郎の伯父大川英太郎同平三郎同中榮八郎の叔父にして天保十一年を以て生れ幼名を榮治郎と稱し後榮一と改め青淵と號す父は生れ幼及製菓を業とす幼に於て父に學び尋て尾高藍香に就て漢籍を修め尙武技を研磨し精長じて父を助けて製菓及販賣の業に従ふ時恰も幕政弛廢し豫漢の豫漢内に郡藩するや時勢に感ずる所あり暴挙を策したれども事擧ぐるに至らずして中止し京都に奔り元治元年一橋慶喜卿の重臣平岡圓四郎の推挙に依りて一橋家に仕へ其財政を整理し税法を改め農兵を編制する等の功績に擧る慶應二年一橋幕府の統を嗣ぎ將軍大輔に隨ひて從て幕臣となり翌年將軍の親弟清水水兵衛大輔に隨ひて佛國に就し歐洲各國の文物制度を視察す此年幕府瓦解せしかば翌明治元年民政部大輔に從て歸朝し静岡藩の勸

定組所に任ぜられしも感ずる所ありて之を辭し商法會所常平會を起して徳川家の財務に獻替すより處過して大藏大丞に陞り後三等出仕大藏少輔事務取扱となる同六年各省定額論に就き議院閣を合はず上大臣大輔と共に職を辭し今後は論議に據りて商工業を督み以て國富の増進に力を致さんと稱し第一國立銀行總監督に推され尋て頭取となる後株式會社第一銀行と改め拮据經營業務の擴張に努め社運益々以て今日の盛を致せり此間夙に朝鮮の開発に着手し明治十一年釜山に第一銀行支店を設置したるを始めとし京城其他に支店を設けたり爲に同行は朝鮮の我國に併合せらるゝ迄は中央銀行の位置を占め兌換券發行國庫金の取扱をなしたるが明治四十二年に至り其の一切の營業を擧げて朝鮮銀行に交割せり其の他日本銀行横濱正金銀行日本郵船銀行等の設立に資し始め瓦斯電燈電力造船紡績物製鋼製糖製紙印刷炭礦ハルル煉瓦洋灰硝子麥酒硝子肥料製糖製鐵築港保險取引所倉庫開墾牧畜演習無線電報航空輸送等氏の首唱に依り設立せられたるもの極めて多く此等會社の社長取締役會長取締役監査役又は相談役顧問等の任にありしもの實に九十五件の多きに及べり其の明治十一年自ら首唱して伊藤博文大隈重信等と謀り商法會所を創設し推されて其會頭となれり是即ち今の東京商工會議所の前身にして爾後繼續重任せしが同三十八年に至り之を辭す又銀行集會所手形交換所興信所等を創設し何れも會長として多大の盡力をなせり又夙に教育事業に力を致し特に商業教育女子教育に留意したり即ち現東京商工會議所前身たる商法講習所の設立に助成し其東京高等商業學校女子師範學校に商法講習所を首唱し會長として東京商工會議所創立に努力したるが如きは是れ尙早稲田大學高等商業學校大倉高等商業學校二松學會等にも理事或は顧問等として助力し先是第一期貴族院議員に勸選せられたるも幾干もなく之を辭し復政に政治に干與せず只管實業の興隆に盡せり次に社會事業に對する努力も亦大なるものあり東京市教育院は其創業以來院長として熱心經營以て今日に至るを得たり尙中央社會事業協會協榮善醫院救護會國際聯盟協會日印協會太平洋問題調査會に各會長として

日佛會館には理事長として東京慈惠會協同會聖徳太子奉贊會斯文會明治神宮奉贊會帝國博物館復興翼贊會日本俱樂部には各副會長として理化學研究所には副總裁となり修養園には顧問となり其他關係せる公共團體實に八十餘に及べり又深く意を海外諸國との親交に用ひ明治三十五年歐米巡遊を試みたる事あり就中米華兩國との親善増進に就ては多年力を盡せる所以にして明治四十二年渡米實業團の團長として半歳の間老練を國民外交に致し大正四年には桑港に於ける巴拿馬運河開通紀念委員會に參列の爲め渡米し同國各地歴訪益々情愜疎通に努めたるが此時特に桑港有力者と謀り東京に日米關係委員會桑港に日米關係委員會を組織し相提携して親善増進に努むることとなり爾來東京日米關係委員會を主宰し事に起つて有力なる働きをなす更に大正十年所謂華盛頓會議開催を機として八十有餘の老體を以て重ねて渡米し各地有力者と交歓する所ありたり中華民國に對しては互に提携して富源の開拓に努め夙に日清汽船東亞興業兩會社を設立せしが後又博文氏の東遊を機とし相謀りて中日實業會社を設立せしが正三年には親しく彼地に渡航し朝野人士と意見を交換せり會ては日華學會々長として中國留學生の便を計り同會顧問となり又日華實業協會々長として兩國親善に盡す大正五年喜壽に達せるを機とし第一銀行頭取其他實業界に於ける一切の地位を去り専ら力を教育社會公共事業に盡し且國際親交の増進世界平和の確立に努め宛然私設大使たり明治三十三年勳功に依り特に華族に列し男爵を授けられ大正九年更に子爵に陞る位階勳等も亦從二位勳一等に陞彼し旭日大綬章を授けらる君は榮一の孫同篤二の長男にして澁澤武之助同正雄同秀雄の明なり明治二十九年八月二十五日を以て生れ昭和六年祖父榮一の後を承け家督を相續し製糖被仰付大正十年東京帝國大學經濟學部を卒業し後横濱正金銀行に入り數年倫敦支店に在勤歸朝し同行を退き現時澁澤同濟社社長たる外前記各銀行會社の重役に任ぜり旅行讀書を趣味とす家族は尙長女紀子(昭五、一、一、生)あり弟信雄(明三一、六、生)同智雄(同三四、三、生)は各分家し伯母宇多(文久三、八、生)は男爵澁澤重遠先代重遠に同季(明三、二、生)は男爵澁澤谷芳郎に同季(同四、六、生)は埼玉縣人尾高豊作先代次郎に叔母愛(同二三、七、生)は

澁澤武之助
君は故子爵澁澤榮一の二男にして澁澤正雄同秀雄の兄弟子爵澁澤敬三同信雄の叔父に當る明治十九年十二月二十六日を以て生れ大正三年分れて一家を創立す曾て東京帝國大學法科大學に學び現時石川島飛行機製作所社長の外前記各會社重役たり(二五六六(東京市澁野川區西ヶ原町三五五六電小石川二三二七))
參照 子爵澁澤敬三、澁澤正雄、澁澤秀雄、福原信和、澁澤谷芳郎、澁澤重遠、澁澤明石、尾高豊作、澁澤元治、澁澤元治、田中榮八郎、橋本實斐、澁澤田邊文之助の項

君は子爵澁澤榮一の四男にして澁澤武之助同正雄の弟同敬三同信雄の叔父なり明治二十五年十月五日を以て生れ大正四年分れて一家を創立す同六年東京帝國大學法科大學法科を卒業し實業界に入り澁澤田邊文之助同江木高眞館各取締役たりしが現時前記諸會社の重役たり家族は尙二男秀二(大七、七、生)二女花子(同一〇、三、生)庶子均(同一、九、生、生母、東京、小出こと)あり(二一九八(東京市澁野川區西ヶ原町一〇一二電小石川三三三〇))
參照 子爵澁澤敬三、澁澤武之助、澁澤正雄、澁澤秀雄、澁澤谷芳郎、澁澤重遠、尾高豊作の項

君は東京府士族澁澤木直智の長男にして明治十四年十月二日を以て生れ同二十九年家督を相續す現時東京商業學校事務取扱たり家族は尙四男直弘(大九、一、一、生)孫清子(昭六、二、生、長男直夫長女)同朋子(同九、二、生、同二女)あり妹益子(明二七、一、二、生)は埼玉縣人澁谷利三郎に嫁せり(一四二四(東京市牛込區築土八幡町三〇))

澁澤武之助
君は故子爵澁澤榮一の二男にして澁澤正雄同秀雄の兄弟子爵澁澤敬三同信雄の叔父に當る明治十九年十二月二十六日を以て生れ大正三年分れて一家を創立す曾て東京帝國大學法科大學に學び現時石川島飛行機製作所社長の外前記各會社重役たり(二五六六(東京市澁野川區西ヶ原町三五五六電小石川二三二七))
參照 子爵澁澤敬三、澁澤正雄、澁澤秀雄、福原信和、澁澤谷芳郎、澁澤重遠、澁澤明石、尾高豊作、澁澤元治、澁澤元治、田中榮八郎、橋本實斐、澁澤田邊文之助の項

君は子爵澁澤榮一の三男にして澁澤武之助の弟同秀雄の兄子爵澁澤敬三同信雄の叔父なり明治二十一年十一月一日を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治十四年第一高等學校を経て大正四年東京帝國大學法科大學經濟學部を卒業し第一銀行に入り同六年之を辭し澁澤貿易富士製鋼汽車製造石川島造船所石川島自動車石川島飛行機株式會社等入社し昭和七年末總ての關係會社を辭任し製鐵業に専念し現時日本製鐵會社外前記諸會社の重役に任ぜられて東京商工會議所議員たり家族は尙二女純子(大一一、九、生)三女良子(同一五、八、生)あり(一七九九(東京市澁野川區西ヶ原町三六〇電小石川二二〇〇))
參照 子爵澁澤敬三、澁澤武之助、澁澤正雄、澁澤秀雄、澁澤谷芳郎、澁澤重遠、澁澤明石、尾高豊作の項

君は子爵澁澤榮一の三男にして澁澤武之助の弟同秀雄の兄子爵澁澤敬三同信雄の叔父なり明治二十一年十一月一日を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治十四年第一高等學校を経て大正四年東京帝國大學法科大學經濟學部を卒業し第一銀行に入り同六年之を辭し澁澤貿易富士製鋼汽車製造石川島造船所石川島自動車石川島飛行機株式會社等入社し昭和七年末總ての關係會社を辭任し製鐵業に専念し現時日本製鐵會社外前記諸會社の重役に任ぜられて東京商工會議所議員たり家族は尙二女純子(大一一、九、生)三女良子(同一五、八、生)あり(一七九九(東京市澁野川區西ヶ原町三六〇電小石川二二〇〇))
參照 子爵澁澤敬三、澁澤武之助、澁澤正雄、澁澤秀雄、澁澤谷芳郎、澁澤重遠、澁澤明石、尾高豊作の項





父 史春 安政二、六生、現戸主
妻 ユウ 明一、九、四生、大阪、樋口彦右衛門長女
男 義雄 大、二、二生

澁谷 隆教 正四位、男爵、直宗佛光寺派管長
母 文久二、七生、京都、伊藤快彦姉
妻 達子 明二、三、三、公卿九條道秀叔母
女 方子 大、三、五、生

父 作 昭 明三、七、生、福岡、柏野次右衛門
母 ノブ 明五、五、生、福岡、清水策三叔母
妻 安子 明三、四、二、生、福岡、中村武文

澁谷 米太郎 國際電話取締役、日滿マクベシ
妻 ミサ 明二、四、三、生、理学博士、山口鏡之助長女、女子學習院出身
男 武彦 大、七、九、生

父 甲子二 元治元、五、生、現戸主
妻 サチ 志太郎二、二、生
男 信幸 昭三、一、二、生

父 作 昭 明三、七、生、福岡、柏野次右衛門
母 ノブ 明五、五、生、福岡、清水策三叔母
妻 安子 明三、四、二、生、福岡、中村武文

島 重治 從四位勳四等、前大阪市土木部長
妻 信 明一、二、九、生、故西村繪三姪
男 重信 明四、〇、九、生

父 甲子二 元治元、五、生、現戸主
妻 サチ 志太郎二、二、生
男 信幸 昭三、一、二、生

島 彌兵衛 大阪株取引所算計課長
妻 チカ 明一、八、八、生、大阪、田中義次姪

島 重治 從四位勳四等、前大阪市土木部長
妻 信 明一、二、九、生、故西村繪三姪
男 重信 明四、〇、九、生

父 甲子二 元治元、五、生、現戸主
妻 サチ 志太郎二、二、生
男 信幸 昭三、一、二、生

島 彌兵衛 大阪株取引所算計課長
妻 チカ 明一、八、八、生、大阪、田中義次姪

シ之部 (鳥居)

(※印は姻族関係)

シ四六

男 彌一郎 明四二、三三
男 健二郎 明四四、二二
女 甲 大七、一三
君は大阪府人鳥居彌兵衛の長男にして明治十六年七月七日を以て生れ同年三月家督を相繼し前名角太郎を改め健名す現時大阪株式取引所計算課長たり家族は尙姉ハル(明二一、二二)あり(大阪府大正區難波島二ノ七九電櫻川一五七四)

鳥居 安次郎
正四位勳二等、工學博士、汽車製造取締役、機械學會議員、農工部大臣官房文書課長、大阪府在籍
妻 明三、一〇生、滋賀、原田金之助二女
男 秀雄 明三四、五生
男 豊子 明四二、二二生、長男秀雄妻、男

京市芝區高輪南町四五電高輪九七五)
鳥居 安兵衛 大阪府在籍
妻 吉登 明八、一二生、大阪、向井清造長女
男 吉太郎 明三〇、九生
女 サダ子 明三三、六生、二男吉太郎妻、大

鳥居 安兵衛
大阪府在籍
妻 安太郎 明二、一〇生、大阪、關本駒吉二女
男 明三〇、一〇生、長男安太郎妻、大
女 アグリ 阪、澤田太兵衛四女

を以て生れ大正十年家督を相繼す先是同四年慶應義塾大學法學科を卒業し古河合名會社に入社し後香港出張所主任となり同十三年同社を辭し九州鐵道會社に入り同十五年東邦電力會社に轉じ本社庶務課長となり下關支店長を経て昭和八年九州鐵道會社取締役兼支配人となり現時各會社の重役を兼ぬ讀書を趣味とす家族は尙長女康子(六一、二)あり(福岡市小島馬場一番地電二四〇四)

鳥居 連太郎
日本書齋取締役、方英社代表
妻 明二、一〇生、廣島、谷田安三郎長女
男 誠 明四一、八生
男 信次 明二四、七生、東京、士、淺利新

鳥居 健次郎
大阪府在籍
妻 孝子 明三一、四生、東京、梅辻貞妹
男 明八、一二生
君は群馬縣人竹田清吉の長男にして明治十八年九月二十四日を以て生れ同四十二年慶應義塾大學を卒業し督を相繼す同四十四年東京高等師範學校を同四十五年同校研究科を大正六年東京帝國大學法學部法學科を卒業し其間東京外國語學校専修科を修了し大正五年文官高等試験に合格す同六年鐵道書記に任じ爾來同參事補同參事等に任じ昭和五年鐵道書記官に任じ運輸局總務課長及大臣官房人事課長を経て昭和八年大臣官房文書課長兼鐵道大臣秘書官となり昭和九年官房法課長を命ぜられ後官房文書課長專任となり今日に至るに於て各鐵道局局長局長等歴任し大正十五年歐米各國に出張を命ぜられ家族は尙長女文子(六一、一〇)生、櫻蔭高女(明二、一〇)生、同妻幸子(同二、一〇)生、同妻三郎(同二、一〇)生、同妻三郎(同二、一〇)生

鳥居 市造
地主
妻 市五郎 安政五、三三、現戸主
母 文久三、九生、東京、市川甚五兵衛二女
妻 明一七、五生、東京、武内六之助長女
男 明四三、九生

鳥居 金次郎
地主
妻 高三郎 安政六、一〇生
女 明二六、九生、東京、富田銀次郎長女
男 高七、九生
女 光子 大七、一〇生

鳥居 健次郎
大阪府在籍
妻 孝子 明三一、四生、東京、梅辻貞妹
男 明八、一二生
君は群馬縣人竹田清吉の長男にして明治十八年九月二十四日を以て生れ同四十二年慶應義塾大學を卒業し督を相繼す同四十四年東京高等師範學校を同四十五年同校研究科を大正六年東京帝國大學法學部法學科を卒業し其間東京外國語學校専修科を修了し大正五年文官高等試験に合格す同六年鐵道書記に任じ爾來同參事補同參事等に任じ昭和五年鐵道書記官に任じ運輸局總務課長及大臣官房人事課長を経て昭和八年大臣官房文書課長兼鐵道大臣秘書官となり昭和九年官房法課長を命ぜられ後官房文書課長專任となり今日に至るに於て各鐵道局局長局長等歴任し大正十五年歐米各國に出張を命ぜられ家族は尙長女文子(六一、一〇)生、櫻蔭高女(明二、一〇)生、同妻幸子(同二、一〇)生、同妻三郎(同二、一〇)生、同妻三郎(同二、一〇)生

鳥居 勝藏
早川ビルプロカー 總務部長
妻 明二、一〇生、梅田傳右衛門長女
男 明四一、二二生、鳥居信正堂總務主、慶應義塾大學出身
女 明三、四生、東京印刷會社社員、府立工務出身
男 大八、七生、府立第六高女在學

鳥居 七郎
東京府在籍
妻 明一六、九生、東京、三田松太郎長女
男 明三九、五生、養子愛子夫、東京、鋪木清太郎長女
女 明二八、八生、養子哲郎妻、東京、鋪木清太郎長女

鳥居 孝彦
從四位勳四等、大阪府理事、水道部長、高知縣士族

シ之部 (鳥居)

(※印は姻族関係)

シ四七

鳥居 健次郎
大阪府在籍
妻 孝子 明三一、四生、東京、梅辻貞妹
男 明八、一二生
君は群馬縣人竹田清吉の長男にして明治十八年九月二十四日を以て生れ同四十二年慶應義塾大學を卒業し督を相繼す同四十四年東京高等師範學校を同四十五年同校研究科を大正六年東京帝國大學法學部法學科を卒業し其間東京外國語學校専修科を修了し大正五年文官高等試験に合格す同六年鐵道書記に任じ爾來同參事補同參事等に任じ昭和五年鐵道書記官に任じ運輸局總務課長及大臣官房人事課長を経て昭和八年大臣官房文書課長兼鐵道大臣秘書官となり昭和九年官房法課長を命ぜられ後官房文書課長專任となり今日に至るに於て各鐵道局局長局長等歴任し大正十五年歐米各國に出張を命ぜられ家族は尙長女文子(六一、一〇)生、櫻蔭高女(明二、一〇)生、同妻幸子(同二、一〇)生、同妻三郎(同二、一〇)生、同妻三郎(同二、一〇)生

鳥居 市造
地主
妻 市五郎 安政五、三三、現戸主
母 文久三、九生、東京、市川甚五兵衛二女
妻 明一七、五生、東京、武内六之助長女
男 明四三、九生

鳥居 金次郎
地主
妻 高三郎 安政六、一〇生
女 明二六、九生、東京、富田銀次郎長女
男 高七、九生
女 光子 大七、一〇生

シ之部 島崎、蘭、田

(※印は姻族関係)

シ四八

母 久 萬 嘉永五、九生、高知、士、倉知才  
八二女  
男 孝 雄 明四二、三生、工學士  
女 道 子 大六、三生、樟蔭女專在學  
君は高知縣士族島崎眞榮の長男にして明治十年一月を以て生れ大正十四年家督を相續す氏に第三高等學校工學部に學び埼玉縣技術師執任技師に歷任し大正十一年大阪府に轉じ水道部下水課長を経て理事に選み現に水道部長たり昭和四年歐米に出張上下水道に關する調査研究を遂げ同五年歸朝詩曲及讀書に趣味を有す家族は尙三男孝平(大一一、五生)あり長女蘭子(明三四、二生)京城高女出身は高知縣士族江淵俊秀に二女喜美(同三八、七生)大手前高女高等科出身は大阪府電氣局技師工學士田中通雄に妹多美(同一三、六生)は高知縣士族中山敬輔に嫁せり(大阪府東淀川區濱町一電北一四二〇)

島崎 豊雄 海産物商  
大阪府在籍  
妻 ツサメ 明一九、二生、奈良、士、本多國  
男 雄次郎 明四五、一生

女 信 子 大二、七生  
君は東京府人島崎市藏の二男にして明治十三年一月一日を以て生れ同四十二年兄知同方より分れて一家を創立す海産物商たり家族は尙二男祐吉(大六、六生)三男直藏(同一〇、二生)四男道雄(同一二、九生)五男清三(同一三、一一生)六男豊之祐(同一五、五生)あり長女千恵(明四三、四生)は大阪府人茨城豊次郎長男健三に嫁せり(大阪府西區中區通三ノ二八電土佐堀三〇五八)

島崎 一郎 大阪府在籍  
母 トク 女 明二、一〇生、大阪、中谷萬造長

妻 増 明二三、九生、大阪、前田巳之助  
男 光 子 大六、一一生  
女 一 雄 大六、一一生  
君は大阪府人島田孫三の長男にして明治二十二年十月十一日を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十二年大阪高等工業學校を卒業し現に島田硝子製造所社長たり大正十二年及昭和二年の兩度硝子製造及増嶋業視察のため歐米に出張す家族は尙二男次郎(大四、二生)二女芳子(同九、四生)三男五一(同一二、三)第十郎(明四三、二生)あり妹重子(同三七、二生)は大阪府人山中繁次郎に同文子(同四〇、四生)は奈良縣人戸田豊に嫁せり(大阪府西區川區海老江下三ノ四七電土佐堀五五五)

島田 兵衛 大阪府多額納稅者、大、乾物問屋、大阪府在籍  
妻 あい 明一〇、一生、兵庫、稻野利三郎  
男 市太郎 明四四、一〇生、長男市太郎妻、壽賀子 大阪、寺西四郎次郎二女  
女 賴 子 大五、一〇生、相愛女學校在學  
君は大阪府人島田三郎の三男にして慶應三年四月を以て生れ先代市兵衛の養子となり明治三十九年家督を相續し前名幾三郎を改め養子才大と稱し代々乾物業を繼いで現在に至る大阪府多額納稅者に列し直接國稅八千三百九十二圓を納む又推されて大阪府同業大阪商會各組長たり現に大阪乾物商俱樂部取締役たりし事あり二女賴子(明四三、三三)相愛女學校出身は同夫武(同三七、九生)靜岡、佐藤莊太郎(明四三、三三)に嫁せり(大阪府北區市之町一三電北四六四〇)と共に分家せり

島田 延太郎 島田洋紙店  
東京府在籍  
妻 さわ 明元、七生、千葉、士、川股飲藏  
女 松次郎 明一七、一生、長女、夫、東京  
明二二、一一生、養子松次郎妻  
明四一、六生、養子松次郎長男  
明四一、二生、孫誠太郎妻、東京  
孫 陽次郎 明四五、四生、養子松次郎二男  
孫 博子 大六、一一生、養子松次郎長女  
君は東京府人島田豊三郎の長男にして慶應二年十月十日を以て生れ明治二十三年家督を相續す島田洋紙店と稱し洋紙商を營む現に東京府多額納稅者たり家族は尙曾孫道子(明八、三三)孫誠太郎長女(明四七、三三)東京市京橋區銀座三ノ三ノ二電京橋三三三三

島田 勝之助 三井物産取締役兼業務課長  
東京府在籍  
妻 静子 明三一、七生、三重、長峰邸長女  
男 勝太郎 大一一、一〇生  
君は東京府人島田勝助の三男にして明治十七年三月五日を以て生れ明治二十一年兄駒太郎より分れて一家を創立す麻絲織物業を營む家族は尙五男榮三(大六、六生)孫辰一(明三、六生)二男慶二(長男)あり長男一郎(明二七、二生)は同妻ユウ(同三〇、一一生)奈良、泉野藤吉(八女)と共に其一子を伴ひ分家せり(七四五三三一七(大阪府西區江戶場下通二ノ二〇電土佐堀一八五八))

島田 鈞一 正三位勳三等、第一高等學校名譽教授、新潟縣士族  
妻 いと 明八、二生、東京、川田正雄叔母  
男 俊彦 明四一、四生、東京帝國大學院在學、智山專門講師、文學士  
君は故文學博士島田重徳の長男にして慶應二年七月を以て生れ明治三十一年家督を相續す幼にして漢學を修め長じて藤澤南岳の教を受け同二十二年帝國大學文學部大學古典科を卒業し同二十七年第一高等學校教授に就せられたる以て同教授となり現に同校名譽教授にして昭和四年東京文理科大学教授兼東京高等師範學校教授に任ぜられ昭和七年退官す現に東京文理科大学講師東方文化學院東京研究所研究員たり現に中華民族及暹羅國に出張せり長女とき(明二八、三三)は海軍大佐松岡雄二に嫁せり(同三五、一一生)は工學士三安井小太郎に同嫁す(同五、五生)は文學博士服部宇之吉に嫁せり(東京市淀橋區下落合二ノ八三六電落合長崎五一)參照川田正雄、服部宇之吉宗川田順高木八尺の項

島田 音吉 家主  
大阪府在籍  
妻 ツルエ 明二七、一一生、奈良、島田富藏  
男 甚晴 大四、三生、京都府立醫大在學  
女 千鶴子 明四五、一生、京都同志社女專英文科出身  
君は奈良縣人辰巳藤治郎の四男にして明治十九年三月二十七日を以て生れ同四十四年先代キシの養子となり大正三年家督を相續す家主にして關西住宅會社の責任者たり家族は尙二男甚悦(大七、八生)四女靜子(同一〇、五生)五女英子(同一三、九生)六女英子(明二二、一一生)あり養母キシ(安政五、一〇生)大阪、鹽谷喜四郎二女(二女美代子(大二、七生)と共に分家せり(一一一九五(大阪府南區御藏所町二三電戎二五七五))

島田 毅一 正四位勳三等、大日本鹽業營業務取締役、福井縣在籍  
妻 ラン 明一六、九生、福井、士、下里康  
男 重道 明四〇、四生、浪花高校出身  
女 美代 明四〇、三生、奈良女高師文科出身  
女 トシ 明四二、三生、奈良女高師文科出身  
女 フサ 大二、七生、大阪府立夕陽丘高女出身  
君は福井縣士族島田静處の二男にして明治六年十月二十六日を以て生れ同三十九年兄剛太郎より分れて一家を創立す同三十六年日本法律學校を卒業し翌年文官高等試驗に合格す爾來專賣局事務官に任じ更に同理事に轉じ其間大阪販賣所長山形見付藤本鹿兒島大阪各地方專賣局長等に歴補し昭和二年退官後大

島田 源右衛門 美原屋、質商  
東京府在籍  
妻 やす 明三七、六生、東京、田中定次郎  
君は東京府人先代源右衛門の長男にして明治三十一年十二月十五日を以て生れ大正十二年家督を相續し前名鐵四郎改め鐵名十美原屋と稱し質商を營む家族は尙長女英子(大一一、八生)二女員枝(明二、九生)弟源次(明三九、八生)姉まへ(同二三、九生)あり(一一〇八五(東京市大森區大森一ノ二八〇電一〇八五))

島田 音輔 麻絲織物業  
大阪府在籍  
妻 ナツ 明一、一一生、大阪、福井ヨネ  
男 慶二 明三五、九生

島田 源藏 地主  
東京府在籍  
妻 キヨ 明三三、二生、東京、岩崎平次郎  
男 重壽 大九、二生

シ之部 島田

(※印は姻族関係)

シ四九





續す同四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し... 三井銀行に入り現時同本行本部經理長たり大正十四年...

島田 やの 地主

養子 一治 明三〇、四生、兵庫、藤田庄太郎...

君は兵庫縣人藤田庄太郎の三女にして明治二十一年七月二十日を以て生れ大正四年先代夫島田實雄の家督を...

參照し上田榮治郎の項

島田 安兵衛 成木屋、吳服商

妻 三子 明三三、九生、東京、大塚竹次郎...

君は東京府人先代安兵衛の四男にして明治三十年八月十二日を以て生れ昭和六年家督を相續し前名常次郎を...

島田 洋三 島田新助商店賣出資社員

妻 俊子 明四四、一、生、東京、小原政吉二...

島田 由兵衛 大師銀行監査役、美濃屋、乾海

妻 ぬい 明二〇、一〇生、東京、小園新右...

君は東京府人島田惣左衛門の三男にして明治十二年十二月十五日を以て生れ先代天津の養子となり同三十九年家督を相續し前名榮次郎を改む美濃屋と稱し乾海...

參照し島田増次郎の項

島田 芳治 中央運送計算所取締役、辯護士

妻 夫 明六一、二、生、千葉、石井弘人二女...

君は千葉縣人島田市之助の二男にして明治二十四年九月を以て生れ大正十二年家督を相續し同九年東京帝國大學法學部獨法科を卒業す辯護士にして傍ら前記會社の取締役たり家族は尙叔母まん(明一六、一〇生)あり...

參照し島田増次郎の項

島田 義治 オリエンタルホテル専務取締役

妻 種 明四二、二、生、東京、小山三郎妹...

女 鉦子 大二、二、生、女子聖心學院專門部...

島田 利吉 日本鐵業取締役、日立電力監

妻 フキ 明三一、八、生、栃木、渡邊良姉...

君は宮城縣土族島田幸三郎の二男にして明治十七年一月一日を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す現時日本鐵業會社取締役たる傍ら日立電力會社監査役たり...

參照し島田増次郎の項

島田 良左衛門 上田温泉電軌取締役

妻 リウ 明一五、五、生、長野、青木富夫...

君は長野縣人先代良左衛門の二男にして明治七年四月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名孝平を改め名を數次商會議所議員及市會議員となり現時上田温泉電軌會社取締役たり...

○生、長野、若麻績海城二女)は其二男を伴ひ各分家し弟良雄(同二〇、一、二)は長野縣人飯島富三郎の養子となり弟健雄(同二一、八、六)は同妻まき(同二二)...

島谷 伊兵衛 大坂府在籍

妻 愛 明二七、一、生、大阪、中許榮之助...

君は大阪府人先代伊兵衛の二男にして明治二十年六月三日を以て生れ大正十三年家督を相續し後前名伊三郎を改め養子す質商を營む家族は尙長女美代子(大一一、一八)...

島谷 敏郎 正四位勳二等、東京高等商船學校

妻 テル 明一七、三、生、栃木、廣瀬明俊長...

君は廣島縣人島谷興助の二男にして明治六年十月を以て生れ同四十二年兄義郎方より分れて一家を創立す同三十年商船學校機關科を卒業し日本郵船會社に入り三十一年商船學校機關科を卒業し日本郵船會社に入り...

島谷 秀三郎 大坂府在籍

妻 タカ 明一六、二、生、大阪、下村仁兵平...

シ之部 島(谷、津)

男 宗治 明四五、七、生

島津 源吉 島津製作所常務取締役、鈴粉造

妻 トミ 明四〇、七、生

君は京都府人島津源藏の弟にして同常三郎の兄なり明治十年九月五日を以て生れ大正九年分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり長女鈴子(明四一、一、生)...

島津 源藏 勳五等、京都商會會議顧問、日本

妻 ツル 明五、四、生、京都、乾久次郎二女...

當家の始祖は井上總兵衛尉茂一といひ播州明石の浦に住せしが功ありて薩州島津義弘より姓を拜領し井上の姓を改め島津と稱す後茂一筑前に赴き黒田長政に仕ふ九世を経て清兵衛文化十年京都に出で、住し其子先代源藏島津製作所を創り理化學器械の製作に従事せり...

參照し島津源藏の項

島津 功治郎 常盤商事社長、木原廣義取締役

妻 ヤナ 明一九、九、生、茨木、登吉二女...

シ之部 島(津、功)

(※印は姻族関係)

シ五五

前橋東京各地方裁判所判事及横濱地方裁判所上席検察官等

島津 繁麿 從四位、男爵、鹿兒島縣華族

島津 久 欣 男 一、四、三 鹿兒島、士、大場

島津 需吉 廣島縣多額納税者、廣島縣職工銀行

島津 貴暢 正四位、男爵、大隅鐵道監査役

當家は島津家第十五代貴久の弟忠勝の後にして代々垂

島津 忠男 青島日本商工會議所理事、北支日

島津 忠重 從二位勳二等、公卿、貴族院議員

島津 忠正 男爵、島津公卿家分家

捲せしも豊臣秀吉の爲め征せられ薩州二州日向二郡を

島津 忠丸 從五位、男爵、舊鹿兒島藩一門

島津 忠正 男爵、島津公卿家分家

島津 忠正 男爵、島津公卿家分家

島津 忠彦 正五位、男爵、陸軍歩兵少尉

島津 忠承 正四位、公卿、貴族院議員

島津 忠正 男爵、島津公卿家分家

島津 忠丸 從五位、男爵、舊鹿兒島藩一門





之を辭せり家族は尙五男榮三(大四、九生)六女千代子(同九、一)...

島中雄作

中央公論社社長 島中雄作 明三二、四生、奈良、大方重吉長...

君は奈良縣人島中雄作の四男にして明治二十年二月二日...

島原鐵三

朝鮮興業常務取締役 島原鐵三 安政二、三生、和歌山、清水主税...

君は福岡縣人島原鐵三の長男にして明治十三年一月二十七日...

業會社事務取締役に就任す家族は尙四男泰三(大一、二)...

島峰徹

醫學博士、東京高等商科 島峰徹 從四位、醫學博士、東京高等商科...

君は新潟縣人島峰徹の長男にして明治十年四月を以て...

島村英三

大阪府在籍 島村英三 大正一、一〇生、大阪、佐野半次...

君は大阪府人島村英三の長男にして明治十二年二月を以て...

尙三男德三(大八、七生)あり二女英子(明四五、一)...

島村金治郎

東北神戶石油取締役 島村金治郎 元北神戶石油取締役...

君は新潟縣人島村金治郎の長男にして明治三十年十月六日...

島村幸吉

東京市目黒區會議員、地主 島村幸吉 東京市目黒區會議員、地主...

君は東京府人島村幸吉の長男にして明治十九年十二月六日...

島村作次郎

地主 島村作次郎 地主...

君は東京府人先代茂兵衛の二男にして明治九年一月二十一日...

島村茂穂

常陸セメント専務取締役 島村茂穂 常陸セメント専務取締役...

君は高知縣人島村茂穂の長男にして明治七年三月二日...

島村是六

大阪府在籍 島村是六 大阪府在籍...

君は廣島縣人島村是六の長男にして明治十一年五月二十日...

島村他三郎

從三位勳二等、行政裁判所評定官 島村他三郎 從三位勳二等、行政裁判所評定官...

以て生れ同三十一先代兄孝太郎の後を承け家督を相続す...

島村鷹衛

日本エヤープレイヤ社長 島村鷹衛 日本エヤープレイヤ社長...

君は高知縣人島村鷹衛の長男にして明治七年三月二日...

島村忠次郎

從四位勳三等、公證人 島村忠次郎 從四位勳三等、公證人...

君は東京府人島村忠次郎の長男にして明治三年十一月十九日...

島村友三郎

東京市建設局取締役、島村商店 島村友三郎 東京市建設局取締役、島村商店...





一六六五電大塚三九〇五

清水五郎兵衛

テグス商 大阪府在籍 母 登美 明一三、一二生、西橋藤松二女...

清水光藏

中外合資工業運送専務取締役兼總支 配人日米運送輪船取締役 神奈川縣在籍...

清水孝藏

正四位勳二等、判事、大審院部長 東京府在籍 妻 ヲツ 明一五、一二生、法學博士田部芳...

清水收吉

從四位勳四等、合同電氣常務取 締役、徳島水力電氣取締役 岐阜縣在籍...

清水順治

從四位勳三等、通信省電氣局長 石川縣土族 父 一郎 安政四、五生、現戸主...

シ之部 清(水)

清水鋼三

家主 愛知縣在籍 母 五つ 元治元、九生、愛知、清一妹...

清水朝郎

川西航空機、千代田毛織、日本モ スリン各社取締役、松本鐵次郎商 店監査役、東京府土族...

清水茂松

醫學博士、東京醫學專門學校教授 院附屬産科病院長、清水小兒科醫 院、醫師、石川縣土族...

清水重夫

從五位勳五等、朝鮮總督府事務官 警務局圖書課長、埼玉縣土族...

清水治彦

大一二、一生 君は舊加賀藩士清水一郎の二男にして同太郎の弟なり...

清水洵平

君は長野縣人清水忠助の三男にして明治二十年十一月 五日を以て生れ大正十三年兄澤方より分れて一家を創...

清水正一

正五位勳四等、判事、千葉地方裁 判所部長、愛知縣在籍 妻 きみゑ 明二二、五生、愛知、伴壽一郎姉...

清水淨

兵庫縣在籍 妻 芳子 大二、一生、兵庫、猿丸治長女...

清水錠三

地主 東京府在籍 妻 不き 慶應二、九生、東京、佐久間文左...

清水新平

中日實業運取役兼支配人、東亞 通商監査役 東京府在籍...

(※印は姻族関係)



清水 貞吉 平野屋、羅紗商
大阪府在籍
妻 アキコ 長女
男 貞保 大一一、四生

清水 貞吉 平野屋、羅紗商
大阪府在籍
妻 アキコ 長女
男 貞保 大一一、四生
女 美津子 大五、二生
女 八重子 大七、八生

清水 釘吉 正七位勳五等、陸軍歩兵大尉、清
水組社長、神電氣株式會社社長、東
京府在籍
妻 明八、一一生、養父滿之助長女
男 俊雄 明二七、二生、清水組常任監査
役、文學士
女 イクヨ 尺秀三郎長女

清水 釘吉 正七位勳五等、陸軍歩兵大尉、清
水組社長、神電氣株式會社社長、東
京府在籍
妻 明八、一一生、養父滿之助長女
男 俊雄 明二七、二生、清水組常任監査
役、文學士
女 イクヨ 尺秀三郎長女

清水 藤治 地家主
兵庫縣在籍
妻 久司 明四一、五生
男 百合子 明四一、五生、長男久司妻、兵
君は兵庫縣人清水藤治の長男にして明治十七年五月十
六日を以て生れ大正七年家督を相続す地家主たり家族
は尙三男治夫(大六、二生)長女たき子(同一〇、一生)
孫弘子(昭八、四生)長男久司(同一〇、一生)
孫弘子(昭八、四生)長男久司(同一〇、一生)
(昭四、三三)同久造(同一三、二生)は各分家せりA一
〇五三(神戸市灘區八幡町大道二)

清水 得一 從四位勳二等功五級、海軍中將
東京府在籍
妻 はる 右衛門長女
男 昭彦 昭二、七生

清水 得一 從四位勳二等功五級、海軍中將
東京府在籍
妻 はる 右衛門長女
男 昭彦 昭二、七生

清水 德治郎 東洋麻工業株式會社社長、清水商店、麻
網製造業、大阪府在籍
妻 サト 明一九、三三、京都、淺見五郎孫
男 政之助 大五、一一生
女 文子 大三、一生
女 千代 大七、一生

清水 德治郎 東洋麻工業株式會社社長、清水商店、麻
網製造業、大阪府在籍
妻 サト 明一九、三三、京都、淺見五郎孫
男 政之助 大五、一一生
女 文子 大三、一生
女 千代 大七、一生

清水 德太郎 從四位勳四等、衆議院議員(山形
縣選出)、鶴岡市在籍
妻 富 明二九、四生、富山十二銀行頭取
中田清兵衛長女、跡見女學校出身
女 登喜子 大四、一〇生、府立第六高女出身
女 加壽子 大七、三三、頤榮高女在學
女 隆子 大八、八生、府立第六高女在學

清水 友右衛門 川越市會議員、川越商工會議所議
員、武州倉庫株式會社取締役、綾部隆昌
(靈)監査役、荒物商、埼玉縣在籍
妻 文久三、一一生、東京、飯田兼吉
長女
妻 定平 明四二、九生、群馬、中村源平孫
中宿造長女
妻 治子 明四四、一一生、養子定平妻、田
君は東京府人先代清水友右衛門の長男にして安政五年十一月
二十三日を以て生れ明治四十四年家督を相続し養名し
て前名東之助を改む地主たりA一九一(東京市下谷
區上根岸八二電報掛六〇一)

清水 留三郎 衆議院議員(群馬縣選出)、著述業
群馬縣在籍
妻 マツ 明二六、九生、群馬、關根藤太郎
六女、渡邊女學校高等科出身
男 一夫 昭三、三三
女 民子 大七、八生、日本女大附屬高女在

清水 留三郎 衆議院議員(群馬縣選出)、著述業
群馬縣在籍
妻 マツ 明二六、九生、群馬、關根藤太郎
六女、渡邊女學校高等科出身
男 一夫 昭三、三三
女 民子 大七、八生、日本女大附屬高女在

清水 八郎 地主
東京府在籍
妻 美し 明三、一一生、東京、鈴木嘉兵衛妹
三女
妻 徳 大五、一〇生、東京、清水武兵衛
三女

清水 八右衛門 村上屋、質商
東京府在籍
妻 マツ 明二六、九生、群馬、關根藤太郎
六女、渡邊女學校高等科出身
男 一夫 昭三、三三
女 民子 大七、八生、日本女大附屬高女在

清水 半吾 正五位勳四等、山梨高等工業學校
長、岐阜縣在籍
妻 金一郎 萬延元、一一生、岐阜、近藤丈吉
二男、現戸主
妻 ひさ 明二六、四生、養父金一郎繼子、
大垣高女出身
男 廣太郎 大八、一生

清水 半吾 正五位勳四等、山梨高等工業學校
長、岐阜縣在籍
妻 金一郎 萬延元、一一生、岐阜、近藤丈吉
二男、現戸主
妻 ひさ 明二六、四生、養父金一郎繼子、
大垣高女出身
男 廣太郎 大八、一生

清水 半吾 正五位勳四等、山梨高等工業學校
長、岐阜縣在籍
妻 金一郎 萬延元、一一生、岐阜、近藤丈吉
二男、現戸主
妻 ひさ 明二六、四生、養父金一郎繼子、
大垣高女出身
男 廣太郎 大八、一生

清水 半吾 正五位勳四等、山梨高等工業學校
長、岐阜縣在籍
妻 金一郎 萬延元、一一生、岐阜、近藤丈吉
二男、現戸主
妻 ひさ 明二六、四生、養父金一郎繼子、
大垣高女出身
男 廣太郎 大八、一生

清水 半四郎 地主
東京府在籍
妻 はつ 文久三、一一生、東京、飯田兼吉
長女
妻 定平 明四二、九生、群馬、中村源平孫
中宿造長女
妻 治子 明四四、一一生、養子定平妻、田
君は東京府人先代清水半四郎の長男にして安政五年十一月
二十三日を以て生れ明治四十四年家督を相続し養名し
て前名東之助を改む地主たりA一九一(東京市下谷
區上根岸八二電報掛六〇一)

清水 半四郎 地主
東京府在籍
妻 はつ 文久三、一一生、東京、飯田兼吉
長女
妻 定平 明四二、九生、群馬、中村源平孫
中宿造長女
妻 治子 明四四、一一生、養子定平妻、田
君は東京府人先代清水半四郎の長男にして安政五年十一月
二十三日を以て生れ明治四十四年家督を相続し養名し
て前名東之助を改む地主たりA一九一(東京市下谷
區上根岸八二電報掛六〇一)

清水 半四郎 地主
東京府在籍
妻 はつ 文久三、一一生、東京、飯田兼吉
長女
妻 定平 明四二、九生、群馬、中村源平孫
中宿造長女
妻 治子 明四四、一一生、養子定平妻、田
君は東京府人先代清水半四郎の長男にして安政五年十一月
二十三日を以て生れ明治四十四年家督を相続し養名し
て前名東之助を改む地主たりA一九一(東京市下谷
區上根岸八二電報掛六〇一)

清水 廣吉 清水商店代表社員
東京府在籍
妻 俊宗川田豊吉の項



**妻** たか 明二四、一、二生、長野、土、山浦  
 女 一 大七、五生  
 男 清 大七、一〇生

君は長野縣人先代助の長男にして明治二十九年九月二十五日を以て生れ同四十二年家督を相続し前名與吉を改め義名す紙商並印刷業を営み推されて長野商工會議所議員たり縣下の多額納税者に列し直接國稅八百三十二圓を納む家族は尙二男勲(大一〇、七生)妹けい(明三五、五生)同夫彦四郎(同三一、二生、母ふい、養子彦四郎長女)同淑(昭三、四生、同二女)明聰(同八、二生、同長男)あり妹ちい(明三一、六生)は東京府人三野村芳之助に同なを(同三三、五生)は宮崎縣人國安竹次郎に同(同三七、六生)は長野縣人小林茂雄に同千代(同四〇、二生)は千葉縣人平山輝夫に嫁せり(長野市大門町)

清水揚之助

日本耐火スレート、三河セメント、京鐵骨煉製煉製所、清水組各會社、東京府在籍、實社員、交詢社常議員

君は千葉縣人菊池兵三郎の長男にして清水釘吉同一雄の養弟同雄の養叔父なり明治二十年十月を以て生れ後清水家の養子となり大正二年分れて一家を創立す明治四十五年慶應義塾理財科を卒業し現時清水組出資社員にして日本耐火スレート會社社長たる外前記各會社の社長重役其他の要職を兼り八八九六(東京市麹町區三番町八電九段一六二三)

參照清水康雄の項

清水由右衛門

瀧野川種苗園、種子商、東京府在籍

君は東京府人先代由右衛門の長男にして明治七年四月

十日を以て生れ同十六年家督を相続し前名銀次郎を改め義名す種子商を營み瀧野川種苗園を經營す家族は尙五男誠之助(大五、五生)あり長女ふみ(明三一、三生)は神奈川縣人金子謙兵衛孫權に嫁はま(同一五、九生)は同縣人中山平之助に嫁し弟牛三郎(同一八、一一生)は分家せり八八五七B一〇〇(東京市瀧野川區瀧野川町八四電小石川七〇四九)

參照瀧野川銀治郎の項

清水喜重

從四位勳二等功五級、陸軍中將、由良要塞司令官、愛媛縣在籍

君は愛媛縣人清水喜行の二男にして明治十三年十二月を以て生れ同三十五年陸軍士官學校を卒業し翌年陸軍歩兵少尉に任じ昭和八年陸軍中將に果進す其間明治四十四年陸軍大學校を卒業し參謀本部員東京官陸軍歩兵學校教官近衛歩兵第三聯隊長參謀本部課長歩兵第三十三旅團長陸軍士官學校幹事兼教授部長臺灣參謀長等に歴補す現時由良要塞司令官たり藝に歐米を巡遊せり家族は尙女ちか子(昭九、五生)あり長女まさ子(明四一、一一生)は鳥取縣人八原博通に嫁す(兵庫縣津名郡由良町電三六)

清水義雄

從五位、産根高等商業學校教授、東京府在籍

君は新潟縣人清水宜輝の長男にして明治十九年六月を以て生れ同四十五年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し大正十二年産根高等商業學校教授に任ぜられ今日に及ぶ家族は尙三男良作(大七、四生)四男逸三(同一〇、九生)長女恭(同一四、五生)及弟正雄(明二九、一一生、農學士)同妻スヨ(同三八、八生、栃木縣塚本末吉長女)弟輝次(同三四、一〇生、文學士)同妻麗(同三九、八生、富山縣高田國長女)及其子女あり弟小次郎(同二四、一〇生)は同妻セツ(同三二、五生)

新湯、森田鐵三郎長女)を伴ひ分家した姉ス(同一七、一一生)は東京府土族工學士大河内申一に嫁き(同一二、九生)は醫學博士中野等に同(同二六、一一生)は山梨縣人醫學士貴家學等に同(同三二、一一生)は富山縣人醫學士山田秀石に同(同三八、二生)は新潟縣人醫學士倉石文三郎に執れも嫁せり(滋賀縣彦根町彦根高等商業學校内)

清水柳三

東京市世田谷區會議員、地主、東京府在籍

君は東京府人清水桂次郎の三男にして明治十六年四月日を以て生れ同三十八年家督を相続す地主にして世田谷區會議員に推される家族は尙五男省吾(大九、五生)六女常子(同一二、八生)姉ソテ(慶應元、二生)あり同わか(明一九、八生)は東京府人川島庄松に嫁せり(四三三(東京市世田谷區代田二一九八))

清水良策

正五位勳四等、和歌山縣知事、東京府在籍

君は石川縣人清水榮藏の二男にして明治二十六年二月二十七日を以て生れ昭和四年兄來方より分れて一家を創立し大正五年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時和歌山縣知事たり家族は尙長女相子(大九、七生)二女京子(昭二、四生)三女和子(同五、一〇生)あり(和歌山市二番丁官舎)

清水六兵衛

帝國美術院會員、サロン準備員、六兵衛、製菓業、京都府在籍

君は京都府人先代六兵衛の長男にして明治八年三月を以て生れ同十七年家督を相続し號名して前名栗太郎を改む代々製陶業を營み六兵衛と稱し清水焼の本舖として知られ昭和の大禮の際陛下御染筆燒成の光榮に浴し尙縁被褒章を下賜せらる又帝國美術院美術展覽會に工藝部を増設せらる、ヤ其審査員に推され續いて美術院會員仰付けらる又フランス、サロン準備員たり家族は尙四男勇四郎(大四、九生、京都美術工藝學校彫刻科出身、東京美術工藝學校圖案科在學)五男久男(同七、五生、京都美術工藝學校圖案科在學)四女鶴子(同一〇、一一生)孫久仁子(昭四、一〇生、長男正太郎長女同鶴子(同六、一一生、同二女)同滿雅子(同七、九生、同三女)あり長女タエ(明四〇、二生)は徳島縣人醫學博士寺内雪男に嫁せり(京都市東山區五條橋東五ノ四六七電報六九八)

參照北岡猪三郎淡井清之助の項

清水谷實英

從二位勳二等功四級、伯爵、陸軍歩兵中佐、宮中顧問官、舊公卿家

君は福岡縣人清水谷實英の長男にして明治二十五年九月を以て生れ大正六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に日本石油會社に入社したるも後之を辭す大正十一年文官高等試験に合格し翌年高知縣廳に任官幾何もなく三重縣飯沼郡長となり次第青森愛媛各地方事務官を歴任して昭和五年山口縣學務部長となり同年宮城縣學務部長に轉じ現在に及ぶ家族は尙長女和子(大一一、一一生)二男浩昭(明二一、一〇生)二女泰子(同七、六生)の外に弟道運(明二七、三生)同妻カツヨ(同三二、九生)福岡、田島實吉妹)及其子女あり(仙臺市北一番町三三官舎電一三八九)

清水谷徹

從五位、宮城縣書記官、學務部長、福岡縣在籍

君は福岡縣人清水谷實英の長男にして明治二十五年九月を以て生れ大正六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に日本石油會社に入社したるも後之を辭す大正十一年文官高等試験に合格し翌年高知縣廳に任官幾何もなく三重縣飯沼郡長となり次第青森愛媛各地方事務官を歴任して昭和五年山口縣學務部長となり同年宮城縣學務部長に轉じ現在に及ぶ家族は尙長女和子(大一一、一一生)二男浩昭(明二一、一〇生)二女泰子(同七、六生)の外に弟道運(明二七、三生)同妻カツヨ(同三二、九生)福岡、田島實吉妹)及其子女あり(仙臺市北一番町三三官舎電一三八九)

下 喜四郎

下妻多社員、京都府在籍

君は京都府人下喜市の長男にして明治二十三年一月七日を以て生れ現時下妻合名會社社員たり家族は尙二女スミエ(大一一、二生)二男嘉延(同一四、六生)三女富子(昭三、八生)あり姉なつ(明一七、六生)は福井縣人岡本平兵衛長男儀太郎に四女し(同三〇、三生)は兵庫縣人中島吉藏長男方吉に嫁し妹ふい(同二五、一一生)二男嘉(同三九、九生)は各分家せり(三九八(京都市下京區五條通堀川西入電下五一三))

下 長暢

從五位勳六等、特許局技師、特許局抗告審判官、審判部勤務、東京府在籍

君は東京府土族下啓助の三男にして明治二十五年十二月を以て生れ昭和六年家督を相続す大正六年九州帝國大學工科大学應用化學科を卒業し大分縣工業技師を経て大阪アルカリ會社技師となり更に同十年特許局技師に任じ特許局抗告審判官を命ぜられ審判部に勤務し現在に至る讀書旅行に趣味を有す家族は尙長女紀美子(大一一、一一生)二女芳江(同一二、二生)三女静子(同一五、一五年)四女百合子(昭二、二生)二男孝雄(同四年生)あり(東京市大森區入新井六ノ五二電大森三〇九七)

下 秀雄

從五位勳六等、臺灣總督府法院檢察官、高等法院檢察官、山形縣土族

君は山形縣米澤市土族長清の四男にして明治二十六年



八月を以て生る大正七年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官試験となり同年檢察官に任ぜらる...

下飯坂潤夫 院五位勳六等、判事、東京控訴院判事、宮城縣在籍...

下川勝治 三井銀行理事、熊本縣在籍...

下河邊建二 日本産業、日本産業取締役各事務取務役、大阪鐵工所、日立電力、製中央土木、帝國木村、臺灣鐵業各監査役、東京府在籍...

下郷傳平 木層鐵工所、仁壽生命保險株式會社、白品取引所各監査役、下郷共濟會理事長、滋賀縣在籍...

下郷市次郎 京都殖産課監査役、仁壽生命保險株式會社監査員、滋賀縣在籍...

下郷義彦 上毛電氣鐵道監査役、東京府在籍...

下坂藤太郎 東洋海上火災保險、日高各務社長、東京府土族...

下坂八郎 日商電取締役東京支店支配人、東京府在籍...

下里復二 鐵材商在籍、兵庫縣在籍...

下條茂吉 小兒科下條醫院、醫師、東京府在籍...

下條康麿 局總裁、一等、經濟學博士、賞勳、東京府在籍...

下瀬憲造 家主、東京府土族...

シ之部 下(坂、里、條、瀬)

(※印は姻族關係)

下田 歌子

從三位勳三等、愛國婦人會顧問、實踐高等女學校、實踐女子專門學校、順心高等女學校各校長、東京府士族、君は舊讃州岩村藩士平尾録蔵の長女にして...

下田 嘉右衛門

墨屋、染料、工業藥品商、東京府在籍、妻のふ、明一五、七生、東京、岡田久歳長、養子 勇太郎、明二九、一、長女いと夫、新潟...

下田 勝久

正五位勳四等、關東廳高等法院檢察官、高等法院檢察局檢察官、地方法院檢察局檢察官、君は岡山縣人下田松松の三男にして...

下田 寛治

前東邦火災保險會務取締役、熊本縣在籍、妻ハル、明三七、四生、熊本、河原安平長女、男 久輝、明三八、八生、埼玉縣廳勤務、專...

下田 次郎

正四位勳三等、文學博士、東京女子高等師範學校教授、東京府士族、君は廣島縣士族多羅尾篤吉の弟にして...

下田 彦人

三菱銀行參事、小樽支店長、東京府在籍、妻 まち子、明二八、五生、東京、鳥居慶三姉、男 健太郎、明二八、五生、東京、鳥居慶三姉...

下田 守藏

三井銀行參事、東京府在籍、妻 壽滿、明一九、四生、東京、土、波多野、伊政六女

下田 理平太

隈庄町長、熊本縣酒造研究所、長、西海本店、酒造業、地主、熊本縣在籍、妻 ヒサ、明二〇、一、熊本、毛利武次郎、男 貞雄、明四二、九生、女 貞子、明四二、九生...

下田 禮佐

正五位勳六等、廣瀨高等商業學校教授、生徒主事、群馬縣在籍、妻 ちとせ、明二四、二、宮城、堤儀助長女、仙臺第一高女出身

下津 春五郎

南滿洲鐵道參事、鐵路總局總務處長、京都府在籍、妻 八重、明二六、八生、岐阜、山田勤治、男 重、明二六、八生、女 八重、明二六、八生...

下津 利兵衛

下津醬油社長、志摩電氣鐵道取締役、三重縣在籍、妻 こま、明一〇、四、滋賀、山村九郎次、男 謙、明二七、九生、女 好、明四三、六生...

下出 民義

貴族院議員、愛知縣多額納税者、名古屋紡績株式會社社長、仁壽生命保險株式會社取締役、大同電力株式會社取締役、堀川土地株式會社取締役、屋敷株式會社取締役、愛知縣在籍、妻 朝子、明二三、五生、男 義雄、明二三、五生、女 辰三、五生、三男、吉妻、大...

下出 義雄

名古屋商會常務議員、木曾川電力株式會社社長、東海電氣株式會社社長、水島電氣株式會社社長、愛知縣在籍、妻 貞子、明一〇、七生、男 貞雄、明一〇、七生、女 貞子、明一〇、七生...

シ之部 下(野、平、村)

(※印は姻族關係)

シハ〇

下野直太郎

從三位勳二等、商學博士、東京商...

養子

立 明二、八生、長女ひで夫、山梨...

下村延太郎

正四位勳二等功四級、海軍中將...

下村貴志太郎

大府在籍...

下村孝太郎

工學博士、大阪瓦斯、堺瓦斯各務...

下村昇之助

大丸証券取締役...

下村新三郎

土木建築請負業...

下村武十郎

遊藝商...

下村鹿次郎

日本製鋼所取締役、帝國染料...

下村壽一

從四位勳三等、文部省普通學務局...

下村時之助

大阪株式取引所短期取引員...

下村虎六郎

正五位勳五等、陸軍歩兵中尉、大...

下村トミ

資産家...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

下村トミ

兵庫縣在籍...

シ之部 下(村)

(※印は姻族關係)

シハ一

下野直太郎 從三位勳二等、商學博士、東京商...

下村延太郎 正四位勳二等功四級、海軍中將...

下村鹿次郎 日本製鋼所取締役、帝國染料...

下村正助 正五位勳三等、海軍大佐、軍令部...

下村虎六郎 正五位勳五等、陸軍歩兵中尉、大...



謝清海

謝清海 博愛醫院長、醫師
君は臺中州北平郡の出身にして明治二十六年三月二日...

謝清桐

謝清桐 謝裕記主
君は臺北州七星郡の出身にして明治十二年を以て生る...

謝知高

謝知高 元鹽埔區長
君は高雄州の出身にして文久二年二月二十四日を以て...

謝唐山

謝唐山 臺北市醫師會長、順天醫院長、臺
灣醫學士、臺北方面委員、臺中
地方自治聯盟幹事、臺東廳在籍

朱阿貴

朱阿貴 大茅埔公學校長、東勢信用組合長
君は臺中州東勢郡の出身にして明治二十二年三月三日...

謝耀東

謝耀東 鹿港商工會理事長、鹿港漁業組合
理事、水利組合評議員
君は臺中州鹿港郡の出身にして明治三十年七月を以て...

赤土正強

赤土正強 正五位勳四等、福島縣書記官、内
務部長、奈良縣在籍
君は奈良縣人赤土廣三の三男にして明治二十一年八月...

朱榮煥

朱榮煥 從五位勳五等、朝鮮總督府忠清南
道參事官、京畿道在籍
君は京城府南陽郡の出身にして明治十四年五月二十二...

朱再枝

朱再枝 臺北州在籍
君は臺北州鹿港郡の出身にして明治九年を以て生る同...

守隨真一郎

守隨真一郎 臺東廳在籍
君は臺中州鹿港郡の出身にして明治二十三年四月を...

蕭敦仁

蕭敦仁 蕭永富土地信託社長、臺灣青果會
總務、台中信託購買利用組合長、
臺中州青果同業組合副組長
君は臺中州鹿港郡の出身にして明治二十三年四月を...

蕭有源

蕭有源 高雄商女會々長、鼎興隆商行主
君は臺南州の出身にして明治十七年一月二日を以て生...

春藤和

春藤和 三菱銀行鹿港支店長
君は大分縣十族春藤の長男にして明治二十一年二月...

執行作彌

執行作彌 醫學博士、執行病院長、醫師
君は鹿港縣人春尾末吉の三男にして明治二十二年六月...

周錦樹

周錦樹 沙止街協議員、松山德興會取締
役社長、沙止信用組合理事
君は臺北州の出身にして明治十七年を以て生る近郷屆...

周貽楚

周貽楚 東洋拓殖産業監査役
君は臺北州鹿港郡の出身にして明治十七年を以て生る...





シ之部 尙、松(風)

莊(司)

(※印は姻族關係)

九〇

母 百子 明二九、一生、伯爵小笠原長幹妹... 尙 琳 正四位、男爵... 松風 嘉定 松風工業社長、松風陶器製造...

母 ナカ 明五、一生、祖父嘉善長女... 松風 憲二 松風陶器製造社長、松風工業...

九四(東京市板橋區板橋一ノ二四一一電板橋一三三) 莊 清彦 三菱商事社員... 莊 司市太郎 從三位勳二等、工學博士、工業試...

當家は先代寅の立つる所なり寅は舊琉球王侯爵尙泰の... 尙 琳 正四位、男爵... 松風 嘉定 松風工業社長、松風陶器製造...

君は京都府人松風嘉定の弟にして明治二十八年十月を... 松風 憲二 松風陶器製造社長、松風工業...

君は東京府人莊司孝治郎の長男にして明治七年一月を... 莊 司市太郎 從三位勳二等、工學博士、工業試...

申津浦通五ノ六五電土佐堀二〇八三

參照 藤林徳松、山脇房子の項

莊田家は元豊後國臼杵藩主稻葉家の備臣たり先代平五...

君は東京府人莊田平五郎の三男にして同達同平象...

莊田久右衛門

大阪府在籍 妻 明一、一〇生、大阪、山下彦兵衛...

君は山形縣人莊田安太郎の弟にして明治二十八年十月...

君は山形縣人莊田秀雄の長男にして明治十二年四月...

莊田次郎

安田銀行米子支店長 妻 八千枝 忠三、二生、山形、士、江村...

君は山形縣人莊田安太郎の弟にして明治二十八年十月...

君は山形縣人莊田次郎の長男にして明治十二年四月...

莊田泰藏

三菱重工工業技術師、名古屋製作所 妻 賀子 長女...

君は東京府人莊田平五郎の四男にして同達同平象同...

君は山形縣人莊田次郎の長男にして明治十二年四月...

莊田達彌

三菱重工工業技術師 妻 田鶴 安政五、一生、大阪、藤岡正敏長女...

君は東京府人莊田平五郎の二男にして同達同平象同...

君は山形縣人莊田次郎の長男にして明治十二年四月...

莊田平象

前三菱電機商會代表取締役 妻 富 三輪田高女出身...

君は東京府人莊田平五郎の二男にして同達同平象同...

君は山形縣人莊田次郎の長男にして明治十二年四月...

莊田雅雄

日本郵船總大阪支店長 妻 清 明三、二、一生、東京、潮田勢吉...

君は東京府人莊田平五郎の三男にして同達同平象...

君は東京府人莊田平五郎の三男にして同達同平象...

莊田安太郎

正五位勳五等、東京女子高等師範 妻 千代 安政五、一生、米澤、奥野倉藏...

君は山形縣人莊田安太郎の弟にして明治二十八年十月...

君は山形縣人莊田安太郎の弟にして明治二十八年十月...

莊田和作

三井礦山三池染料工業所長、工 妻 松 明三、七、一生、東京、屬最吉長女...

君は山形縣人莊田和作の長男にして明治二十二年...

君は山形縣人莊田和作の長男にして明治二十二年...

シ之部 莊(田、原)

(※印は姻族關係)

九一





月を以て生れ昭和三年家督を相続す大正二年中央大學を卒業し現時三和銀行問屋橋支店長たり家族は尙二女澄子(大一一、一一生)三女和子(昭二、一一生)弟龍三(昭三七、二生)あり(西宮市荒成町七九電二六九)

城谷忠三郎

帝國生命保險取締役  
東京府在籍

妻 須喜 明九、七生、岡山、中村富郎二女  
男 晴夫 明三九、一一生  
男 和枝 大元、一一生、二男晴夫妻、岡山  
男 加壽雄 明四一、一〇生  
男 正雄 明四三、七生

君は京都府人朝安往平の三男にして明治三十年十月二十日を以て生れ先代清助の養子となり同十七年家督を相続す現時帝國生命保險取締役たり家族は尙孫恭子(昭九、四生、二男晴夫妻)あり長女富美子(昭三三、四生)は茨城縣人渡邊寧子に二女敏子(昭三三、八生)は岡山縣人川合信に三女壽子(昭三五、五生)は同縣人水川淳に四女淑子(昭四四、二生)は北海道人藤田正人に嫁せりA二九八八(東京市大森區新井宿三ノ一三二四ノ二電大森五六九)

城野伊三郎

吉見紡織非常取締役  
大阪府在籍

妻 ことゝ 明一三、二生、大阪、西尾正次郎  
男 伊右衛門 明三二、一一生  
男 増子 明三六、一一生、長男伊右衛門妻、大阪、森本仁平長女

君は大阪府人城野伊三郎の長男にして明治八年十二月を以て生れ同二十九年家督を相続す父に泊雲塾に學び織物工業を習み現時前記會社の重役たり家族は尙二女てる(大一一、一一生)孫伊一(昭一五、一〇生)、長男伊右衛門(昭四四、九生、同二男)あり長女とし(昭三四、五生)は大阪府人寺田伊之助長男忠一に妹は(昭一一、一一生)は兵庫縣人寺田定藏に嫁し二男敬太郎(昭三五、七生、青山學院高等商業部出身)は同縣人覺心平十郎に四男安史郎(昭三九、七生、大阪藥學專門學校出身)は外戚西尾正次郎に各養子と

なり三男和郎(昭三六、一一生、京大出身)弟龜之助(昭一五、三生)岡吉太郎(昭一七、一一生)は各分家し姉壽美恵(昭六、八生)同夫延十郎(慶應三、一一生、大阪、城野久七郎弟)も亦其一子を作り分家せり(大阪府泉南郡津井村二八一)  
參照 覺心平十郎の項

城野政七郎

從五位勳五等、判事、水戸區裁判所監督判事、栃木縣在籍

妻 ケイ 明二二、三生、栃木、大橋啓次郎  
男 政夫 明四五、一一生、日大在學  
男 俊夫 大八、二生、水戸宮中學校出身  
女 綾子 大八、二生、水戸宮中學校出身

君は栃木縣人にして明治十年二月十一日を以て生れ同三十七年明治大學法律科を卒業し大正四年判事登用試験に合格直に司法官試補となり同六年判事に任ぜらる爾來横濱地方裁判所並横濱濱松縣新田各區及び新潟地方裁判所判事同區裁判所宇都宮區裁判所所屬監督判事を經て現時水戸區裁判所監督判事たり家族は尙三男操(大一一、二生)其他二女ありA一〇(水戸市水戸區裁判所内)

城福松太郎

家主  
大阪府在籍

妻 みつゑ 明一二、二生、大阪、土、吉田博  
男 傳太郎 明三〇、一一生  
男 光 明三七、三生、二男傳太郎妻、奈良、本田友治郎長女  
女 美賀子 大元、一一生

君は大阪府人城福松太郎の二男にして明治六年五月を以て生れ同十三年兄榮三郎の養子となり家督を相続す主たり家族は尙孫一男(昭七、七生、二男傳太郎妻)同敏子(昭五、二生、同二女)同廣子(昭九、八生、同三女)あり四男國康(昭三五、九生)は大阪府人城福マサの死跡を相続し長女龜子(昭三八、一一生)は大阪府人井原榮治に二女長子(昭四三、九生)は同府人奥野信一に嫁し三男龜松(昭三三、六生)姉マサ(慶應元、一一生)は分家せりA七六三(大阪府天王寺區東平野一ノ二六)

城間宏起

神戶縣多額納稅者、酒造業  
神戶縣在籍

妻 マカ 文久元、一一生、神戶、大城加目  
男 宏忠 明二八、一〇生  
男 安忠 明二七、一一生、長男宏忠妻、神戶、大城松長女  
女 カマ 明八、一一生  
女 カツ 明八、三生、長男宏忠長女

城村信太郎

鳥利、鶏肉商  
兵庫縣在籍

妻 一 榮 明一八、四生、大阪、城村龜吉長  
男 信一 明四一、六生  
男 壽々子 明四五、三生、長男信一妻、兵庫、武知浩藏三女  
女 清 明四四、五生  
女 文子 大八、一〇生  
女 惠美子 大八、一〇生

君は大阪府人城村信太郎の二男にして明治十六年一月一日を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す鳥利と稱し鶏肉商を營む家族は尙四女美枝子(昭三、六生)孫壽美子(昭七、七生、長男信一妻)ありA二六二B一五二(神戸市下山手通二ノ三〇電養合二四六九)

淨法寺五郎

從三位勳二等功三級、陸軍中將  
東京府在籍

妻 ヒロ 明一〇、四生、茨城、立川直行三  
男 圭 明三二、三生、安田銀行員、法學士

饒永昌

風林區長、花蓮港產案專務取締役  
無黨、花蓮港電氣取締役、東臺灣道組組長、風林信用組理事、水新竹州在籍

妻 ワイ 明二四年生、山口高女出身  
男 正太郎 大元年生、早稻田大學政治經濟科在學

君は栃木縣土族淨法寺の二男にして慶應元年四月二十八日を以て生れ明治三十九年明三夫方より分れて一家を創立す同二十年陸軍歩兵少尉に任じ大正六年陸軍中將に昇進す其間參謀本部出仕同員獨逸駐在團第十使館附士官參謀本部附陸軍大學校教官兼元帥副官第七第一各師團參謀長歩兵第二十九旅團長青島守備軍參謀長歩兵第十旅團長近衛歩兵第二旅團長陸軍大學校長東宮御學問所評議員第二師團長等に歴補大正十一年豫備役昭和三年後備役に編入せらるる家族は尙孫章(昭三、一一生、長男圭妻)ありA一〇(東京市淀橋區柏木四ノ八九〇)  
參照 三川島令次郎の項

白井一郎

ヤマト醬油代表取締役、熱海埋立、警備事務各取締役  
福島縣在籍

妻 博之 明二、一一生、現戶主  
男 千代 明三三、一一生、宮路徳次郎四女  
男 順一 大元、九生

君は愛知縣人服部勝藏の三男にして明治三年九月を以て生れ先代當三郎の養子となり大正元年家督を相続す現に豊橋商工會議所議員豊橋信用組監事たり家族は尙七男千代次(大五、七生)孫一子(昭一三、一一生、長男一雄長女)同ふみ子(昭一四、一一生、同二女)同孝治(昭四、三生、同長男)あり二女清子(昭三九、一一生)は愛知縣人伊藤伊之助長男信一に三女惠都子(昭四三、五生)は静岡縣人本間春己に嫁せり(豊橋市西八町六五電五三九五)  
參照 伊藤伊之助の項

白井卯助

池原支店、洗濯業  
東京府在籍

妻 い 勢 明一五、二生、東京、岡田鑑治郎  
男 定之 明四二、一一生  
男 まさ子 明四〇、一一生、三男定之妻、静岡、土、谷秀雄妹  
男 英司 明四四、三生  
男 與此雄 大八、六生  
女 秀子 大八、六生

君は愛知縣人白井幸兵衛の二男にして明治十五年九月三十日を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す池原支店と稱し洗濯業を營む家族は尙六男孝之(大四、一〇生)七男直治(同六、三生)八男一遣(同一〇、七生)

白井榮太郎

醫師商  
大阪府在籍

妻 イト 明二七、三生、大阪、赤穂伊三郎  
男 幹太郎 大九、六生

白井勝治

三河燃料社長、マルケイ東海倉庫、無責任社員、愛知縣在籍

妻 と き 明六、一一生、養父直次長女  
男 晋介 明四〇、六生、經濟學士  
男 と き 明四二、二生、二男晋介妻、静岡、杉浦芳郎姉

君は愛知縣人富安三郎の二男にして同慶次の弟同謙次杉田富の兄に當る明治四年三月を以て生れ白井直次の養子となり大正八年養弟彌吉方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして借地借家及商事調停委員たり兼に東三生絲製造同業組合長愛知縣生絲製造同業組合聯合會長豊橋商工會議所議員に推さるA二一六八(豊橋市札木町四三電四二六八)  
參照 杉田富、富安謙次、富安廣次の項

白井規一

正五位勳五等、元山中學校長  
新潟縣在籍

妻 ミヨシ 明二四、六生、新潟、中村清作女  
男 芳朗 明四二、一一生、京城帝大在學

君は新潟縣人白井清吉郎の二男にして明治十二年九月を以て生れ大正九年兄文一方より分れて一家を創立す

明治四十年廣島高等師範學校を卒業し更に同校研究科に学び教育學及心理學を専攻す同四十四年同校調導兼...

白井 喬二

(井上義道) 鳥取縣土族 著述業 安政六、一、一、鳥取、主、谷口忠英長女...

白井 源七

白米商 東京府在籍 明一七、五、五、東京、武藤清太郎...

白井 源七

白米商 東京府在籍 明一七、五、五、東京、武藤清太郎...

白井 源七

白米商 東京府在籍 明一七、五、五、東京、武藤清太郎...

白井 源七

白米商 東京府在籍 明一七、五、五、東京、武藤清太郎...

白井 源七

白米商 東京府在籍 明一七、五、五、東京、武藤清太郎...

白井 源七

白米商 東京府在籍 明一七、五、五、東京、武藤清太郎...

君は東京府人白井佐吉の長男にして明治十三年二月を以て生れ大正六年家督を相続す白米商を營む家族は尙...

白井 五郎

三門商會代表社員 神奈川縣在籍 明一六、八、八、山形、寺島大浩長...

白井 幸助

新歌舞伎座取締役、石川組製練所監査役、白井興茶店主、靜和園、茶商、東京府在籍...

白井 忠吉

從五位勳六等、判事、廣島控訴院 判事、新潟縣在籍...

白井 忠三郎

小大丸、白井吳服店、吳服商 大阪府在籍 明二六、二、二、生、養父忠三郎長女...

白井 忠治

齒科醫師、藥劑師 大阪府在籍 明三八、四、四、生、愛知、近藤房市長...

白井 忠治

齒科醫師、藥劑師 大阪府在籍 明三八、四、四、生、愛知、近藤房市長...

從四位勳三等、判事、岐阜地方裁判所長、愛知縣在籍...

白井 茂

從五位勳六等、選信局書記官、廣島選信局監督課長、群馬縣土族...

白井 修一

從五位勳六等、選信局書記官、廣島選信局監督課長、群馬縣土族...

白井 九郎

兵庫縣在籍 兵庫縣在籍 明一五、七、七、生、兵庫、岡治政吉二...

白井 忠治

齒科醫師、藥劑師 大阪府在籍 明三八、四、四、生、愛知、近藤房市長...

白井 忠治

齒科醫師、藥劑師 大阪府在籍 明三八、四、四、生、愛知、近藤房市長...

白井 忠治

齒科醫師、藥劑師 大阪府在籍 明三八、四、四、生、愛知、近藤房市長...

國稅千七百四圓を納め縣下の多額納稅者たり二女コト...

白井 彦八

君は東京府人先代彦八の四男にして大正二年十月を以て...

白井 博之

君は東京府人先代彦八の長男にして同五年近藤利兵衛の...

白井 博之

君は東京府人先代彦八の長男にして同五年近藤利兵衛の...

白井 博之

君は東京府人先代彦八の長男にして同五年近藤利兵衛の...

白井 博之

君は東京府人先代彦八の長男にして同五年近藤利兵衛の...

(同三九、一)は同府人杉田敬一郎長男武雄に嫁し弟...

白井 松次郎

君は京都府人先代松次郎の兄にして明治十年十二月を以て...

白井 巳之吉

君は石川縣人先代巳之吉の三男にして明治十四年三月を以て...

白井 龍一郎

君は東京府人先代龍一郎の長男にして明治二十五年八月を以て...

白井 利一

君は愛知縣人先代利一の長男にして明治十四年七月を以て...

白井 龍一郎

君は東京府人先代龍一郎の長男にして明治二十五年八月を以て...

白石 勳

君は神奈川縣人白石金太郎の長男にして大正十年十月二十五日を以て...

白石 勝彦

君は愛知縣人白石牛助の三男にして同房次郎の弟なり...

白石 喜太郎

君は高知縣人先代喜太郎の長男にして明治二十年一月を以て...

白石 元治郎

君は新潟縣人先代元治郎の弟にして慶應三年七月二十一日を以て...

白石 甚兵衛

君は東京府人先代甚兵衛の長男にして元治元年十二月二十七日を以て...

白石 誠夫

君は愛知縣人白石清藏の三男にして明治十五年十二月を以て...

其二男第三子(同二〇、八生)同妻イシ(同二四、一一生、備本、甲斐俊一姉)及び其子女あり姉イタ(同一二、五生)は愛媛縣人、三郎に嫁せり(吳守府府建築部内)

白石多土良 小松製作所(採取給役) 東京府士族 慶應元、九生、元衆議院議員竹内明太郎妹

白石琢二 羽毛工業、三惠製作所各採取給役社長、山元オブライト採取給役社長、昭和三十二年、東京府在籍

白石辰男 白石商會社社長、鹽釜仲仕組(採取給役) 宮城縣在籍 五郎長女、四生、宮城、士、木村忠

白石恒二 白石工業常務取締役兼技師長 廣島縣在籍 明二六、五生、廣島、士、竹内勝

白石通則 正四位勳二等功五級、陸軍中將 愛媛縣士族 嘉永六、一〇生、愛媛、田坂瀧治

白石萬吉 白石甚兵衛商店副社長 東京府在籍 元治元、一〇生、現戶主

白石龍平 東亞興業、山東興業各採取給役、帝國ホテル監査役、東亞同文會理事長、東京府在籍

白石雅彦 網敷天神社々司 大阪府在籍 萬延元、四生、祖父芳重長女

白石恒二 白石工業常務取締役兼技師長 廣島縣在籍 明二六、五生、廣島、士、竹内勝

白石通則 正四位勳二等功五級、陸軍中將 愛媛縣士族 嘉永六、一〇生、愛媛、田坂瀧治

白石萬吉 白石甚兵衛商店副社長 東京府在籍 元治元、一〇生、現戶主

白石辰男 白石商會社社長、鹽釜仲仕組(採取給役) 宮城縣在籍 五郎長女、四生、宮城、士、木村忠

白石恒二 白石工業常務取締役兼技師長 廣島縣在籍 明二六、五生、廣島、士、竹内勝

白石通則 正四位勳二等功五級、陸軍中將 愛媛縣士族 嘉永六、一〇生、愛媛、田坂瀧治

白石萬吉 白石甚兵衛商店副社長 東京府在籍 元治元、一〇生、現戶主

白石龍平 東亞興業、山東興業各採取給役、帝國ホテル監査役、東亞同文會理事長、東京府在籍

白石雅彦 網敷天神社々司 大阪府在籍 萬延元、四生、祖父芳重長女

白石貞二 埼玉縣多額納稅者、農業 埼玉縣在籍 文久二、二生、埼玉、濱田清左衛門

白石禎美 福島縣多額納稅者、福島縣銀行採取給役 福島縣在籍 明二三、二生、栃木、山田忠吾長

白石龍平 東亞興業、山東興業各採取給役、帝國ホテル監査役、東亞同文會理事長、東京府在籍

白石辰男 白石商會社社長、鹽釜仲仕組(採取給役) 宮城縣在籍 五郎長女、四生、宮城、士、木村忠

白石恒二 白石工業常務取締役兼技師長 廣島縣在籍 明二六、五生、廣島、士、竹内勝

白石通則 正四位勳二等功五級、陸軍中將 愛媛縣士族 嘉永六、一〇生、愛媛、田坂瀧治

白石萬吉 白石甚兵衛商店副社長 東京府在籍 元治元、一〇生、現戶主

白石龍平 東亞興業、山東興業各採取給役、帝國ホテル監査役、東亞同文會理事長、東京府在籍

白石雅彦 網敷天神社々司 大阪府在籍 萬延元、四生、祖父芳重長女

白石房次郎 東海養魚採取給役、白石商店、貿易商、愛知縣在籍 明一四、三三、愛知、平子徳右衛門

白石政太郎 大鐵、浦鋒商 東京府在籍 明七、一三、埼玉、野村和三郎長

白石恒二 白石工業常務取締役兼技師長 廣島縣在籍 明二六、五生、廣島、士、竹内勝

白石通則 正四位勳二等功五級、陸軍中將 愛媛縣士族 嘉永六、一〇生、愛媛、田坂瀧治

白石萬吉 白石甚兵衛商店副社長 東京府在籍 元治元、一〇生、現戶主

白石龍平 東亞興業、山東興業各採取給役、帝國ホテル監査役、東亞同文會理事長、東京府在籍

白石雅彦 網敷天神社々司 大阪府在籍 萬延元、四生、祖父芳重長女

**白尾 豊策**  
住友銀行本店營業部部長  
石川縣在籍  
妻 よね 明三三、一三二生、石川、通善直次郎二女、石川縣立第一高等女學校出身  
男 徹郎 六一、一五生  
君は石川縣人今井藤松の三男にして明治二十七年五月を以て生れ大正六年先代よねの入夫となり家督を相続す同年東京高等商業學校を卒業し直に住友銀行に入り東京港ロスマンセルス各支店勤務を経て同行香港支店長兼ロスマンセルス支店長たりしも現時住友銀行本店營業部部長たり家族は尙長女徹子(昭三、四生)二女友子(同七、八生)ありA一七〇(西宮市森具町北蓮毛八四七ノ三四)

**白方 一**  
從五位勳五等、判事、東京控訴院判事、愛媛縣在籍  
妻 龜太郎 文久三、八生、現戸主  
男 龜子 明三七、六生、愛媛、二宮光太郎  
女 逸子 六一、一三、二生  
君は愛媛縣人高橋爲藏の四男にして明治二十三年十月を以て生れ大正六年白方龜太郎の養子となる同年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し翌年判事に任ぜられ横濱地方兼同區東京地方兼同區各裁判所判事及東京地方裁判所部長東京控訴院判事等に歴任し東京地方裁判所部長たりしが昭和九年九月東京控訴院判事に補せられ現在在り及ぶ家族は尙三女美和(昭四、五生)あり(東京市大森區田園調布三ノ三二三)

**白神 壽吉**  
正五位勳五等、大邱女子高等普通學校校長兼教諭、岡山縣在籍  
妻 三千代 明一四、九生、岡山、大村龜三郎長女  
男 英夫 明四二、四生、岡山、赤木萬二郎三男、朝鮮殖産銀行勤務、京都帝大出身  
君は岡山縣人白神太吉の長男にして明治十三年五月を以て生れ同四十年家督を相続す大正六年廣島高等師範學校教育科を卒業し同年新潟縣長岡女子師範學校教諭となり爾來南浦平壤各高等女學校校長兼教諭朝鮮總督府編修官京城師範學校教諭兼京城師範學校附屬小學校及普通學校主事等を経て大邱女子高等普通學校校長兼教諭に任ぜられ今日に至る(大邱府大邱女子高等普通學校内)

**白銀市太郎**  
勳七等、朝鮮電氣、南朝鮮電氣各社取締役、山口縣在籍  
妻 ヤス 明二〇、五生  
男 朝則 明二〇、五生  
男 義方 明二六、五生、正六位、勳六等、陸軍歩兵少佐、參謀本部兼科學研究所付  
女 益枝 明三九、一五生、二男義方妻、山口佐々木直二女  
君は山口縣人白銀市太郎の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し稅務監督局屬關稅司稅官に任じ同年水道橋稅務署を経て同七年法制局參事官に任じ同年行政裁判所評定官に任じ同九年法制局參事官に任じ同年行政裁判所評定官に任じられ今日に至る家族は尙長女淑子(大九、一五)二女千代子(同二五、四生)あり(東京市杉並區阿佐ヶ谷一ノ七四三電氣三五六三)

**白銀朝則**  
從四位勳三等、行政裁判所評定官、山口縣在籍  
妻 市太郎 元治元、九生、現戸主  
父 明二七、四生、東京、入山庄三郎長女、龜町高女出身  
君は山口縣人白銀市太郎の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し稅務監督局屬關稅司稅官に任じ同年水道橋稅務署を経て同七年法制局參事官に任じ同年行政裁判所評定官に任じ同九年法制局參事官に任じ同年行政裁判所評定官に任じられ今日に至る家族は尙長女淑子(大九、一五)二女千代子(同二五、四生)あり(東京市杉並區阿佐ヶ谷一ノ七四三電氣三五六三)

**白川 資長**  
從三位勳四等、子爵、貴族院議員、神社制度調査會委員、舊公卿家  
妻 リウ 盛容長女  
君は花山院の皇長子正清親王の子延信王の後なり延信王神祇伯に任ぜられ爾來世々之を繼承し且賢所を管掌したり後源姓を賜ひたれど又直ちに王氏に復し維新迄は唯一の王家なりき故に世々神祇伯王家と稱せり千有餘年三十有餘世を経て資長王に至り維新の時王號を返上して華族に列せられ明治十七年子爵を授けらる君は資長王の長男にして明治三十一年十二月二十八日を以て生れ同三十九年襲爵付けらる同三十八年東京外國語學校佛語科を卒業し更に東京帝國大學文科大學に學ぶ大正三年名譽學士に任じ貴族院議員に當選する事三回研究會所屬にして神社制度調査會委員に推される皇典に關する古書古文書を藏する事多し斯學に對する造詣最も深し(東京市澁橋區西大久保一ノ四二電氣四五七)

**白銀市太郎**  
勳七等、朝鮮電氣、南朝鮮電氣各社取締役、山口縣在籍  
妻 ヤス 明二〇、五生  
男 朝則 明二〇、五生  
男 義方 明二六、五生、正六位、勳六等、陸軍歩兵少佐、參謀本部兼科學研究所付  
女 益枝 明三九、一五生、二男義方妻、山口佐々木直二女  
君は山口縣人白銀市太郎の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し稅務監督局屬關稅司稅官に任じ同年水道橋稅務署を経て同七年法制局參事官に任じ同年行政裁判所評定官に任じ同九年法制局參事官に任じ同年行政裁判所評定官に任じられ今日に至る家族は尙長女淑子(大九、一五)二女千代子(同二五、四生)あり(東京市杉並區阿佐ヶ谷一ノ七四三電氣三五六三)

**白川 朋吉**  
大阪市會議長、大牟田電氣軌道、阪神土地建物、琴平參宮電氣鐵道、建設、辯護士、大阪府在籍  
妻 マスエ 明二〇、一五生、大阪、山川萬助二女  
君は香川縣人白川春造の弟にして明治六年十二月を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す夙に大阪に出で道具商岩崎商店に勤務し傍ら關西大學法科に學び更に上京して同三十一年中央大學を卒業し辯護士試験に及第す後再び大阪に來り獨立して辯護士を開業す主として民事及商事案件に力を注ぎ關西法曹界に名をなすとす市政に參畫して屢々市會議員に選ばれ幾に與望をなす及び市會議長に擧げられ現に其職に在る傍ら前記諸會社の重役を兼り書畫を愛玩すA五二八(大阪市東區北濱町四ノ二三電本局一六三三)

**白洲 文平**  
農園及牧場主、兵庫縣在籍  
妻 よし 明七、八生、神奈川、原由藏妹  
男 尚藏 明三〇、二生、英國劍橋大學出身  
男 大郎 明三五、二生、セルル商會勤務、英國劍橋大學出身  
女 正子 明四三、一五生、二男次郎妻、伯爵  
女 三子 明四四、七生、聖心女學院出身  
女 演子 明四四、八生、生母、大阪、高木ム  
君は舊攝津國三田藩家老白洲退藏の長男にして明治二年四月を以て生れ同二十四年家督を相続す紳商を營みしが現時佐賀縣に農園及牧場を經營す兼に大阪三品取引所取引員たり將棋に趣味を有す家族は尙妹三子(明一六、一二生)あり二女福子(同三七、五生、神戸女學院出身)は兵庫縣人上西龜之助長男五郎に嫁し弟長平(同六、八生)は分家せり 兵庫縣川邊郡伊丹町北村二五六電六七  
參照 伯爵山愛輔近藤源治の項

**白木周次郎**  
愛知縣多額納稅者、名古屋商工會愛知縣在籍  
妻 のぶ 明一七、一〇生、愛知、杉本九兵衛妹  
男 忠夫 明四一、三生  
男 八重子 明四四、七生、長男忠夫妻  
女 梅夫 明四四、五生  
女 利子 大五、三生  
女 萬利子 大七、九生  
君は愛知縣人白木梅吉の男にして明治十年七月を以て生れ同二十年家督を相続す旅館を經營しシナ忠旅館として其名を知らる愛知縣多額納稅者にして直接間稅千九百二十三圓を納め名古屋商工會議所議員に推される兼に名古屋市會副議長たりし事あり家族は尙八女久捷(大一一、七生)四男信平(同一一、一五生)あり長女捷子(明三七、六生)は愛知縣人杉本久吉に二女園子(同三三、九生)は同縣人井上敬三に四女由利子(大一二、六生)は愛知縣人後藤新一に嫁し三女鈴子(同四〇、一五生)は同夫秀次郎(同三六、四生、京都、井上清次郎三男)と共に分家せり(名古屋市中區福宜町五ノ一〇二電西二五二〇)

**白城 定一**  
衆議院議員(愛媛縣選出)、白城憲代表社員、兵庫縣在籍  
妻 みき 明三一、八生、神奈川、萩田龜次郎長女  
男 健一郎 大〇、四生  
女 孝子 大八、九生  
君は愛媛縣人白城次郎の弟にして明治二十年四月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す夙に横濱石炭商會社員となり爾後山下汽船會社取締役同常務取締役山下合名會社理事尼ヶ崎製糖會社監査役阪神製糖會社取締役を歴任す次で白城合名會社を創立し其代表社員に就任し今日に至る昭和七年總黨より推されて衆議院議員に當選し現に立憲政友會に屬す家族は尙二女圭子(大一二、四生)四女郁子(同一一、一五生)五女修子(同二二、三三)三男慎之輔(同四、二生)あり三女美代子(大一一、一〇生)は山口縣人崎谷正輔に二男孝(同二五、七生)は東京府人西條浪代に夫々養子となれりA一九八(東京市赤坂區水川町四五電青山二九)

**白須 金三郎**  
金融業、東京府在籍  
妻 秀一郎 明二七、九生  
男 明二九、二生、長男秀一郎妻、神奈川、酒井庄藏五女  
君は舊攝津國三田藩家老白洲退藏の長男にして明治二年四月を以て生れ同二十四年家督を相続す紳商を營みしが現時佐賀縣に農園及牧場を經營す兼に大阪三品取引所取引員たり將棋に趣味を有す家族は尙妹三子(明一六、一二生)あり二女福子(同三七、五生、神戸女學院出身)は兵庫縣人上西龜之助長男五郎に嫁し弟長平(同六、八生)は分家せり 兵庫縣川邊郡伊丹町北村二五六電六七  
參照 伯爵山愛輔近藤源治の項

**白木 正博**  
正五位勳四等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務  
妻 鐵平 萬延元、七生、現戸主  
父 文久二、一二生、長野、小穴亮一  
母 明二八、一五生、長野、青柳玉彦  
妹、松本高女出身  
君は長野縣人白木鐵平の長男にして明治十八年十一月を以て生れ同四十四年東京帝國大學醫學科大學を卒業し同校の助手講師を経て財團法人泉橋慈濟醫院婦人科部長となり次で東京帝國大學助教授に任ぜられ大正十年醫學博士の學位を授けらる同十一年産科婦人科醫學研究會の爲獨逸佛各國に留學す歸朝後九州帝國大學教授に就任し現時醫學部に勤務し婦人科醫學、レ線操作之基礎の「白木助産婦學」子宮輪郭管造影術、子宮外妊娠の「診斷」、愛媛川助産學、大、産科治療技術等々の著書あり家族は尙二男博次(大六、一〇生)弟武夫(明二五、八生)同妻とよ(同二九、一五生)、長野、小澤英吾妹(あり叔母)(同二、六生)は長野縣人池上定衛弟良三に同(同七、六生)は同縣人青柳貞七に嫁し弟六雄(同三三、一五生)は同縣人宮坂久松に同(同三三、一五生)は同縣人渡邊玄信に各養子となれり(福岡市島崎町三ノ四九〇)

**白澤 保美**  
正三位勳二等、林學博士、前林業試驗場長、長野縣在籍  
妻 さた 明七、四生、故農學博士稻垣乙丙妹  
君は長野縣人白澤次郎の弟にして明治二十年四月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す夙に横濱石炭商會社員となり爾後山下汽船會社取締役同常務取締役山下合名會社理事尼ヶ崎製糖會社監査役阪神製糖會社取締役を歴任す次で白城合名會社を創立し其代表社員に就任し今日に至る昭和七年總黨より推されて衆議院議員に當選し現に立憲政友會に屬す家族は尙二女圭子(大一二、四生)四女郁子(同一一、一五生)五女修子(同二二、三三)三男慎之輔(同四、二生)あり三女美代子(大一一、一〇生)は山口縣人崎谷正輔に二男孝(同二五、七生)は東京府人西條浪代に夫々養子となれりA一九八(東京市赤坂區水川町四五電青山二九)

**白須 金三郎**  
金融業、東京府在籍  
妻 秀一郎 明二七、九生  
男 明二九、二生、長男秀一郎妻、神奈川、酒井庄藏五女  
君は舊攝津國三田藩家老白洲退藏の長男にして明治二年四月を以て生れ同二十四年家督を相続す紳商を營みしが現時佐賀縣に農園及牧場を經營す兼に大阪三品取引所取引員たり將棋に趣味を有す家族は尙妹三子(明一六、一二生)あり二女福子(同三七、五生、神戸女學院出身)は兵庫縣人上西龜之助長男五郎に嫁し弟長平(同六、八生)は分家せり 兵庫縣川邊郡伊丹町北村二五六電六七  
參照 伯爵山愛輔近藤源治の項

**白須慶憲** 東京商業銀行常務取締役、パグ族各系取締役、山梨縣在籍  
 父 慶 仲 文久三、九生、現居山梨  
 母 慶 子 明二七、一、山梨、若尾保重郎  
 養子 義 雄 大九、二生、神奈川、松義幹二孫  
 君は山梨縣人白須慶仲の長男にして明治十八年二月三日を以て生れる現時前記銀行會社の重役たり家族は尙弟純臣(明二八、五生)同政宣(同三九、二生)あり妹あり(同二一、三三)は山梨縣人磯田磯田(同二二、二二)は同縣人若尾慶長男若尾保重郎に養子よし(同三、七生)は同縣人小澤國藏に叔母に(同八、六生)は同縣人板倉平市長男太郎に同(同三、四生)は同縣人小林久式に嫁し弟地利(同三三、四生)は東京府人平沼ていの入夫となり妹あり(同三四、二生)は分家せり(東京市中野區塔山三三電四谷五一〇八)

**白杉次郎太郎** 從四位勳四等、鬼怒川水力電氣株式會社理事、鐵道同人監事  
 父 武 子 明一〇、一二生、京都、士、富島  
 母 政 信 明三三、六生  
 養子 三 郎 明三八、一〇生、兵庫、吉原清三  
 養子 泰 子 大 三、三三、京都、菅谷義三郎三女  
 君は大阪府人白杉幸助の長男にして明治九年八月を以て生れ同三十五年家督を相続す現時大林組常務取締役たる外前記各會社の重役たりA一九三(兵庫縣武庫郡魚崎町一〇〇電御影二五二五)  
 參照 須之内啓二郎の項

**白勢量作** 新潟商工會議所會頭、共濟火災保險會社社長、新潟電力株式會社社長、津島倉庫、新津電力、昭和肥料、電力、今津電力、田澤湖電力、各系取締役、佐渡汽船、金澤湖汽船、白勢監理事、新潟縣在籍  
 父 春 三 文久二、一二生、現居山梨  
 母 三 郎 明二二、一〇生、新潟、石黒忠三  
 養子 一 大 二、一〇生  
 養子 二 明 四、四生  
 君は新潟縣人白勢春三の長男にして同二期の養子なり明治十六年十二月を以て生れる同四十二年東京帝國大學法政學科を卒業し現時前記各會社の重役たり推されて新潟商工會議所會頭たり家族は尙二男あり(大五、二生)三女あり(同二一、四生)四女あり(同二二、五生)五女あり(同二二、四生)あり(新潟市本町通八番町三〇電一〇九四)  
 參照 池田文蔵、白勢量作、眞島桂次郎、宮永忠司の項

**白勢黎吉** 正四位勳三等、前臺灣總督府交通局長、新潟縣在籍  
 妻 や き 明二一、六生、北海道、中田新藏  
 養子 一 大 三、一〇生  
 養子 二 明 四、一〇生  
 君は新潟縣土族今井文三の二男にして明治十六年三月を以て生れ後白勢家の養子となり家督を相続す同四十二年東京帝國大學法政學科を卒業し文官高等試験に合格し臺灣總督府鐵道部書記官同府事務官同府交通局長兼鐵道部長兼總務課長に歴任し同府交通局長たりし退官し現時臺灣青果會社に勤務す同大正十年命に依り歐米各國に出張せる事あり家族は尙二男承二(大四、七生)三男光三(同六、六生)三女節子(同九、八生)四男成生(同四、六生)あり(臺中市村上町一〇九)

**白勢春三** 勳四等、貴族院議員、新潟商工會議所顧問、新潟縣多額納稅者、第四銀行、新潟貯蓄銀行各系頭取、新津倉庫、日本石油、愛隣社各系取締役、白勢代表社員、新潟縣在籍  
 妻 ハ ナ 慶應二、六生、新潟、島山敬徳四女  
 養子 量 作 明一六、一二生  
 君は新潟縣人白勢春三の長男にして明治二十年四月を以て生れ昭和五年家督を相続す先是大正三年東京帝國大學法政學科を卒業し三菱銀行に入り船場中之島支店長代理を経て現時同行理事に擧げられ船場支店長たり家族は尙長女綾(大一一、一〇生)御茶の水高女(在學)二女光(同二二、九生)三女信(昭二、五生)二男實(同四、九生)妹シナ(明二四、八生)弟修一(同三六、一〇生)大阪、機械工作所員、工學士、同後雄(同三九、六生)濱松高工出身、同恒夫(同四三、八生)ありA三八八(東京市本郷區駒込曙町一電大塚五七一八)  
 參照 寺垣猪三、三子爵田村不顯、藤原雄、米村修三、三兒玉孝顯の項

**白鳥敏夫** 正五位勳三等、特命全權公使、瑞典駐劄公使、千葉縣在籍  
 妻 君 文 三、一〇生、東京、士、大島  
 養子 一 大 一、三、七生  
 君は千葉縣人白鳥敏の二男にして同倉吉子爵石井菊次郎の甥に當る明治二十年六月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年外交官及領事官試験に合格し同三年東京帝國大學法政學科を卒業し領事官補外官官補大使館三等書記官外務事務官公使館二等書記官外務書記官大臣官房文書課長に歴任し支那香港米國等に在勤し同十五年獨逸大使館一等書記官となり昭和四年外務書記官情報部第二課長兼第三課長に任じ同五年情報部長に進み同八年現職に轉ず義にラントン會議に全權委員となり昭和二年ジュネーブに於ける海軍軍備制限會議の委員となり(一)家族は二男正人(大一一、一〇生)長女さ(同一一、一〇生)三男澤三(昭四、二生)弟和雄(明三二、七生)同妻美津(同三三、九生)千葉、地引安治郎長女)及其二女妹光子(同三五、三三)東京女子高出身)同千代(同四〇、六生)千葉高女出身)あり弟草樹(同二三、一〇生、醫師)  
 參照 白鳥敏夫の項

**白戸半次郎** 從五位勳六等、京都府書記官、學務局長、青森縣在籍  
 父 半 藏 明元、五生、青森、對馬向吉弟  
 母 き ん 明二、五生、青森、上見勇作姉  
 妻 半 藏 明二、五生、青森、菊地長之長女  
 養子 一 大 一、〇、二生  
 君は青森縣人白戸半藏の長男にして明治二十六年九月二十一日を以て生れ後家督を相続す大正六年東京帝國大學法政學科を卒業し文官高等試験に合格し翌七年神奈川縣屬となり爾來群馬縣警視廳木縣下都賀河内各部長官補局警視廳各縣事務官等を経て三重山口各縣書記官各事務部長に任じ昭和九年京都府書記官に任じ學務部長に補せらるる家族は尙長女敏子(大一一、一〇生)二男安(同一一、一〇生)二女信子(同一一、一〇生)三男正(同一一、一〇生)三女敦子(同一一、一〇生)四男厚(昭二、一〇生)五男孝(同四、八生)弟勇藏(明二八、一〇生)同妻コウ(同三〇、七生)青森、金原平三郎(二女)及其子女あり姉たま(同二四、二生)は青森縣人長内多七郎に嫁せり(京都市府學務部内)參照 菊池長之の項

**白取虎平** 家主、東京府在籍  
 妻 あ く 明一二、一〇生、青森、蝦名嘉七女  
 養子 一 東 三、三、五生  
 養子 二 明 四、二、五生、長男東三郎妻、東京、鐵道五郎長女  
 養子 三 明 四、七、七生、慶應大學在學  
 養子 四 大 五、六、六生、慶應大學在學  
 君は青森縣人阿部寅十郎の三男西谷一郎の弟にして明治六年十一月十四日を以て生れ同十七年絶家白取氏を再興す家主たり家族は尙四女サロ(大一一、三三)孫隆(昭八、八生)長男東三郎長男あり長女ツル(明三三、三三)實踐女學校出身)は東京府人高山泰に二女トシ(同三九、二二)山脇高女出身)は青森縣人阿部豊五郎二男幸一に嫁せりA二七九(東京市澁谷區山下町五二)  
 參照 西谷一郎の項

**白鳥倉吉** 正三位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、學習院名譽教授、東京府在籍  
 妻 君 文 三、一〇生、東京、士、大島  
 養子 一 大 一、三、七生  
 君は千葉縣人白鳥倉吉の長男にして明治二十年四月を以て生れ昭和五年家督を相続す先是大正三年東京帝國大學法政學科を卒業し三菱銀行に入り船場中之島支店長代理を経て現時同行理事に擧げられ船場支店長たり家族は尙長女綾(大一一、一〇生)御茶の水高女(在學)二女光(同二二、九生)三女信(昭二、五生)二男實(同四、九生)妹シナ(明二四、八生)弟修一(同三六、一〇生)大阪、機械工作所員、工學士、同後雄(同三九、六生)濱松高工出身、同恒夫(同四三、八生)ありA三八八(東京市本郷區駒込曙町一電大塚五七一八)  
 參照 寺垣猪三、三子爵田村不顯、藤原雄、米村修三、三兒玉孝顯の項





**申 錫** 三、朝總督府中樞院  
君は石川縣人、米村吉太郎三女、長男篤之助、石川三月十日を以て生れ、同二十六年、米村篤之助の絶家を再興す、米村篤之助を以て、洋傘製造業を創始し、獨自の業容を展開し、直接國稅五百二十二圓を納め、縣下の多額納稅者に列す、茶道、曲の趣味あり、家族は尙四男五女(大六、三、五、慶應義塾大學豫科在學)五男五女(同八、五、五、六、中央大學出身)は分家し、三男三郎(同四、五、七、七、法政大學在學)は父素喜沙久の養子となり、長女篤子(同四〇、九、九)は石川縣人佐々木外喜雄に嫁せり(金澤市上今町三六電三五七)

**申 錫** 三、朝總督府中樞院  
君は京城府安國洞の出身にして、慶應元年一月九日を以て生れ、明治二十九年、大阪府立商業學校教員となり、翌年退職、歸國す、同三十二年、宮内府參事官となり、其後、川守昌京府尹、慶應義塾大學、尙北道參事官等に歴任し、大正十年、江原道知事に進み、同十二年、八月、中樞院參事官に轉じ、昭和二年、忠清南道知事に就任せしが、同四年、十二月、中樞院參事官に復して、今日に至る(京城府觀水洞一七二七)

**申 錫** 三、朝總督府中樞院  
君は石川縣人、信濃義平の五男にして、明治十三年十一月を以て生れ、大正六年、兄義男方より分れて一家を創立す、信濃工場と稱し、自動車ボデー製作業を營む、家族は尙四男海(大八、八、五、五、三、女佳(同二〇、七、七、四、女澄(同二、八、八、五、五、女良(同四、一、四、二、生)あり、A四三四(東京市芝區芝浦二ノ一電三田一八〇八)

**申 照** 正六位勳六等、朝鮮總督府中樞院  
君は成鏡南道安邊郡の出身にして、明治十八年一月二十六日を以て生れ、夙に漢學を修め、内地に渡り、佐賀縣高等小學を経て、東京師範學校速成科を卒業し、同四十二年、朝鮮總督府書記に合格し、准陽郡主事に任官す、翌年、朝鮮總督府書記に任じ、成鏡南道に在勤、大正三年、吉州郡主事に任じ、更に朝鮮總督府書記に任ぜられ、次で郡守に陞進、成鏡南道成鏡郡南道守たり、尙同郡農會常議員を命ぜられ、昭和五年、安邊郵便所長に轉じ、同八年、朝鮮總督府中樞院參議被仰付、今日に至る(成鏡南道安邊郡成鏡南里)

**申 照** 正六位勳六等、朝鮮總督府中樞院  
君は本願寺開道學校に於て國語を研究する事三年後、臺南縣廳に奉職し、尙開道學校に通學して、廢縣改廳に及び、同廳に奉職する事二十餘年後、辭して、實業界の人となり、臺灣輕鐵會社社長となり、他方、新化、臺南、開合、自動車を經營し、其他會社の重役を勤め、南部實業界に勢力を有するに至る、又臺南州協議會員たり(臺南市明石町三ノ三)

**申 照** 正六位勳六等、朝鮮總督府中樞院  
君は石川縣人、信濃義平の五男にして、明治十三年十一月を以て生れ、大正六年、兄義男方より分れて一家を創立す、信濃工場と稱し、自動車ボデー製作業を營む、家族は尙四男海(大八、八、五、五、三、女佳(同二〇、七、七、四、女澄(同二、八、八、五、五、女良(同四、一、四、二、生)あり、A四三四(東京市芝區芝浦二ノ一電三田一八〇八)

**申 鉦** 求 從五位勳五等、朝鮮總督府尙北  
道連城郡守、慶尙北道在籍  
男 長 氏 明一八、八、生  
女 雲 明四、七、生、東萊高書出身  
君は慶尙北道人、申都均の二男にして、明治二十年九月を以て生れ、幼にして漢學を修め、後官立漢城師範學校に學びしが、中途退學して、度支部稅務講習所に入り、修了後、明治四十年、昌原稅務署主事となる、其後、長壽府署長、長壽書記、平安北道雲山郡守、慶尙北道連城郡守、尙州郡守等を歴任し、大正十五年、同連城郡守に轉じて、今日に至る、趣味に讀書、漢詩書畫等あり(慶尙北道大邱府南山町六七〇電六八〇)

**申 鉦** 求 從五位勳五等、朝鮮總督府尙北  
道連城郡守、慶尙北道在籍  
男 長 氏 明一八、八、生  
女 雲 明四、七、生、東萊高書出身  
君は大阪府人、信貴孫次郎の三男にして、明治二十年九月を以て生れ、明治四十四年、東京高等商業學校を卒業し、現時三菱製紙會社常務取締役にして、傍ら前記會社の重役を兼ぬ、明治四十四年、製紙業視察のため、約一ヶ年、歐米各國を歴遊せり、家族は尙三女百合子(大一一、一一、一、二、男辰喜(昭三、一、生)あり、A三三九八(東京市澁谷區榮町六電青山七五〇七)  
參照：中辰之助、川口平三郎の項

**申 鉦** 求 從五位勳五等、朝鮮總督府尙北  
道連城郡守、慶尙北道在籍  
男 長 氏 明一八、八、生  
女 雲 明四、七、生、東萊高書出身  
君は大阪府人、信貴孫次郎の三男にして、明治二十年九月を以て生れ、明治四十四年、東京高等商業學校を卒業し、現時三三菱製紙會社常務取締役にして、傍ら前記會社の重役を兼ぬ、明治四十四年、製紙業視察のため、約一ヶ年、歐米各國を歴遊せり、家族は尙三女百合子(大一一、一一、一、二、男辰喜(昭三、一、生)あり、A三三九八(東京市澁谷區榮町六電青山七五〇七)  
參照：中辰之助、川口平三郎の項

**秦 喜** 蔡 前朝鮮總督府中樞院參議  
尙北道在籍  
君は慶尙北道連城郡南道守の出身にして、明治十一年九月を以て生れ、同十四年、尙北道參事となり、後實業界に入り、株式會社大邱銀行監査役、鶴林農林會社取締役、株式會社大東社取締役、大邱酒造會社取締役等に就任し、大正十三年、慶尙北道評議員に選ばれ、次で、壽水水利組合長となり、昭和五年、六月、總督府中樞院參議に任ぜられ、今日に至る(慶尙北道連城郡壽水町上洞)

**秦 喜** 蔡 前朝鮮總督府中樞院參議  
尙北道在籍  
君は慶尙北道連城郡南道守の出身にして、明治十一年九月を以て生れ、同十四年、尙北道參事となり、後實業界に入り、株式會社大邱銀行監査役、鶴林農林會社取締役、株式會社大東社取締役、大邱酒造會社取締役等に就任し、大正十三年、慶尙北道評議員に選ばれ、次で、壽水水利組合長となり、昭和五年、六月、總督府中樞院參議に任ぜられ、今日に至る(慶尙北道連城郡壽水町上洞)

**秦 喜** 蔡 前朝鮮總督府中樞院參議  
尙北道在籍  
君は慶尙北道連城郡南道守の出身にして、明治十一年九月を以て生れ、同十四年、尙北道參事となり、後實業界に入り、株式會社大邱銀行監査役、鶴林農林會社取締役、株式會社大東社取締役、大邱酒造會社取締役等に就任し、大正十三年、慶尙北道評議員に選ばれ、次で、壽水水利組合長となり、昭和五年、六月、總督府中樞院參議に任ぜられ、今日に至る(慶尙北道連城郡壽水町上洞)

**眞藤 慎太郎**  
大平洋漁業、日魯漁業各常務取締役、日本合同工船、東亞製糖、函館水産販賣、函館冷蔵、南緯太、函館各製菓、北海製糖、倉庫、函館各製菓、北海製糖、倉庫、東京府在籍  
男 俊 明二四、九、生、東京、山本巖妹  
女 明四三、一〇、生

**眞藤 慎太郎**  
大平洋漁業、日魯漁業各常務取締役、日本合同工船、東亞製糖、函館水産販賣、函館冷蔵、南緯太、函館各製菓、北海製糖、倉庫、函館各製菓、北海製糖、倉庫、東京府在籍  
男 俊 明二四、九、生、東京、山本巖妹  
女 明四三、一〇、生

**眞藤 慎太郎**  
大平洋漁業、日魯漁業各常務取締役、日本合同工船、東亞製糖、函館水産販賣、函館冷蔵、南緯太、函館各製菓、北海製糖、倉庫、函館各製菓、北海製糖、倉庫、東京府在籍  
男 俊 明二四、九、生、東京、山本巖妹  
女 明四三、一〇、生

**眞保 一輔**  
正五位勳六等、新潟高等學校教授  
新潟縣在籍  
父 寅三郎 萬延元、一、生、現戶主  
母 イス 慶應二、四、生、新潟、日野田丈山  
妻 サチ 明二五、一、生、新潟、日野田耕太  
男 謙一 大五、七、生  
女 シヅ 大五、四、生  
女 キヨ 大八、三、生

**眞保 一輔**  
正五位勳六等、新潟高等學校教授  
新潟縣在籍  
父 寅三郎 萬延元、一、生、現戶主  
母 イス 慶應二、四、生、新潟、日野田丈山  
妻 サチ 明二五、一、生、新潟、日野田耕太  
男 謙一 大五、七、生  
女 シヅ 大五、四、生  
女 キヨ 大八、三、生

**眞保 一輔**  
正五位勳六等、新潟高等學校教授  
新潟縣在籍  
父 寅三郎 萬延元、一、生、現戶主  
母 イス 慶應二、四、生、新潟、日野田丈山  
妻 サチ 明二五、一、生、新潟、日野田耕太  
男 謙一 大五、七、生  
女 シヅ 大五、四、生  
女 キヨ 大八、三、生

**眞保 一輔**  
正五位勳六等、新潟高等學校教授  
新潟縣在籍  
父 寅三郎 萬延元、一、生、現戶主  
母 イス 慶應二、四、生、新潟、日野田丈山  
妻 サチ 明二五、一、生、新潟、日野田耕太  
男 謙一 大五、七、生  
女 シヅ 大五、四、生  
女 キヨ 大八、三、生

**眞保 一輔**  
正五位勳六等、新潟高等學校教授  
新潟縣在籍  
父 寅三郎 萬延元、一、生、現戶主  
母 イス 慶應二、四、生、新潟、日野田丈山  
妻 サチ 明二五、一、生、新潟、日野田耕太  
男 謙一 大五、七、生  
女 シヅ 大五、四、生  
女 キヨ 大八、三、生

**眞保 一輔**  
正五位勳六等、新潟高等學校教授  
新潟縣在籍  
父 寅三郎 萬延元、一、生、現戶主  
母 イス 慶應二、四、生、新潟、日野田丈山  
妻 サチ 明二五、一、生、新潟、日野田耕太  
男 謙一 大五、七、生  
女 シヅ 大五、四、生  
女 キヨ 大八、三、生

シ之部 秦、眞藤、保

(※印は姻族關係)

シ一〇九

**信 貴** 英 藏 三、菱製紙會社常務取締役、浪速製紙  
大阪府在籍  
男 得也 大九、一、二、生  
女 せつ 大八、三、生  
君は大阪府人、信貴孫次郎の三男にして、明治二十年九月を以て生れ、明治四十四年、東京高等商業學校を卒業し、現時三三菱製紙會社常務取締役にして、傍ら前記會社の重役を兼ぬ、明治四十四年、製紙業視察のため、約一ヶ年、歐米各國を歴遊せり、家族は尙三女百合子(大一一、一一、一、二、男辰喜(昭三、一、生)あり、A三三九八(東京市澁谷區榮町六電青山七五〇七)  
參照：中辰之助、川口平三郎の項

**信 貴** 英 藏 三、菱製紙會社常務取締役、浪速製紙  
大阪府在籍  
男 得也 大九、一、二、生  
女 せつ 大八、三、生  
君は大阪府人、信貴孫次郎の三男にして、明治二十年九月を以て生れ、明治四十四年、東京高等商業學校を卒業し、現時三三菱製紙會社常務取締役にして、傍ら前記會社の重役を兼ぬ、明治四十四年、製紙業視察のため、約一ヶ年、歐米各國を歴遊せり、家族は尙三女百合子(大一一、一一、一、二、男辰喜(昭三、一、生)あり、A三三九八(東京市澁谷區榮町六電青山七五〇七)  
參照：中辰之助、川口平三郎の項

**信 貴** 英 藏 三、菱製紙會社常務取締役、浪速製紙  
大阪府在籍  
男 得也 大九、一、二、生  
女 せつ 大八、三、生  
君は大阪府人、信貴孫次郎の三男にして、明治二十年九月を以て生れ、明治四十四年、東京高等商業學校を卒業し、現時三三菱製紙會社常務取締役にして、傍ら前記會社の重役を兼ぬ、明治四十四年、製紙業視察のため、約一ヶ年、歐米各國を歴遊せり、家族は尙三女百合子(大一一、一一、一、二、男辰喜(昭三、一、生)あり、A三三九八(東京市澁谷區榮町六電青山七五〇七)  
參照：中辰之助、川口平三郎の項

**信 保** 龍 平 信保商店社長、英大小雜貨商  
大阪府在籍  
男 龍 慶應二、一、生、大阪、信保興次平  
女 明三一、一、生、滋賀、田中鐵治郎  
君は大阪府人、信保利平の長男にして、明治二十六年十一月九日を以て生れ、昭和八年、家督を相続す、英大小商を營

**信 保** 龍 平 信保商店社長、英大小雜貨商  
大阪府在籍  
男 龍 慶應二、一、生、大阪、信保興次平  
女 明三一、一、生、滋賀、田中鐵治郎  
君は大阪府人、信保利平の長男にして、明治二十六年十一月九日を以て生れ、昭和八年、家督を相続す、英大小商を營

**信 保** 龍 平 信保商店社長、英大小雜貨商  
大阪府在籍  
男 龍 慶應二、一、生、大阪、信保興次平  
女 明三一、一、生、滋賀、田中鐵治郎  
君は大阪府人、信保利平の長男にして、明治二十六年十一月九日を以て生れ、昭和八年、家督を相続す、英大小商を營

**信 夫** 淳 平 從四位勳三等、法學博士、早稻田  
大學、法政大學各講師  
東京府在籍  
男 靜子 明一七、八、生、東京、土岐裕二女  
男 幹一郎 明三三、七、生  
男 千枝子 明三九、四、生、長男幹一郎妻、東  
男 滿二郎 明四〇、九、生  
男 清三郎 明四二、四、生  
君は島取縣人、信夫惣軒の長男にして、明治四年九月十三日を以て生れ、公使館三等書記官、同二等書記官、仁川理事官を辭し、前記各大學講師たり、兼に法學博士の學位を授けらる、家族は尙孫健(昭五、七、生、長男、一、生)長男(同六、一、二、生、同二男)亡弟敬造妻津(昭二、〇、七、生、東京、花植龜吉二女)及其子女あり(東京市澁谷區下落合三ノ一三二一電大塚三四七六)

**信 夫** 淳 平 從四位勳三等、法學博士、早稻田  
大學、法政大學各講師  
東京府在籍  
男 靜子 明一七、八、生、東京、土岐裕二女  
男 幹一郎 明三三、七、生  
男 千枝子 明三九、四、生、長男幹一郎妻、東  
男 滿二郎 明四〇、九、生  
男 清三郎 明四二、四、生  
君は島取縣人、信夫惣軒の長男にして、明治四年九月十三日を以て生れ、公使館三等書記官、同二等書記官、仁川理事官を辭し、前記各大學講師たり、兼に法學博士の學位を授けらる、家族は尙孫健(昭五、七、生、長男、一、生)長男(同六、一、二、生、同二男)亡弟敬造妻津(昭二、〇、七、生、東京、花植龜吉二女)及其子女あり(東京市澁谷區下落合三ノ一三二一電大塚三四七六)

**信 夫** 淳 平 從四位勳三等、法學博士、早稻田  
大學、法政大學各講師  
東京府在籍  
男 靜子 明一七、八、生、東京、土岐裕二女  
男 幹一郎 明三三、七、生  
男 千枝子 明三九、四、生、長男幹一郎妻、東  
男 滿二郎 明四〇、九、生  
男 清三郎 明四二、四、生  
君は島取縣人、信夫惣軒の長男にして、明治四年九月十三日を以て生れ、公使館三等書記官、同二等書記官、仁川理事官を辭し、前記各大學講師たり、兼に法學博士の學位を授けらる、家族は尙孫健(昭五、七、生、長男、一、生)長男(同六、一、二、生、同二男)亡弟敬造妻津(昭二、〇、七、生、東京、花植龜吉二女)及其子女あり(東京市澁谷區下落合三ノ一三二一電大塚三四七六)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

**進 木 健治**  
兵庫縣在籍  
父 安太郎 元治元、一、二、生、鳥取、進木岸藏  
母 とみ 明二、四、生、鳥取、山松長三郎長  
妻 ヤエ 明二八、二、生、福岡、高橋登吉長  
君は兵庫縣人、進木安太郎の長男にして、明治二十二年十一月二十九日を以て生れ、大正十五年、家督を相続す、進木組と稱し、建築請負業を營む、家族は尙長女美惠子(大一一、三、五、生)の外弟孝太郎(明二七、九、生)同妻タマ(同二四、二、生、兵庫、勝谷半次郎二女)及其一子同慶(同三二、九、生)同久男(同三三、五、生)同妻ヒサ(同三三、七、生、兵庫、土佐菊藏長女)及其四子同泰太郎(同三三、八、三、生)同妻まさこ(同四三、一、生)兵庫、中根源吉長女)及其一子同義雄(同四三、一、生)あり、A七〇三(神戸市灘區上野町六三ノ二電葦合一五七三)

所務取締役にして進藤工所を起し工業用機械の製造を營む家族は尙三男喜三郎(大七、一生)四男益太(同九、一生)五男巖(同二、一生)養弟菊藏(明三、一生、静岡、土屋辰次郎弟)同妻し(同三五、三三、静岡、渡邊清次郎二女)及其子女あり長女は(同三六、五生)は鹿兒島縣士族伊地知綾二男三郎に嫁せりA三三八B九四(東京市本所區横綱町二ノ一電臺田二五九二)

進藤嘉三郎

食器食料品商  
兵庫縣在籍  
妻 明一四、九生、大阪、森本專助長  
男 明三五、三三  
女 八重子 明四四、九生、長男勝太郎妻、兵庫、坂本鐵造長女  
男 次郎 明三八、四生  
男 復三 明三九、一三二生  
女 トク 明四二、三三  
女 アイ 大元、九生  
男 琢藏 大元、九生

君は大阪府人進藤嘉七の長男にして明治六年三月を以て生れ同八年分れて一家を創立す同二十六年大阪高等商業學校を卒業し直に日英商會に入り同社倫敦支店に在る事務長職を充て洋酒並に食料品商を創め後ち店舖を株式組織となす義にエンバイヤランドリ會社取締役たりし事あり長女ヤス(明三六、五生、神戸高女出身)は大阪府人小畑薫良に嫁せりA七九B八七(兵庫縣武庫郡住吉村反高林一八七六電御影五六七八)

進藤甲兵

長良川電化代表取締役、東邦電力常務取締役、稲澤電燈、電氣證券、伊勢電氣、電氣、中部電力各電氣取締役、愛知電氣、山梨縣在籍  
妻 ツル 明二六、五生、滋賀、横田佐右衛門妹  
庶子 利久 大五、三三、生母、栗山タカ

庶子 正子 大二、六生、生母栗山タカ、東京高女出身  
當家は其祖を藤原鎌足に發す君は山梨縣人進藤利貞の二男にして明治十七年十月を以て生れ大正二年分れて一家を創立し前名廣平を改む現時長良川電化會社代表取締役たる外前記諸會社の重役たり義に東京電力會社常務取締役たりし事あり(東京市品川區西大崎一ノ六四電高輪一五一)

進藤庄兵衛

地主  
東京府在籍  
妻 ひで 明一九、六生、東京、中里定吉妹  
男 小一郎 明三九、八生  
女 八重子 明四一、三三  
君は東京府人先代庄兵衛の長男にして明治十三年九月十二日を以て生れ同二十五年家督を相続し後前名庄太郎を改め襲名す地主たり家族は尙四男進(大五、八生)五男孝(同八、四生)三女静子(同四、一三)四女慶子(昭二、一〇)弟賢四郎(昭二、五生)同妻英子(同三五、一三)東京、立田英貞四女)及其二男二女ありA四七三(東京市東區北砂町九ノ二五九)

進藤誠一

正五位勳四等、逓信省電務局長  
岡山縣士族  
父 彌太郎 文久二、一〇生  
嫡母 ハヤノ 女 明二九、九生、廣島、入野貞助長  
妻 壽子 明三二、一〇生、兵庫、杉立義郎長女  
男 隆夫 大一一、〇四生  
女 淳子 大六、三三  
女 康子 大八、三三

三女幸子(昭四、一〇)生)叔母壽世(明一、九生)あり(東京市品川區大井鹿島町三〇一三)

進藤信義

神戸新聞社、京都日々新聞社、大建物屋相談役、日本放送協會關西支部理事、兵庫縣在籍  
妻 ひさ 明二一、四生、兵庫、吉倉吉三郎長女  
男 富士夫 明四一、一三  
男 悦夫 明四五、七生  
女 ナカ 明四三、一〇生  
君は兵庫縣人進藤親重の長男にして明治十一年四月を以て生れ同四十五年家督を相続す現時神戸新聞社京都日々新聞社大阪時事新聞社各社長にして前記會社の相談役を兼ね日本放送協會關西支部理事たり家族は尙三男幸夫(大五、一三)あり養子シズメ(明三三、三三)は和歌山縣人健井春庵二男照隆に嫁し弟巖三郎(同二〇、一〇)生)は分家し同妻(同二六、九生)は兵庫縣人村上五右衛門の養子となりA三五九(神戸市須磨區大手町七ノ二電須磨二二八)

進藤喜治

東京米穀商品取引所取引員  
東京府在籍  
妻 庄次郎 安政四、一〇生  
妻 安政五、三三、東京、進藤實之助妹  
妻 世以 明一五、七生、東京、進藤庄藏二女  
男 喜忠 明四二、四生  
女 富子 明三六、一三二生、養子武雄妻  
女 貞子 明三九、一〇生  
男 喜信 明四五、一三  
女 喜美 大七、六生  
君は舊幕臣大原喜知の二男にして同喜知の弟なり明治十一年五月を以て生れ先代庄次郎の養子となり大正十五年家督を相続す東京米穀商品取引所取引員たり家族は尙孫美代(大一一、一〇)生、養子武雄長女)同繁(昭二、九生、同長男)同惠美(同三、九生、同二女)あり

A一二九B二三〇(東京市日本橋區錦町一ノ一三電茅場町二七七〇)  
參照 大熊喜邦の項

進藤義輔

東洋鋼鐵常務取締役、日本製鐵常務取締役、山口縣在籍  
妻 直喜 明三、二生、現戶主  
妻 フシ 明三、二生、現戶主  
妻 喜代 明二八、八生、養父直喜長女  
男 敏彦 大九、七生

進藤隆一

和光堂常務取締役兼支配人  
新潟縣士族  
父 直温 安政元、一三二生、現戶主  
母 ヒサ 安政六、三三、新潟、士、矢部金兵衛二女  
妻 照 明二四、一〇生、京都、的場勝秀

君は新潟縣士族進藤直温の長男にして明治十七年十月を以て生れる現時和光堂常務取締役兼支配人たり家族は尙養子直喜(大九、一三)府立第六高女在學)弟修二(明一九、二二)同妻福治(同二七、九生、岐阜、本多勝五女)及其二男一女あり姉チヤウ(同二〇、八生)は新潟縣人田村岩次郎に同妻(同二五、八生)は同縣士族大竹澤治に嫁し妹ユキ(同二六、一三)は前記田村岩次郎の養子となり叔母ヨシ(元治元、一〇)生)叔父録藏(明元、一〇)生)は各分家せりA一六四(東京市芝區三田一ノ二九電三田一八三二)

進藤隆之助

前大同生命保險監査役  
兵庫縣士族  
妻 ふみ 明元、一三二生、東京、士、中村政助姉

養子 重治郎 明八、五生、兵庫、森川市左衛門長男、現戶主  
妻 とし 明一、一三二生、養子重治郎妻、進藤俊徳長女  
孫 俊二 明四五、一三二生、養子重治郎二男  
君は兵庫縣士族進藤直温の三男にして萬延二年一月を以て生れ後家督を相続し大正十一年退隱す義に大同生命保險會社監査役たりしが現時閑地にあり孫初枝(明三六、七生、養子重次郎長女)は東京府人脇坂小一郎に嫁せり(大坂市東區谷町一ノ三〇電東六一八九)

新嘉喜倫篤

沖繩縣多額納稅者、書籍商  
妻 貴美子 明二八、一三二生、沖繩、久場景述長女  
男 章 大六、一三  
女 美代子 大六、一三

新川岩藏

東京府在籍  
妻 スツ 明四三、一三二生、新川よし養女  
男 昭二 昭二、五生  
君は東京府人新川龍太郎の長男にして明治三十七年三月二日を以て生れ大正九年家督を相続す計理士たり叔母もと(明六、七生)同きん(同三三、五生)は各分家し同よし(同七、三三)及從兄爲次郎(同二二、九生)同妻まん(同二六、一〇)生、千葉、安永伊之助二女)も亦各其子女を伴ひ分家せりA三六三(東京市港區松葉町四四電淺草一九六一)

新川寅之助

洋服商  
東京府在籍  
妻 ヤナ 明一〇、一三二生、千葉、鈴木忠吉  
男 清 明三七、二生

君は千葉縣人塚田榮次郎の長男にして慶應二年九月七日を以て生れ明治三十四年新川傳次郎の養子となり大正二年家督を相続す現時洋服商を營む家族は尙孫芳江(昭七、三三、長男清長女)同君江(同八、一三)同二女ありA三九六B一六二(東京市京橋區銀座四ノ二ノ一電京橋八四六)

新川初太郎

熊本縣多額納稅者、鹽魚並雜貨商  
熊本縣在籍  
妻 モト 明一一、八生、赤星喜三妹  
男 慎次 明三三、一〇生  
女 ハル 明四〇、一〇生、長男慎次妻、玉置喜三郎長女  
男 健次郎 明四二、二生  
女 元 大元、一三

新里康信

沖繩縣多額納稅者、酒造業  
沖繩縣在籍  
妻 ウシ 明二三、八生、仲村榮得三女  
養子 光 大一一、三三、沖繩、新里康昌會孫  
君は沖繩縣人新里浦の二男同康昌の弟にして慶應二年四月を以て生れ明治二十年分れて一家を創立し前名三郎を改む酒造業を營み直接國稅一千七百六十三圓を納め縣下の多額納稅者たり資産家を以て知らる(那覇市若狭町一ノ八五)

新庄清一

大阪海上火災保險社長  
長崎縣士族  
妻 タカ 明一六、五生、長崎、士、在川要造妹



九、六生)あり長女阿岐(明三九、九生)は廣島縣人山本良造に嫁せり(廣島市八丁堀町二三)

新村 出

從三位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、京都帝國大學教授、文學部勤務、附屬圖書館長、東京府士族

新良貴徳兵衛

中央新藥社、藥種問屋、大阪府在籍

榛葉 可省

正五位勳三等、警務局長、青森警務局長、警務局長、警務局長、現戸主

榛葉 良男

警務局長、警務局長、現戸主

神保 格

正四位勳三等、東京文理科大學教授、東京府在籍

神保 金衛

從四位勳四等、北海道廳技師、土部道廳長、栃木廳在籍

シ之部 神(保) 陣(内山)

長男健二(長女)同幸夫(昭三、五生、同長男)同章(同六五生、同二男)ありA一六九〇B八八二(大阪府東區道修町一ノ六電本局六〇八)

神保 周藏

學習社事務取締役、三省堂總取締役、東京府士族

神保 成吉

從五位勳六等、工學博士、通信省電氣試驗所技師、電氣試驗所第一部長、石川縣士族

神保 文太郎

上州屋、化粧品商、東京府在籍

陣内 肇

大牟田商工會議所副會頭、大牟田瓦斯監査役、福岡縣藥劑師會會長、陣内三省堂總社長、大牟田工務學校主幹教諭、佐賀縣士族

陣山 爲義

從七位、陸軍歩兵中尉、福岡縣多額納稅者、地主、福岡縣在籍

神保 龍

大七、二生、五高在學

ス之部

周參見昌隆

和歌山縣人周參見英一郎の長男にして明治十二年十二月二十五日を以て生れ同二十八年家督を相續す現時スサミ工務店代表社員たり弟巖(明一六、二二生)は分家せり(東京市麻布區本村町一四四電高輪三六二)

周藤歡一郎

從四位勳三等功五級、陸軍少將、島根縣在籍、妻 愛子 明二七、一、生、東京、上村甲子三、男 不二雄 明四二、七、生、陸軍砲兵中尉、女 靜枝 大三、九、生、女 琴 大五、一、生、女 和 大八、九、生

周布兼道

正四位、男爵、貴族院議員、山口縣華族、妻 貞子 文久三、一、生、東京、士、岩崎壽雄叔母、子 明二二、六、生、伯爵周島道正妹、妻 鑑子 華族女學校出身

男 兼公

大二、三生、從五位、東北帝大法文學部法律學科在學、男 明 兼 大三、九、生、學習院高等科在學、實家は毛利家の臣にして祖父政之助は同藩政務役となり國事に奔走し長州の先輩として其名を知らる父公平明治九年司法權少丞に任じ爾來太政官少書記官同權大書記官參議院議員補法政局參事官公使館參事官兼外務省參事官内閣書記官長兵庫縣知事行政裁判所長官神奈川縣知事貴族院議員樞密顧問官等に歴任し日露事件の功に依り勳一等に叙し明治四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治十五年三月を以て生れ大正二年學府予伊都縣馬に留學し歸朝後小田原電氣鐵道外二三會社の重役に擧げらる後實業界を退き現時貴族院議員にして公正會に屬す家族は尙三男光策(大五、二、生、學習院中等科在學)四男吉兼(同九、二、生)長女佐菜子(同二、一、四、生、女子學習院在學)あり妹千代子(明二一、七、生)は長野縣士族黒澤次久に嫁せりA一二七(東京市四谷區南町八八電四谷三三〇)參照 伯爵周島道正、黒澤次久父子傳、勘解田小路資淳、宗子傳、千種有秀、牧彦七の項

周防正季

正五位勳五等、朝鮮總督府立醫院醫官、全羅南道小慶島慈惠醫院院長、滋賀縣在籍、妻 正士 大八、五、生、男 俊子 大五、三、生、女 八重 明四五、五、生

君は滋賀縣人大神正盛の四男にして同正統の弟なり明治十八年十月を以て生れ先代後彦の養子となり大正二年家督を相續す明治四十二年愛知縣立醫學專門學校を卒業し同縣立同病院診療醫となり爾來廣島縣檢疫委員同縣防疫官補滋賀縣學校衛生主事同縣技手同技師愛知縣技師を経て大正十年朝鮮總督府技師兼同府技師に任じ京畿道警務部衛生課長に補し現時同府道立醫院醫官全羅南道小慶島慈惠醫院長たり家族は尙三男正行(大一一、四、八、生)四女和子(明二二、二、生)あり二男正時(大一一、二、三、生)は大坂府人池田たかの養子となれり(全羅南道小慶島慈惠醫院内)

首藤多喜馬

從四位勳三等功四級、陸軍中將、東京府在籍、妻 開 明二八、二、生、養父頼功長女、男 文 明三七、五、生、長男開語妻、山形、寺島成信三女、君は養生律律の裔なり養生家は代々柳澤家の世に於て養生惣右衛門に至る君は其八男にして明治三年三月を以て生れ先代頼功の養子となり同三十六年家督を相續す同十七年陸軍幼年學校に入り同二十四年歩兵少尉に任じ同二十六年更に陸軍大學に入り爾來果進して大正八年陸軍中將に陞り同年豫備役仰付けらる其間軍務局長第六旅團長等に歴補し軍事研究の爲前後二回に渡り獨逸に派遣せらる日清役には歩兵第一聯隊附として出征し功あり勳六等單光旭日章を賜ひ日露役の功に依り勳四等功四級に陞敘せらる家族は尙孫敬一(大一一、二、生、長男開語長男)同恭輔(明三、一、生、同二男)あり長女從(明三三、一〇生)は長野縣人大池眞に嫁し養妹みき(同二〇、九、生)は故高工務次官柳瀬軍之佐の未亡人にして二男洋(同三六、七、生)は東京府人横田美樹子の入夫となれりA一〇〇(東京市四谷區内藤町一電四谷六二六〇)參照 大池眞、西山勉の項

首藤靜雄

萬年龜酒造監査役、首藤名代表社員、酒造業、福岡縣在籍、妻 シマヨ 明二三、一、生、福岡、蒲池貫四女、男 謙 大一一、七、生、女 ヒデ子 明四五、五、生、女 フサ子 大三、一、生



須賀 隆 東京府在籍 須賀隆、山田士松長女...

須賀 藤五郎 須賀商會社長、水道工務及燈房...

須賀 虎松 日清汽船監査役 茨城縣在籍...

須賀 嘉平太 福島縣多額納稅者、地主...

須賀 廣之丈 新潟縣多額納稅者、北越魚商...

須賀 益太郎 山形縣多額納稅者、醸造業...

須賀 邦彦 正五位勳四等、海軍少佐、東京府在籍...

須賀 利吉郎 仁尾鹽田食鹽賣捌業、金山新鹽田...

須賀 嘉平太 福島縣多額納稅者、地主...

須賀 邦彦 正五位勳四等、海軍少佐、東京府在籍...

須賀 利吉郎 仁尾鹽田食鹽賣捌業、金山新鹽田...

須賀 嘉平太 福島縣多額納稅者、地主...

須賀 多助 廣瀨市議員、廣瀨商工會議所...

須賀 亥三郎 鐘淵紡績、參興營業部大阪販賣...

須賀 政 博通社常務取締役、日本クロス...

須賀 正子 明二、九生、山口、橋岡國太郎...

須賀 一郎 大七、九生、曉星中學在學...

須賀 芳三郎 報知新聞社取締役...

須賀 義夫 大九、一一生...

須賀 朝一 木村屋、菓子商...

須賀 義夫 大九、一一生...

須賀 朝一 木村屋、菓子商...

須賀 義夫 大九、一一生...

須賀 朝一 木村屋、菓子商...

一日を以て生れ昭和九年家督を相続す木村屋と稱して...

須田勝之助

君は東京府人須田富次郎の二男にして明治十五年九月...

須田金五郎

君は東京府人須田長吉の長男にして慶應二年四月十二...

須田金之助

正三位勳二等、農學博士、北海道帝國大學名譽教授...

君は山形縣士族須田金十郎の長男にして明治二十一年...

須田國雄

東京建設廳長、日本シトロエン自動車販賣總代理...

須田實郎

埼玉縣多額納税者、農業士、慶應義塾大學出身...

須田卓爾

東京醫學專門學校教授、日本眼科醫學會長、東京府...

須田家は織田信長の臣須田九郎の裔なり十數代以前より...

須田信次

高田船底塗料製造所社長、東京府在籍...

須田宣

東武鐵道常任監査役、鬼怒川汽船、日光登山鐵道...

須田鶴造

東京府在籍、安政五、一、一生、東京、三浦文次...

須田鐵次郎

松屋、洋反物商、當家は江戸時代より...

須田藤次郎

富山商工會議所顧問、富山縣多額納税者...

須田卓二

埼玉縣多額納税者、忍商業銀行取締役、埼玉縣在籍...

須田大助

東京府在籍、明二七、七、九、生、長男御治妻、東京...

須田卓爾

東京醫學專門學校教授、日本眼科醫學會長、東京府...



以て生れ先代藤次郎の養子となり大正元年家督を相続し...

須田友吉

須田友商店、文庫紙商 養母 あい 明一、七生、東京、山下銀次長...

須田信夫

千葉縣多額納税者、農業 母 ため 衛四女 明四、一、一、一、一、一、一、一、一...

須田保三

小西、酒類商 妻 くわ 明一、七、九生、東京、松原三喜四女...

須田由春

地主 母 りう 明四、一〇生、東京、須田森蔵長...

須田博 正五位勳五等、鐵道局長、名古屋 養父 信次 文久二、八生、現戶主...

須田政道 神奈川縣多額納税者、地家主 養子 敬子 大四、二生、神奈川、鈴木長助長女...

須田實 從四位勳三等、陸軍少將 妻 ハル 明二〇、二生、秋田、芳賀俊蔵妹...

須田保三

小西、酒類商 妻 くわ 明一、七、九生、東京、松原三喜四女...

須田由春

地主 母 りう 明四、一〇生、東京、須田森蔵長...

須谷久兵衛 地主 妻 ユキ 明四、七生、祖父久兵衛三女...

須藤角藏

東京府在籍 妻 テイ 明一四、一二生、東京、越森太古...

須藤吉馬 從五位勳五等、檢事、八戸區裁判 妻 キイ 明一四、四生...

又之部 須藤

君は埼玉縣久米六右衛門の四男にして渡邊六藏岩出...

須藤 庄吉

君は愛知縣人狭田彌三郎の三男にして明治十九年七月...

須藤 清作

君は栃木縣人にして明治十七年三月を以て生れる同四十...

須藤 静馨

君は山形縣人須藤徳兵衛の長男にして明治十六年五月...

須藤 英雄

君は神奈川縣人須藤徳作の六男にして明治三十四年九月...

須藤 鳳

君は兵庫縣人白井藤の長女にして明治六年十月を以て...

須藤 光俊

君は北海道人須藤光顯の長男にして明治二十八年十一月...

須藤 素

君は福島縣人須藤耕一の長男にして明治十六年五月一日...

又之部 須藤

君は佐賀縣七族須藤三郎の長男にして明治十七年六月...

須藤 武一郎

君は京都府人牧甚左衛門の三男にして慶應三年九月を...

須藤 徳之助

君は山形縣人須藤徳兵衛の長男にして明治十六年五月...

須藤 求

君は神奈川縣人須藤徳作の三男にして明治十九年十一月...

須藤 彌七郎

君は群馬縣人須藤角藏の二男にして明治十八年三月三日...

須藤 直宗

君は東京府人先代直久の長男にして明治三年五月を以て...

須藤 半次郎

君は東京府人小山平藏の三男にして明治元年七月を以て...

又之部 須藤

君は山形、土田安治弟は其子女を伴ひ分家し弟徳...

須藤 直宗

君は東京府人先代直久の長男にして明治三年五月を以て...

須藤 半次郎

君は東京府人小山平藏の三男にして明治元年七月を以て...

須藤 半三

君は神奈川縣人須藤新五郎の長男にして明治元年九月...

須藤 綏治

君は福島縣人須藤茂吉の二男にして明治十八年二月十日...

須藤 良三

君は兵庫縣人島津源十郎の長男にして明治十二年五月...

須藤 廉

君は茨城縣人須藤邦親の五男にして明治二十一年十月...

又之部 須藤

君は福島縣人須藤耕一の長男にして明治十六年五月一日...

又之部 須藤

君は福島縣人須藤耕一の長男にして明治十六年五月一日...

又之部 須藤

君は福島縣人須藤耕一の長男にして明治十六年五月一日...

又之部 須藤

君は福島縣人須藤耕一の長男にして明治十六年五月一日...

須之内啓二 三井銀行 孟買支店長

須之内吉 勳六等、衆議院議員(愛媛縣選出)

須之部量學 從四位勳四等、浦和高等學校教授

須原宇之松 藤屋、材木商

須原常次郎 須原染工所代表社員

須原英太郎 衆議院議員(北海道選出)

須原利三郎 大坂府在籍

須磨勤兵衛 京都商工會議所議員

須磨彌吉郎 從五位勳六等、總領事館公使館一

須山 岩松 東京府士族

須山 温圭 從五位勳五等、地方技師

須山金太郎 東京府在籍

壽々木米若 浪曲師

壽原英太郎 衆議院議員

壽原重太郎 小樽無盡、壽原食品各務社長

壽原勇三郎 壽原商會副社長

諫訪尚太郎 山形縣多額納稅者

君は山形縣人諫訪八右衛門の孫にして

諷訪 忠元

正三位、子爵、府社芝大神宮司... 妻 正三位、子爵、府社芝大神宮司...

諷訪 忠藏

東京府士族、赤司鐵業各務取締役... 妻 東京府士族、赤司鐵業各務取締役...

諷訪 忠誠

東京府士族、赤司鐵業各務取締役... 妻 東京府士族、赤司鐵業各務取締役...

諷訪 多房之助

丸善福岡支店支配人... 妻 丸善福岡支店支配人...

諷訪 庄左衛門

長野電燈社長、信州電力... 妻 長野電燈社長、信州電力...

諷見 瑞穂

岐阜縣士、理化學研究所勤務... 妻 岐阜縣士、理化學研究所勤務...

水津直太郎

山陰産業社長、石見製紙取締役... 妻 山陰産業社長、石見製紙取締役...

水津政次郎

廣野炭礦、日本山藥染料各務取締役... 妻 廣野炭礦、日本山藥染料各務取締役...

水津彌吉

廣野正金銀行取締役... 妻 廣野正金銀行取締役...

吹田順助

正四位勳三等、東京商科大学... 妻 正四位勳三等、東京商科大学...

末兼要

山口縣士族末兼基平の四男にして明治七年十一月... 妻 山口縣士族末兼基平の四男にして明治七年十一月...

末高信

君は廣島縣末高信生の長男にして明治二十七年九月四... 妻 君は廣島縣末高信生の長男にして明治二十七年九月四...

末高次郎

君は東京府士族末高温恭の二男にして明治四年六月... 妻 君は東京府士族末高温恭の二男にして明治四年六月...

末次 保

東都書籍、盛文堂書店各務取締役、三省堂、吉見書店取締役、東京府在籍

末次 虎太郎

末次商會事務取締役、家庭染色工務研究所主、東京府在籍

末次 信正

正四位勳一等、海軍大將、聯合艦隊司令官兼第一艦隊司令官、東京府在籍

末次 政一

正四位勳三等、日本食糧回送社社長、東京府在籍

末富 孝治郎

函館水産販賣、函館冷蔵各務代表取締役、函館製糖、函館製粉各務代表取締役、函館製糖、函館製粉各務代表取締役

末永 一三

大正製糖社長、大阪商船、大阪ビルディング各務取締役、東京府在籍

末永 四郎平

伊豫長濱銀行取締役、大洲銀行、愛媛銀行各務取締役、愛媛縣在籍

末永 惣太郎

正五位勳六等、大分高等商業學校教授兼生徒主事、福岡縣在籍

末永 敏毅

明治運輸社長、入運代表取締役、博多合同運送取締役、醫師、福岡縣在籍

末野 一雄

南福崎土地運取役、地主、大阪府在籍

末野 齋兵衛

南福崎土地運取役、大阪府在籍

末野 齋兵衛

南福崎土地運取役、大阪府在籍

末野 助市

東京セメント、明電舎各務取締役、鹿児島縣在籍

末原 貫一郎

正五位勳六等、福島縣書記官、學務部長、福島縣在籍

末弘 喜久治

正五位勳四等、専賣局參事、鹿児島地方専賣局長、東京府在籍

末弘 虎治郎

鹿児島商工會議所常議員、鹿児島縣在籍

を以て生れ同三十四年家督を相續す土木建築請負業を...

末廣 幸次郎

神龍製糖事務取締役、糖太汽船...

末廣 重雄

正三位勳二等、法學博士、京都帝國大學法學部...

君は愛媛縣人末廣重雄の長男にして明治七年七月を以て生れ...

(明一〇、一〇生)は同妻英(同一九、七生、大分、小幡...

末廣 清吉

正五位勳五等、朝鮮總督府判事、京城警察廳...

末廣 竹次郎

荷籍材料、各種板刷屋...

末廣 忠介

正三位勳二等、工學博士、九州帝國大學名譽教授...

末廣 房市

久恒礦業監査役...

末廣 茂吉

龍野銀行頭取、醸造業...

末廣 久左衛門

兵庫縣多額納稅者、神戸淡西銀行頭取...

末廣 義太郎

長久徳代表取締役、地主...

末松 借一郎

從三位勳二等、衆議院議員、福岡縣選出...

末松 熊彦

從四位勳四等、前李玉職事務官...

末松 佐吉

京都府多額納稅者、建築請負業...

末松 茂治

從四位勳二等、陸軍中將、陸軍士官學校長...

君は山口縣人末廣松介の長男にして明治四年十二月を以て生れ...

末廣 清吉

正五位勳五等、朝鮮總督府判事、京城警察廳...

末廣 竹次郎

荷籍材料、各種板刷屋...

末廣 忠介

正三位勳二等、工學博士、九州帝國大學名譽教授...

末廣 房市

久恒礦業監査役...

末廣 茂吉

龍野銀行頭取、醸造業...

末廣 久左衛門

兵庫縣多額納稅者、神戸淡西銀行頭取...

末廣 義太郎

長久徳代表取締役、地主...

末松 借一郎

從三位勳二等、衆議院議員、福岡縣選出...

末松 熊彦

從四位勳四等、前李玉職事務官...

末松 佐吉

京都府多額納稅者、建築請負業...

末松 茂治

從四位勳二等、陸軍中將、陸軍士官學校長...

末正 盛治

神戸労働製糖所、藤山電燈各務社長、神戸銀行、藤山電燈各務...

末正 武夫

明一、一、一、兵庫、小島莊兵衛妹...

末松 借一郎

從三位勳二等、衆議院議員、福岡縣選出...

末松 熊彦

從四位勳四等、前李玉職事務官...

末松 佐吉

京都府多額納稅者、建築請負業...



末吉震太郎

海老津炭礦取締役  
明三、一、生、福岡、光安貞次郎

末吉辰藏

大阪府在籍  
明三、二、生、福岡、光安貞次郎

末吉みち

大阪府在籍  
明三、二、生、大阪、久保榮助

末吉雄治

正七位、慶應義塾大學教授、醫學  
明三、二、生、松本高女出身

菅榮太郎

漢河橋製糖所取締役  
文久二、二、生、兵庫、菅林次郎

菅慎雄

熊本縣多額納税者、大野水力電氣  
明二、〇、七、生、熊本、吉田善門長

菅昌之助

菅昌之助商店代表社員、モスリ  
明一、七、四、生、神奈川、新井忠兵衛

菅禮之助

山形鐵業代表取締役、東京株式  
明二、二、五、生、秋田、長瀬直倫

菅清太郎

地主  
明二、五、九、生、大阪、藤田卯三郎

菅井豊藏

大阪府多額納税者、藥種商  
明三、五、生、大阪、小西勤兵衛

菅虎雄

從三位勳三等、第一高等學校講師  
明三、二、生、神奈川縣土族

菅忠雄

明三、二、生、神奈川縣土族

菅博雄

明四、〇、四、生、神奈川縣土族

菅高重

明四、二、三、生、神奈川縣土族

菅藤太郎

神口商工會議所副頭、菅藤太郎の長男  
明四、一、一、生、大阪、竹中爲次郎

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅一

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

菅元秀

大六、四、生、市立第二高女在學

入之部 菅(吉)末

(※印は姻族関係)

八二二



菅井孫右衛門 加福土地運取役 愛知縣在籍 妻 明二八、五生、大阪、中野利一姉...

菅井與左衛門 千葉縣多額納税者、醬油醸造業 千葉縣在籍 妻 明二二、九生、茨城、山本吉蔵妹...

菅田倉之助 金業 東京府在籍 妻 セン 明五、二生、東京、泰久五郎二女...

菅田佐太郎 武蔵野、質商 東京府在籍 母 ちか 安政五、九生、東京、猿渡覺右衛門...

菅田繁次郎 富山銀行常務取締役 富山縣在籍 妻 和子 大六、二生 女 松子 大六、二生...

菅居正治 正六位勲五等、醫師 京都府在籍 妻 やえ 明三五、三生、京都、石井七之助...

菅内龍一 千代田縣物産検査役、開平炭販賣 東京府在籍 父 六太郎 現戸主...

菅田英久 國庫徴兵保険取締役、福徳生命 東京府在籍 妻 ヤイ 明二八、四生 女 富士 明二八、四生...

菅田利三郎 東京府在籍 妻 シサ 明三一、八生、東京、榎本金太郎 男 誠一 大一一、二生...

菅谷益之助 扶養海上火災保險支店大阪 支店長、京都府在籍 妻 ヨシ 明二八、九生、京都、中村山三郎...

菅澤重雄 勲四等、千葉縣多額納税者、千葉 合同銀行、東山電燈各取締役 妻 はる 明八、三生、千葉、鈴木恒藏二女...

菅澤武三郎 醫師 大阪府在籍 妻 イサ 明二三、二生、大阪、井澤安次 男 奈良彦 明二八、六生...

菅谷カノ 丸善菅谷代表社員、家主 北海道在籍 君は兵庫縣人泉貴伊助の二女にして慶應二年六月を以て...

菅谷駒之助 高崎合同運送取締役 茨城縣在籍 妻 まん 明四三、六生 女 悦子 明四三、六生...

菅谷元次郎 金原銀行取締役 東京府在籍 妻 林太郎 明三四、五生、静岡、池田路三次 男 静四一、一一生、妻 林太郎妻、...

又之部 菅谷、長、波、沼

(※印は姻族關係)

菅谷 元治 大阪府商會理事、大阪織物...

菅沼 武雄 大阪商船會社、大阪府士族...

菅沼 清次郎 從五位、醫學博士、公立福島病院...

菅沼 久五郎 地主、東京府在籍...

菅野 伊太郎 岩手縣多額納稅者、金銀地金...

菅野 榮三郎 正五位勳四等、大阪稅關長...

菅野 熊次 土木建築請負業、東京府在籍...

菅野 健三郎 正五位勳五等、鐵道監督局技師...

菅野 脩一郎 從五位勳六等、前臺灣總督府中央...

菅波 龜吉 丁子堂代表社員、藥種貿易商...

菅沼 市藏 正四位勳三等、理學博士、第一高等...

菅沼 久五郎 地主、東京府在籍...

菅野 伊太郎 岩手縣多額納稅者、金銀地金...

菅野 榮三郎 正五位勳四等、大阪稅關長...

菅野 熊次 土木建築請負業、東京府在籍...

菅野 健三郎 正五位勳五等、鐵道監督局技師...

菅野 脩一郎 從五位勳六等、前臺灣總督府中央...

菅沼 熊次郎 金礦業、東京府在籍...

菅沼 五郎 茨城縣多額納稅者、農業...

菅沼 定男 醫學博士、應慶義塾大學醫學部...

菅沼 熊次郎 金礦業、東京府在籍...

菅沼 五郎 茨城縣多額納稅者、農業...

菅沼 定男 醫學博士、應慶義塾大學醫學部...

菅野 熊次 土木建築請負業、東京府在籍...

菅野 健三郎 正五位勳五等、鐵道監督局技師...

菅野 脩一郎 從五位勳六等、前臺灣總督府中央...

又之部 菅沼、野

(※印は姻族關係)

菅沼 和四郎 三州、島國、島肉鶏卵商...

菅沼 武雄 大阪商船會社、大阪府士族...

菅野 伊太郎 岩手縣多額納稅者、金銀地金...

菅野 榮三郎 正五位勳四等、大阪稅關長...

菅野 熊次 土木建築請負業、東京府在籍...

菅野 健三郎 正五位勳五等、鐵道監督局技師...

又之部 菅沼、野

(※印は姻族關係)

菅野 修藏 小樽水力電氣工業取締役、北海

菅野 盛次郎 東京府在籍、資産家

菅野 善右衛門 衆議院議員(福島縣選出)、農業

菅野 忠五郎 東京府在籍、岩手、穴澤宜定長

菅野 虎雄 東京府在籍、現戸主

菅野 信躬 三國電燈事務所取締役、宮城縣土族

菅野 傳右衛門 高岡商工會議所顧問、富山縣多額

菅野 米二 正五位勳五等、逓信局技師、東京

菅野 與八 岩手銀行常務取締役、岩手金藏

菅野 尚一 正三位勳一等功三級、陸軍大將

菅野 松次郎 京都府多額納税者、染織業

菅野 祐次 東叢岩村長、富山縣多額納税者

君は三重縣土族福田彦之丞の二男にして明治二十六年三月を以て生れ菅野原の養子となる大正六年東京帝國大學工科大学機械學科を卒業し直に逓信省に入り逓信局技師となり翌年逓信局技師に進む現逓信局技師にして東京逓信局海部出張所勤務なり昭和三年キューバ國ハバナに於て開催せる移民に關する第二回國際會議に隨員として出席し引續き瑞西國及丁抹國へ出張す家族は尙長女靖子(昭五、二生)養妹みち(大正二、三生)養父原造(昭五、二生)位田(昭四、四生)弟淳吉(昭一、三生)生母同上(昭二、四生)同夫辰次郎(慶應元、一)生、三重、芝山(昭二)は其一子をしてひ分家し養母ふみ(昭一、六)生、愛知縣人法學士新美徳太郎に嫁せりA二二〇(東京市荒川區日暮里町九ノ一〇九五)

菅野 理助

正五位勳五等、鐵道技師、監督局技術課勤務、福島縣在籍  
妻 ヤス 昭三、四生、福島高女出身  
君は福島縣人後藤與七の長男にして明治十九年五月を以て生れ昭和二年菅野五郎治より分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し鐵道院技師となり次で同院に任じ九州鐵道管理局工務課勤務に補せられ大正九年鐵道局技師となる爾來門司鐵道局工務課勤務同大分縣鐵道局長同工務課改良掛長神戶鐵道局工務課改良掛長大阪鐵道局改良課工務掛長等に歷補し昭和四年鐵道技師に任ぜられ現時監督局技術課に勤務す(東京市板橋區中新井町三ノ二一五七號驛馬三三三)

菅野和三郎

大倉洋紙店常務取締役、洋紙合石川縣在籍  
妻 千代 昭二、一、生、石川、保田巳之吉  
君は石川縣人潮和平の二男にして明治十九年六月を以て生れ昭和八年父菅野秀吉の死跡を繼承す現時大倉洋紙店常務取締役たる外商記會社の重役として知らるA二八六(大阪府住吉區帝塚山中三ノ九電住吉二四五四)

菅原 憲亮

奉天商工會議所議員、貿易商宮城縣在籍  
妻 榮 吉 昭四、一〇生、高知、野口榮三  
君は宮城縣人菅原久太夫の二男にして明治十六年五月を以て生れ大正五年兄宏方より分れて一家を創立す明治四十四年京都帝國大學法科大學を卒業し實業界に入り現に推されて奉天商工會議所議員たり(滿洲共益社取締役同監査役に擧げらる(奉天商工會議所内))

菅原 繁治

マルエス商會員兵庫縣在籍  
妻 すま 昭一、九、生、兵庫、村山定次郎  
養子 伯一 昭三、一、生、長女静夫、岡山、川手覺士郎  
君は兵庫縣土族先代重藏の長男にして明治十年八月二十日を以て生れ同三十四年家督を相続す現時マルエス商會員たり家族は尙孫浩夫(昭三、四生)養子伯一(長男)同連也(同六、六生)同説子(同九、二生)同長女あり(兵庫縣武庫郡住吉村兼松電燈御影四九二六)

菅原 純

兵庫縣在籍  
君は兵庫縣人菅原平左衛門の三男にして明治八年五月十五日を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す醫師たりA三二七(神戸市港東區中町六ノ一電渡川二〇五八)

菅原甚左衛門

仙臺商工會議所議員、酒造業宮城縣在籍  
妻 いち 昭二、八、九生、宮城、富士東治郎  
男 甚 昭一、一、生  
女 和子 昭一、一〇生  
君は宮城縣人先代甚左衛門の長男にして明治二十三年九月を以て生れ大正五年家督を相続し幾名祖業酒造業を營み推されて仙臺商工會議所議員及び宮城縣酒造組合常任幹事たり家族は尙三女和子(昭一、一〇)四

君は大阪府人菅原嘉造の長男にして明治十七年十一月一日を以て生れ大正十四年家督を相続す家主たり繪畫長唄を好む家族は尙三男修藏(昭四、一)生、福島商業學校出身あり長女英子(昭四、一)生、甲南高女出身(身)は兵庫縣人高橋安藏三男佳一に二女清子(昭四、三)生、出身校同上)は同縣人山本玄一長男謙太郎に三女貞子(昭四、五)生、出身校同上)は大阪府人今西儀兵衛長男良三に嫁せりA一八八八(大阪府南區難波新地三番丁二九電南二六一)

菅原 嘉造

大阪府在籍  
妻 てる 昭一、七、一〇生、京都、木村六右衛門  
男 嘉三郎 昭二、一、生、同志社大學在學  
男 潤次郎 昭二、一、生、福島商業出身  
君は大阪府人菅原嘉造の長男にして明治十七年十一月一日を以て生れ大正十四年家督を相続す家主たり繪畫長唄を好む家族は尙三男修藏(昭四、一)生、福島商業學校出身あり長女英子(昭四、一)生、甲南高女出身(身)は兵庫縣人高橋安藏三男佳一に二女清子(昭四、三)生、出身校同上)は同縣人山本玄一長男謙太郎に三女貞子(昭四、五)生、出身校同上)は大阪府人今西儀兵衛長男良三に嫁せりA一八八八(大阪府南區難波新地三番丁二九電南二六一)

菅原 次郎

前半田糖行取締役兵庫縣在籍  
妻 ナラエ 昭二、二、三、生、養父彌吉二女、梅田高女出身  
男 彌太郎 昭二、三、生、甲南高女出身  
女 隆子 昭二、三、生、甲南高女出身  
女 美代子 昭二、一〇生、甲南高女出身  
女 富美子 昭四、二、生、甲南高女出身  
女 光枝 昭八、一、生、甲南高女在學  
君は福島縣土族伊原康次の五男にして明治十三年二月を以て生れ菅原彌吉の長男にして昭和三年に分れて一家を創立す夙に三井物産會社に入り後半田糖行取締役たりしが現に同地にあり家族は尙六女喜久代(大正一、三)七女貞子(昭一、三、八)二男次郎(昭一、一、二)二女あり二女八重(昭四、一、二)生、甲南高女出身)は大阪府人豊田善右衛門に嫁せりA三一五(兵庫縣武庫郡細川村片屋平田電費屋二〇〇三)

菅原 義作

從五位勳五等、判事、今市區裁判所監督判事、宮城縣在籍  
妻 ソノ 昭二、五、一〇生、佐賀、野中佐市郎  
男 好子 昭五、一〇生  
女秀子(昭三、八生)三男慶夫(昭七、四生)の外弟慶三(昭三九、三)あり妹美なよ(昭二九、一)生は宮城縣人福利剛に同千代(昭四一、四)生は同縣人岩井正造に同光子(昭四四、六)生は同縣人小野勝一郎に嫁し同智恵(大正三、七)生は同縣人澤井利兵衛の養子となれり(仙臺市國分町電二四)

菅原 太郎

安田貯蓄銀行、江井ヶ島酒造各務取締役、兵庫縣在籍  
妻 しげ 昭一、四、二、生、兵庫、下部八兵衛  
男 太郎 昭三、九、生、現戶主、東京帝國大學圖書館嘱託、日本俳優學校教員、文學士  
女 種子 昭四、二、三、生、長男太郎妻、男爵千家家統妹  
君は兵庫縣人菅原寅五郎の長男にして明治二年八月十五日を以て生れ同三十九年家督を相続し昭和四年退隱す明治三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして義に篤第三銀行常務取締役百世銀行信濃銀行九十八銀行各監査役安田銀行常務取締役及安田貯蓄銀行副頭取并に昭和銀行昭和不動産會社重役に擧げらるA二二〇二八(東京市本郷區西片町一〇)ノ五電小石川二〇五五)

菅原 恒寛

鐵道工業取締役會會長、土木工業東京府在籍  
妻 スミ 昭一、一、二、生、廣島、島谷義郎妹  
男 恒三 昭二、五、一、生、早大專門部商科出身  
男 富樹 昭三、〇、一〇生、長男恒三妻、東大五、六生、雙葉高女在學  
君は岩手縣土族菅原文之允の二男にして男爵高平小太郎の從兄たり安政六年七月二十四日を以て生れ先代後藏の養子となり明治二十九年家督を相続す同十九年東

君は宮城縣人菅原義十郎の三男にして明治十六年十月を以て生れ大正六年兄義藏より分れて一家を創立す明治三十九年明治大學を卒業し大正四年判事任用試験に及第爾來司法官候補を経て判事となり岡山同地方裁判所判事松江地方裁判所部長廣島控訴院判事廣島地方裁判所判事等に歴任現時今市區裁判所監督判事たり家族は尙二男昭(昭五、四)生あり(鳥根縣藏川郡今市町今市區裁判所内)

菅原 教造

正五位勳六等、東京女子高等師範學校教授、文部省民衆娛樂調査委員、東京府在籍  
妻 ノブ 昭二、一、五、生、東京、内田芳兵衛  
君は新潟縣人菅原治郎吉の庶子にして明治十四年二月二十五日を以て生れ大正八年兄忠三郎より分れて一家を創立す明治四十年東京帝國大學工科大学哲學科を卒業し大正九年東京女子高等師範學校教授に任ぜられ現在に至る文部省民衆娛樂調査委員たり家族は尙三男正巳(大六、二)生、武藏高女在學)四男伸(昭九、八)生、府立五中在學)あり養子ツヤ(昭二六、一)生、は東京府人黒瀬芳藏長男盛久に嫁せり(東京市澁谷區代々木山谷町一二五)

菅原 九左衛門

山形縣會議員、山形縣多額納税者山形縣在籍  
妻 いし 昭六、四、生、山形、建部徳助長女  
養子 榮治郎 昭二、九、一〇生、養子榮夫、山形  
養子 榮治郎 昭三、七、二、生、養子榮治郎妻、山形  
君は山形縣人菅原慶藏の長男にして明治五年二月を以て生れ大正六年家督を相続す農業者を營み傍ら前記銀行の重役に直接間接二千五百四圓を納め縣下の多額納税者に列す昭和八年山形縣會議員に選ばる家族は尙孫初子(大正四、七)生、養子榮治郎長女あり庶子喜代恵(昭四一、四)生は其生母山形縣人長澤辰恵の家籍に入れり(山形縣東田川郡押切村)

菅原 傳

正五位勳三等、衆議院議員(宮城縣選出)宮城縣在籍  
妻 隆 昭一、四、七、生、東京、土、故大審院檢事川目亨一長女  
男 傳一郎 昭四、二、八、生  
男 昌子 昭三、六、一、一、生  
女 治子 昭三、八、五、生  
女 昭子 昭四、〇、四、生、東京女學館出身  
君は宮城縣人菅原應輔の二男にして文久三年八月を以て生れ明治三十二年分れて一家を創立す先是同十二年大學預備門に學び尋いで大學に進み専ら政治學を修む同十九年米國に航しパレライツク大學に入り政治法律を研究する事二年後自由黨に加盟し桑港に於て愛國同盟會を起し機關新聞十九世紀を發行して遂に本國民衆を警醒す偶々治安妨害を以て政府より禁止の厄に遭へり同二十六年布哇を経て再び米國に渡り同二十八年朝鮮を跋渉して歸朝す同三十一年以來衆議院議員に當選する事十四回衆議院內閣委員長に擧げらる立憲政友會所屬にして幹事協議員院內總務本部總務常務議員會々長として黨の樞機に參じ同會知名の士たり曾て人民新聞を創刊して其社長となり日露事件の功に依り勳三等旭日小綬章を授けられ大正三十四年事件の功に依り勳三等に陞級し瑞寶章を賜る大正三十四年勳章内閣成立するに及び

海軍参謀官に任ぜられ正五位に叙せらる(東京市淀橋区下落合四ノ一五七四電大塚三九三二)

菅原 豊太郎 酒田商工會議所副會頭、島海電力酒田營業所取締役、時計貴金屬商、山形縣在籍

菅原 浩 正八位、菅原電氣會社代表取締役、電氣器具製作業、東京府在籍

菅原 通敬 從四位、東北振興會、仙臺育英會理事、東北振興會、仙臺育英會、旭紡織株式會社、宮城縣在籍

菅原 通濟 鐵道工業、日本アスファルト、郡山バス、菅原ヨム、日本自動車、山形山宅地、鎌倉遊覽、聯合自動車、山形縣在籍

菅原 義雄 宮城銀行、宮城送電興業各種取締役、仙臺ビルディング、監査役、宮城縣在籍

菅原 正作 第八十五銀行監査役、織物商、埼玉縣在籍

菅原 正英 從五位、秋田縣裁判所判事、秋田縣在籍

菅原 幾久馬 大阪府多額納税者、金融業、大阪府在籍

菅原 安太郎 實商、大阪府在籍

菅原 三右衛門 大阪府多額納税者、菅本堂無限責任社員、金融業、大阪府在籍

菅原 繁造 菅本堂商店代表社員、金融業、大阪府在籍

菅原 温平 正五位、鐵道技術師、東京電氣事務所長、東京府在籍

菅原 三郎 從三位、東京帝國博物館、東京府在籍

菅原 巖美 從五位、種馬所技術師、長野種馬所長、種馬所、三輪元養子、種馬所、三輪元養子

菅原 貞子 明三、三、宮城、士、齋藤甲吉三女、秋田高女出身

菅原 貞子 明三、三、宮城、士、齋藤甲吉三女、秋田高女出身

菅本 一之 醫師、大阪府在籍

菅本 繁造 菅本堂商店代表社員、金融業、大阪府在籍

菅本 温平 正五位、鐵道技術師、東京電氣事務所長、東京府在籍

菅本 三郎 從三位、東京帝國博物館、東京府在籍

菅本 巖美 從五位、種馬所技術師、長野種馬所長、種馬所、三輪元養子、種馬所、三輪元養子

菅 通敬 從四位、東北振興會、仙臺育英會理事、東北振興會、仙臺育英會、旭紡織株式會社、宮城縣在籍

菅 通濟 鐵道工業、日本アスファルト、郡山バス、菅原ヨム、日本自動車、山形山宅地、鎌倉遊覽、聯合自動車、山形縣在籍

菅 義雄 宮城銀行、宮城送電興業各種取締役、仙臺ビルディング、監査役、宮城縣在籍

菅 正作 第八十五銀行監査役、織物商、埼玉縣在籍

菅 正英 從五位、秋田縣裁判所判事、秋田縣在籍

菅 幾久馬 大阪府多額納税者、金融業、大阪府在籍

菅 安太郎 實商、大阪府在籍

菅 三右衛門 大阪府多額納税者、菅本堂無限責任社員、金融業、大阪府在籍

菅 繁造 菅本堂商店代表社員、金融業、大阪府在籍

菅 温平 正五位、鐵道技術師、東京電氣事務所長、東京府在籍

菅 三郎 從三位、東京帝國博物館、東京府在籍

菅 巖美 從五位、種馬所技術師、長野種馬所長、種馬所、三輪元養子、種馬所、三輪元養子

菅 貞子 明三、三、宮城、士、齋藤甲吉三女、秋田高女出身

菅 貞子 明三、三、宮城、士、齋藤甲吉三女、秋田高女出身

菅本 一之 醫師、大阪府在籍

菅本 繁造 菅本堂商店代表社員、金融業、大阪府在籍

菅本 温平 正五位、鐵道技術師、東京電氣事務所長、東京府在籍

菅本 三郎 從三位、東京帝國博物館、東京府在籍

菅本 巖美 從五位、種馬所技術師、長野種馬所長、種馬所、三輪元養子、種馬所、三輪元養子

菅本 貞子 明三、三、宮城、士、齋藤甲吉三女、秋田高女出身

菅本 貞子 明三、三、宮城、士、齋藤甲吉三女、秋田高女出身

菅本 一之 醫師、大阪府在籍

いで鐵道局技師となり同十二年歐米に出張す同十四年...

杉 七郎

母 邦 明一八、六生、子爵田村五顯妹...

杉 精三

君は山口縣人藤田梅三郎の長男にして明治四年八月を以て...

信局長大阪地方海員審判所長選信省經理局長等を経て...

杉 琢磨

君は岡山縣人杉哲太郎の二男にして明治十五年十二月...

杉 敏介

君は山口縣人杉藤三郎の長男にして明治五年五月を以て...

創立す同三十五年海軍機關學校を卒業し翌年海軍機...

杉 道助

君は舊長州萩藩士杉相次郎の長男にして明治十七年二月...

杉 基一

君は愛媛縣人杉晴之助の八男同温平同宜陳の弟にして...

られ今日に至る家族は尙長女葉子(昭三、一〇生)二女...

杉 宜陳

君は愛媛縣人杉晴之助の五男同温平の弟同基一の兄にして...

杉 榮次郎

君は兵庫縣人川合與次兵衛の三男同茂兵衛の弟にして...

杉 浦吉之助

君は甲中懐徳油取締役、中懐徳...

君は愛知縣人杉浦理兵衛の長男にして安政六年十一月...

杉 貞吉

君は愛知縣人杉木佐太夫の三男にして文久二年三月を...

杉 銀藏

君は愛知縣人杉山伊佐雄に養妹ふみ(昭二、一〇生)は...

杉 浦國松

君は愛知縣人杉山伊佐雄に養妹ふみ(昭二、一〇生)は...

君は大阪府人杉浦安右衛門の長男にして弘化二年二月...

杉 清治郎

君は大阪府人杉浦安右衛門の長男にして弘化二年二月...

杉 俊一

君は東京府士族先代謙三の長男にして明治十年十一月...

杉 浦甲子郎

君は東京府士族先代謙三の長男にして明治十年十一月...

入之部 杉(浦)

(※印は姻族關係)

入三五

**男 英夫** 明三四、八生、日本火災保險會社員、東大經濟學部出身

**男 勝郎** 明三八、一〇生、日本火災保險會社員、東大經濟學部出身

**女 泰子** 大五、六生、雙葉高女出身

君は美城縣士族森田八十太郎の二男にして元治元年六月三日を以て生れ、後先代敏の養子となり、明治十七年家督を相続す。現時千歳商會社長たる外、前記諸會社の重役にして、義経川崎伏見足利各銀行の重役たりし事あり。長女たま(明三一、五生)は東京府人佐藤五郎に二女直子(同三七、一五生)は長野縣人若原安次長男恒雄に三女正子(明四四、七生)は雙葉高女出身、佐賀縣人石川又八二男繁人に嫁せり。A一二七〇(東京市小石川區白山御殿町一〇八電小石川一五) 参照 佐藤五郎の項

**杉浦 研作** 日本銀行會計課長

君は東京府人鈴木憲章の三男にして同秀三の弟なり。明治十八年八月十九日を以て生れ、同三十二年叔父杉浦直の死跡を相続す。同四十四年東京高等商業學校専攻部を卒業し、日本銀行に入り、現時同行計算課長たり。(東京市品川區大井町三〇六七電大井一五) 参照 鈴木秀三の項

**杉浦 貞二郎** 從四位勳三等、立教大學名譽教授

君は若狭國小濱藩士杉浦愷の二男にして、明治三年十月二十六日を以て生れ、同四十二年分れて一家を創立す。凡に立教大學を出で、直に米國に航し、費府ペンシルヴァニア大學を卒業し、更に同大學に於て哲學博士の學位を受け、尚費府神學院にて宗教學を修め、神學博士の學位を受く。歸朝後、母校に講師たりしが、明治三十六年陸軍教授に任じ、陸軍大學校教官に補せらる。爾來勤続二十年に及びしが、大正十二年母校立教大學昇格後、其學長となり、在任十年の後之を辭して、名譽教授に擧げらる。長女ゆり子(明三六、七生、御茶の水高女出身)は熊本縣人

**杉浦 治郎右衛門** 關東商會監査役、萬事代表

君は關東縣士族杉浦吉副の長男にして、明治十五年十月を以て生れ、昭和四年叔父吉方より分れて一家を創立す。明治四十三年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し、愛知縣立第一中學校教諭となり、大正七年桐生高等染織學校教授に任じ、同九年同校の桐生高等工業學校と改稱後、引續き其職に在り、以て今日に至る。同十五年英獨各國に留學す。家族は尙三女若子(大一一四、五生)あり(桐生市小曾町三二一七三三)

**杉浦 二郎** 正五位勳五等、關東高等工業學校教授、福島縣在籍

君は京都府人杉浦福助の長男にして、明治九年七月を以て生れ、同十二年家督を相続す。現時杉浦商店監査役たり。京都府多額納稅者にして、直接國稅三千五百六十四圓を納む。家族は尙庶子貞次(大一一四、二生、生母、大坂田邊津)孫利元(昭四一、一五生、長男、杉浦太郎長男)同利次(同八、九生、同二男)あり。妹あり(明一四、五生)は京都府人遠藤彌作に嫁せり。A二一八〇(京都市中京區三條通富小路一四電本局二一六)

**杉浦 稠三** 從七位、工學博士、住友伸銅鋼管製造所長兼檢査部長、新潟縣士族

君は新潟縣人川上小作の三男にして、明治十七年七月を以て生れ、先代久大の養子となり、大正十二年家督を相続す。現時住友伸銅鋼管製造所長兼檢査部長たり。義経工學博士の學位を受く。家族は尙三男眞竹(大六、一五生)あり。養妹菊英(明一五、一〇生)同夫不二(同一五、一五生)東京、高倉義雄(二男)は其一子を伴ひ分家し、從弟利吉(同二六、七生)も亦分家せり。A六五〇(大坂市西成區東區池町三〇電天下茶屋三五四六)

**杉浦 宗三郎** 正四位勳三等、工學博士、鐵道會社職員、日本精工、日本煉炭、秋田鐵道各監査役、東京府在籍

君は愛知縣人故杉浦文策の六男にして、明治二十五年八月を以て生れ、大正十二年兄倉二より分れて一家を創立す。大正六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し、同八年判事に任ぜられ、金澤地方同縣名古屋各區安濃津地方各裁判所判事に歴補し、現時金澤地方裁判所判事兼同區裁判所判事たり。家族は尙三男昭(昭四一、一五生)四男亮(同七、一五生)長女玲子(昭九、二五生)あり(金澤市佛中町一六)

**杉浦 武雄** 正五位、辯護士

君は愛知縣人杉浦六太郎の長男にして、明治二十三年五月を以て生れ、同四十二年家督を相続す。大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し、司法官試補朝鮮總督府判事に歴任せしが、後官を辭し、辯護士となる。爾來愛知縣より衆議院議員に當選すること三回。又義経昭和六年若槻内閣成立と共に、拓務參事官に擧げらる。家族は尙長女和子(昭二、六生)二女道子(同四、三三)弟博(明三三、一五生、經濟學士)同妻あり(同四一、一五生、愛知、片桐喜太郎三女)弟文雄(同三六、一五生、理學士)あり(東京市麻布區三軒屋町五二電高輪八二〇二)

**杉浦 忠雄** 正五位勳四等、關東廳法院判官、高等法院長上告部長、東京府在籍

君は愛知縣人先代傳吉の長男にして、明治七年七月を以て生れ、同廿六年家督を相続し、前名角太郎を改め、名す。山形縣と稱し、繪具藥品商を營む。A五一〇B一三(東京市本所區東區兩國四ノ六〇ノ四電本所三〇九一)

**杉浦 泰司** 東京府在籍

君は東京府人杉浦鐵五郎の二男にして、明治三十一年四月十五日を以て生れ、大正十二年家督を相続す。會社員たり。家族は尙二男芳(昭六、四生)弟茂(明四二、八生)あり。叔父義吉(明一四、三三)同妻あり(明二二、一〇生、群

**杉浦 武雄** 會社員

君は東京府人杉浦鐵五郎の二男にして、明治三十一年四月十五日を以て生れ、大正十二年家督を相続す。會社員たり。家族は尙二男芳(昭六、四生)弟茂(明四二、八生)あり。叔父義吉(明一四、三三)同妻あり(明二二、一〇生、群

**杉浦 傳吉** 山形縣、繪具藥品商

君は愛知縣人先代傳吉の長男にして、明治七年七月を以て生れ、同廿六年家督を相続し、前名角太郎を改め、名す。山形縣と稱し、繪具藥品商を營む。A五一〇B一三(東京市本所區東區兩國四ノ六〇ノ四電本所三〇九一)

**杉浦 泰司** 東京府在籍

君は東京府人杉浦鐵五郎の二男にして、明治三十一年四月十五日を以て生れ、大正十二年家督を相続す。會社員たり。家族は尙二男芳(昭六、四生)弟茂(明四二、八生)あり。叔父義吉(明一四、三三)同妻あり(明二二、一〇生、群

**杉浦 武雄** 會社員

君は東京府人杉浦鐵五郎の二男にして、明治三十一年四月十五日を以て生れ、大正十二年家督を相続す。會社員たり。家族は尙二男芳(昭六、四生)弟茂(明四二、八生)あり。叔父義吉(明一四、三三)同妻あり(明二二、一〇生、群

**杉浦 傳吉** 山形縣、繪具藥品商

君は愛知縣人先代傳吉の長男にして、明治七年七月を以て生れ、同廿六年家督を相続し、前名角太郎を改め、名す。山形縣と稱し、繪具藥品商を營む。A五一〇B一三(東京市本所區東區兩國四ノ六〇ノ四電本所三〇九一)





杉下 彰

木綿太物商、金蔵業
大阪府在籍
父 助三郎 慶應元、二生、現戶主
君は兵庫縣人杉下助三郎の長男にして明治四十年七月十五日を以て生る木綿太物商にして金蔵業を兼ぶA一六七八(大阪府南區豐町通三ノ二八電話場一〇八七)月參照||杉下助三郎の項

杉下助三郎

木綿太物商
大阪府在籍
妻 サト 明九、一、二生、大阪、杉下定助長女
男 彰 明四〇、七生
君は兵庫縣人友定秀助の二男にして慶應元年二月を以て生れ明治二十五年先代サトの入夫となり家督を相続す木綿太物商を兼ぶ養母イノ(嘉永五、一、生、大阪、志形市郎兵衛二女)は大坂府人杉下右門七の死跡を相続し長女イサ(明二七、六、生)は分家せりA二九三七(大阪府南區豐町通三ノ八電話場一〇八七)月參照||杉下彰の項

杉下 爲吉

埼玉多額納税者、呉服商
埼玉縣在籍
妻 愛三 明二〇、四生、長女かつ夫、埼玉
女 かつ 明二六、五生、養子愛三妻
孫 とく子 大六、一、二生、養子愛三長女
君は埼玉縣人岡戸岩五郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同十八年先代文六の死跡を相続す呉服商を兼ぶ縣下の多額納税者に列し直接國稅千七百九十三圓を納む義に多額納税者社社長羽生銀行重役たり家族は尙孫正太郎(大四、一、生、養子愛三長男)同善次郎(同一、二、生、同二男)あり養子ら(明一三、七、生、父岡戸岩五郎三女)は埼玉縣人新井番五郎孫松五郎に嫁せり(埼玉縣北埼玉郡羽生町)

杉下 裕次郎

正五位勳五等、大使館一等書記官
關西國在籍、愛知縣在籍
妻 とき 明四、三、生、愛知、土、牧野田六
女 女 明四、三、生、愛知、土、牧野田六
君は愛知縣人松下正命の長男にして明治二十六年六月を以て生れ大正十四年家督を相続す同六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し外交官及領事官試験に合格

杉田 英逸

宮崎縣多額納税者、日向中央銀行
日向中央銀行
妻 フサ 明三〇、九生、宮崎、長女球次郎姉
女 眞一郎 明四、四生
君は宮崎縣人故多額納税者杉田與助の二男にして明治十九年十二月を以て生れ大正十四年家督を相続す現時日向中央銀行日向殖産會社各取締役たり直接國稅千六百四十五圓を納む縣下の多額納税者に列す家族は尙二男敏夫(大〇、二、生)三女喜久(同一、一、生)三男和夫(同一、四、生)四男繁夫(明三、九、生)孫幹子(同四、一、生)養子毅長女あり弟與平(明二二、一、生)同妻フク(同二四、九、生)宮崎、土、濹谷盛義姉は其

杉田 喜助

肥後縣絲組取締役、呉服商
熊本縣在籍
妻 利 明一、五、生、熊本、永守長藏妹
男 第一郎 明三四、一〇生
女 美代 明四三、二生
女 富美 明四五、一、生
君は熊本縣人杉田喜三郎の三男にして明治四年十二月を以て生れ同十五年兄助三の後を繼承し家督を相続す呉服商を兼ぶ現時肥後縣絲組取締役たり義に肥後製絲會社の重役に擧げらる家族は尙六女榮子(大九、一、生)孫精三(昭五、七、生)養子信吾(長女)あり姉スキ(慶應二、三、生)は熊本縣人杉田嘉作の家婦に入り同タス(文久二、九、生)は同縣人吉田孫四郎に同ハル(明二、一、生)は同縣人上野熊喜に嫁せり(熊本縣上益城郡御船町九二二)

杉田 喜平次

宮崎銀行取締役、酢醬油醸造業
宮崎縣在籍
妻 シゲ 明二、四、生、宮崎、福田奈良長藏長女
君は大坂府人杉田宗左衛門の三男にして同宗助の叔父なり明治二十四年二月を以て生れ大正十一年家督を相続す同五年東京帝國大學法科大學を卒業し恩賜の時計を拜受す又在學中中文官高等試験に合格し卒業後直ちに内務省に入り内務書記官に任ぜられ同七年外務事務官に轉じ主として對獨逸の事務に従事す同九年法制局參事官に任ぜられ昭和七年行政裁判所評定官兼法制局參事官に任ぜらる家族は尙三女嘉子(大一〇、七、生)及女加代子(昭三、一、生)の外弟芳郎(明三、一、生)其妻ありA一四四九(東京市牛込區矢來町二〇電牛込二四〇〇)月參照||杉田宗助、杉田芳郎、村井眞津淡出光佐三參照||杉田安次郎の項

杉田 清治

秋田縣多額納税者、房後銀行取締役、増田水力電氣監査役
秋田縣在籍
妻 ツル 慶應元、一、生、祖父清治長女
女 七チ 明二、九、生、秋田、池田文一郎
女 普次郎 大九、三、生
女 榮 明三五、四、生、長女キヨ夫、秋田
女 伊藤五兵衛弟
女 明四〇、二、生、養子榮妻
女 大六、五、生
君は秋田縣人先代清治の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正十四年家督を相続し前名清太郎を改め義名才金蔵業を兼ぶ傍ら前記銀行會社の重役に擧げられ直接國稅四千九百一十一圓を納む縣下の多額納税者として知らる又義に横手織物會社水力電氣會社の重役たりし事あり家族は尙三男繁(大一二、一、生)六女喜美(同一、五、七、生)孫道雄(昭四、一、生)養子榮長男(第周四(明三四、九、生)同妻キエ(同四三、九、生)秋田、武田健治三女)及其一女同清(同三九、八、生)あり二女かつ(同四二、一、生)は秋田縣人照井多吉に三女アイ(同四三、一〇、生)は同縣人海輪利光に妹キヨ(同二三、一、生)は同縣人栗原茂左衛門孫茂助に同ウシ(同二八、四、生)は同縣人佐藤治に同ジエン(同三三、六、生)は同縣人渡部久四郎長男佐一郎に同セツ(同三三、一、生)は同縣人明石敬吉に嫁し同リウ(同二〇、七、生)は同縣

杉田 繁治

從七位、葦屋商事社長、日本
LD製作者、杉田油脂工業所及杉田鐵工所主、紡績用品商
兵庫縣在籍
妻 晴 大一一、二、生
君は兵庫縣人杉田太吉の二男同政一の兄にして明治二十一年九月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す夙に神戸高等商業學校を卒業し現時葦屋商事社長にして前掲各工場を主宰す家族は尙二男清(昭三、九、生)ありA二六二(神戸市舞合區野崎通三ノ六電話合六八七)月參照||杉田政一、淡田有田香松の項

杉田 正三郎

從四位勳三等、行政裁判所評定官
兼法制局參事官、大阪府在籍
妻 八千代 明三〇、七、生、東京、村井眞雄長
女 幸雄 大一一、二、生
女 美代子 大七、一、生、佛英和高女出身

杉田 恭助

英城製米種代表取締役、關東製米
英城五郎、水戸藩市場、土浦製米
各種取締役、英城無糖糖査役
木綿縣在籍
妻 ハマ 明三五、四、生
男 醇一郎 明四二、〇、生、長男醇一郎妻、
男 喜久子 明四四、二、生
男 道二郎 明四四、二、生
君は木綿縣人杉田太三郎の長男にして明治九年三月を以て生れ同十四年家督を相続す夙に實業界に入り現時前記各會社の重役たり家族は尙五男禮三(大五、二

杉田 敬一郎

帝國製藥社長
東京府在籍
妻 武 慶應三、八、生、東京、青沼直吉長女
女 波子 明三三、四、生、明大經濟科出身
女 敬三 明三九、一、生、長男武雄妻、福島
女 敬三 明四一、一、生、早大出身
君は舊相馬藩士杉田榮明の二男にして安政六年一月を以て生れ後見親の後を承け家督を相続す夙に東京帝國大學醫科大學藥劑科を卒業し製藥業を創始せしが後之を株式組織に改め帝國製藥會社となし其社長に擧げらる二女美代(明三七、五、生)は東京府人中村渡次郎長男泰輔に三女嘉代(同三八、八、生)は同府人高田太郎に嫁せりA三四五(東京市本郷區龍岡町二七電小石川五九〇八)月參照||白井博之、中村渡次郎參照藤原見淡近藤和兵衛參照鈴木章之參照掛與左衛門の項

杉田 繁治

從七位、葦屋商事社長、日本
LD製作者、杉田油脂工業所及杉田鐵工所主、紡績用品商
兵庫縣在籍
妻 晴 大一一、二、生
君は兵庫縣人杉田太吉の二男同政一の兄にして明治二十一年九月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す夙に神戸高等商業學校を卒業し現時葦屋商事社長にして前掲各工場を主宰す家族は尙二男清(昭三、九、生)ありA二六二(神戸市舞合區野崎通三ノ六電話合六八七)月參照||杉田政一、淡田有田香松の項

杉田 正三郎

從四位勳三等、行政裁判所評定官
兼法制局參事官、大阪府在籍
妻 八千代 明三〇、七、生、東京、村井眞雄長
女 幸雄 大一一、二、生
女 美代子 大七、一、生、佛英和高女出身

杉田 恭助

英城製米種代表取締役、關東製米
英城五郎、水戸藩市場、土浦製米
各種取締役、英城無糖糖査役
木綿縣在籍
妻 ハマ 明三五、四、生
男 醇一郎 明四二、〇、生、長男醇一郎妻、
男 喜久子 明四四、二、生
男 道二郎 明四四、二、生
君は木綿縣人杉田太三郎の長男にして明治九年三月を以て生れ同十四年家督を相続す夙に實業界に入り現時前記各會社の重役たり家族は尙五男禮三(大五、二

人後藤三左衛門の養子となり弟賢治(同三一、五生)同...

杉田仙次郎

大仙商店、帽子洋傘商 東京府在籍 養母 嘉永二、一〇生、東京、杉田文之助長女...

杉田善右衛門

大阪府多額納税者、地主 大阪府在籍 男 勤市郎 明四一、一〇生...

杉田宗助

具本木橋社長、和泉銀行、和泉貯蓄銀行、和泉木橋商、大阪府在籍...

君は大阪府人先代宗助の長男杉田正三郎同芳郎の甥に...

杉田哲二

名古屋銀行事務課長 愛知縣在籍 妻 是る 明三〇、四生、愛知、加藤時二郎...

杉田鐵次郎

前昭和土地代表取締役 東京府在籍 妻 さた 明四一、一〇生、東京、清水良助二女...

大倉組勤務を経て昭和土地代表取締役たりしが後...

杉田直樹

正五位、醫學博士、名古屋醫科大學教授、東京府在籍...

杉田政一

高砂屋、煎餅商 兵庫縣在籍 妻 裕 明三〇、一〇生、千葉、小川梯登妹...

杉田萬藏

熊本縣多額納税者、酒造業 熊本縣在籍 妻 隆 明七、六生、熊本、菊池塔長女...

杉田與兵衛

杉田與兵衛商店、大日本電業各務社長、本炭、石炭商、大阪府在籍...

杉田芳郎

從五位、拓務書記官兼拓務大臣秘書官、大臣官房書記官、東京府在籍...

杉田六藏

横濱火災海上保險取締役 東京府在籍 妻 カヨ 明三二、九生、鳥取、戸津川四郎...

杉谷泰山

從四位勳四等、元三井教育顧問 東京府在籍 妻 武雄 明三六、八生、東京、鈴木良助長女...

杉谷峯太郎

大阪府在籍 妻 貞 明三〇、六生、大阪、伊藤平三郎...



杉原榮三郎

東京米穀商品取引所理事、貿易...

男 二 郎 明三七、八生、日本勸業銀行員、...

杉原惟敬

熊本電氣、球磨川電氣、鹿兒島電...

妻 チヨ 明七、三三、熊本、土、三宅武雄姉...

杉原美代太郎

正四位勳二等、陸軍中將、第七師...

父 全 徳 嘉永六、八生、現戸主...

杉村愛仁

正五位勳四等、宮内省主馬頭...

妻 信 代 明二九、一一、香川、西山彰養子...

杉村逸樓

正四位勳三等、朝鮮信託社長、...

男 茂 明四四、七生...

杉村英三郎

前鴻池信託東京支店長...

妻 エイ 明三七、三三、香川、松下恵明長女...

杉村欣次郎

正五位勳四等、東京文理科大學教...

妻 ユリ 明三三、一〇、東京、山縣五十雄...

杉村鎮夫

從五位勳五等、臺北帝國大學教授...

妻 千代 明三一、一〇、東京、仙川公篤...

住宅電四〇二六

參照 眞賀龍夫の項

杉村七太郎

正四位勳二等、醫學博士、東北帝...

妻 きむ 明一七、三三、故郷福岡岡官岡田...

杉村正太郎

前朝鮮電氣總相談役...

妻 ヒサ 明一六、六生、東京、士、五代龍...

杉村恒造

從四位勳四等、日比谷々長...

妻 かね 明三三、一〇、東京、鳥取、士、橋本久...

**妻** 清 明二四、四生、鳥取、士、間宮敏也四女  
 恒 明四三、九生、三越勤務、名古屋高等商業學校出身  
 女 律子 大元、一一生、同志社女子專門學校出身  
 男 利二 大三、四生、早大第一高等學院理科在學  
 女 夏子 大五、七生、京都平安女學院專攻科在學  
 女 清子 大七、六生、鳥取高女在學

君は舊島取藩士杉村貞民の長男にして明治六年三月二十八日を以て生れ同三十六年家督を相続す同二十八年東京法學院を卒業し翌年外務省に入り外務局となり爾來外務書記生副領事總領事勳任總領事等に累進し本省の外務省トウソウケル加奈陀オウソウ支那杭州米國ポルトランド比律賓マニラの各地に在勤す其間官命に依り西比利亞由歐洲へ差遣さるゝこと東京に於て比律賓遊遊を以て組織せらるゝ日比會を主宰し現に其會長たる外専ら地方文化の向上發展の爲盡瘁しつゝあり讀書旅行を趣味とす長女文子(明三八、四生、三輪田高女出身)は鳥取縣人東京高工出身紐育グアキニム・スタンダード石油會社員太中捨三に嫁せり(鳥取市栗谷町八)

杉村友次郎

杉村商店事務取締役、杉村悉無責任社員、東京府在籍  
 妻 トラ 門三、八生、東京、杉村彦右衛門  
 男 文一郎 明四二、一〇生、米國エール大學在學  
 女 信二郎 明四四、一〇生  
 女 和子 大六、二生、東京女學院在學

君は東京府人杉村其衛の弟にして同米次郎の兄なり明治十八年六月を以て生れ昭和八年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙三男勇吉(大七、五生、府立一中在學)四男純吉(同八、二生、第一東京市立中學校)四女菜子(同九、九生、九段精華女學校)五女小枝子(同十一、一〇生、雙葉高女在學)あり長女友子(明四一、七生)は東京府人山中陽太郎に

嫁せりA三〇四(東京市麹町區龜町七ノ二〇電九段五四二)  
 參照 杉村其衛、杉村彦右衛門、杉村米次郎、田中陽太郎參照薩摩治兵衛中村茂八若林龜之助の項

杉村彦右衛門

杉村彦右衛門の長男にして明治二十年九月十三日を以て生れ同四十一年家督を相続と共に前名五作を改め襲名す現時杉村彦右衛門無責任社員たり家族は尙庶子廣次(昭五、一〇生、生母、東京、村岡千代)あり同妻(大九、八生、生母同上)同妻(昭二、三、生母同上)は其生母の養子となり養子つる(明一、三、生、中村善右衛門三女)は東京府人杉村其衛に妹トラ(同二三、八生)は其弟友次郎に嫁せり(東京市世田谷區玉川瀨田町玉眞院内杉村彦右衛門會社)參照 杉村其衛、杉村友次郎の項

杉村秀松

大阪海産物部副社長、海産物商  
 妻 なか 明一、七生、大阪、杉村彌一郎  
 男 正次郎 明三八、五生  
 女 富子 明四〇、三、長男正次郎、妻大藤、村松福松姉  
 女 養子 明二八、一〇生、長女タマ夫、岐山、岩佐安次郎三男  
 女 タマ 明三〇、三、養子藤一妻

君は大阪府人杉村庄七郎の四男にして慶應三年十二月十日を以て生れ明治十七年家督を相続す現時大阪海産物會社副社長にして海産物商を營む家族は尙孫養子(大九、五生、養子藤一長女)同妻(昭四、四生、長男庄次郎長男)あり二女(明三二、一〇生)は大阪府人寺村正太郎に嫁し三男勇三(同四三、一〇生)は大阪府人於て慶應橋氏を再興すA六七五(大阪市西區中區通二ノ八)一電土佐堀二七五

杉村博通

正五位勳五等、前庄川水力電氣會社事務取締役、東京府在籍  
 妻 昌 明三六、六生、日本電力會社員、慶大經濟學部出身

杉村廣太郎

朝日新聞社監査役  
 妻 とみ 嘉永五、一一生、和歌山、士、木梨支麻二女  
 男 文夫 明一五、四生、静岡、濱田文作長  
 男 正元 明四三、二生  
 男 元 大元、八生

君は舊和歌山藩士杉村庄次郎の長男にして明治五年七月を以て生れ同七年家督を相続す明治二十七年京都本願寺文學寮の教師となり同三十二年米國公使館員となり同三十六年東京朝日新聞社に入り現に編輯局兼記事審査部長にして同社の株式會社を用ひて以來引續き十二年間監査役たり楚人名を用ひて「大英遊記」「ちまのかは」にして「新聞紙」新聞紙の内外「新聞の話」小説うるさき人々「湖畔吟」等の著あり四男武(明四一、八生)は和歌山縣土族喜多福武三郎の養子となれり(千葉縣東葛飾郡我孫子町二二二電四)

杉村紋次郎

戸張新兵衛商店員  
 妻 こめ 明二二、八生、福井、山口久藏妹  
 男 平太郎 大八、二生

杉村勇次郎

從四位勳三等功四級、陸軍少將  
 妻 繪乙女 明一六、二生、桐谷武助長女  
 男 誠 明四四、八生、現戶主  
 女 和 大四、九生

君は石川縣人杉村直吉の二男にして明治四年八月三十一日を以て生れ同三十九年兄信太郎方より分れて一家を創立し昭和九年退隱す夙に軍籍に入り大正五年陸軍少將に陞任し同六年豫備役被仰付昭和五年後備役となる(京都市東山區岡崎法勝寺町電上四六九)

杉村陽太郎

正四位勳二等、法學博士、特命全權大使、伊太利國駐劄  
 妻 花子 明二七、七生、故衆議院議員鶴原  
 男 陽一 大四、九生、雙葉高女出身  
 女 和子 大四、八生  
 女 秀 大六、三、三

君は故伯朝西爾駐劄特命全權公使杉村清の長男にして明治十七年九月を以て生れ同三十九年家督を相続す同四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し外交官及領事官試験に合格す同年領事官補として里昂に在勤し爾來外交官補大使館三等書記官公使館二等書記官外務省參事官國際聯盟帝國事務局長に陞任し支那及佛國に在勤す昭和二年特命全權公使に任じ國際聯盟事務大臣に推され政務部長を兼ね壽壽に在勤す昭和九年五月前記の職に轉ず兼に法學博士の學位を授けらるゝ又華盛頓會議參列の全權委員海牙開議時法規改正委員會帝國委員となり會議に列席す家族は尙三女幸子(大九、一〇生)叔母ルエ(嘉永六、一一生)あり弟欣次郎(明二二、五生、東京高等師範學校教授、理學士)

杉本五十鈴

古河鐵業社理事、古河電氣工業會事務取締役、東京府在籍  
 妻 増子 明二〇、一〇生、東京、士、能勢津二妹、府立第二高女出身  
 男 鏡一 明四四、一〇生、法學士  
 女 摩耶子 明四四、九生、御茶の水高女出身  
 女 三春子 大六、二生、雙葉高女出身  
 女 幸子 大六、一〇生、雙葉高女在學

君は福島縣土族吉田扶の四男にして同清田村於て宛の實兄なり明治九年一月三日を以て生れ杉本正徳の養子となり同四十五年養兄吉方より分れて一家を創立す同三十四年東京帝國大學工科大学探検冶金科を卒業し農商務省鑛山監督署技術師商務技術師に任ぜられ大正二年古河鐵業會社に入り累進して取締役となり後古河電氣工業會社に轉勤事務取締役となり古河鐵業會社理事を兼ね趣味に相撲骨董彫刻小鳥等あり家族は尙四女純子(大一一、八生、雙葉高女在學)三男健三(同四一、二生)五女好美(昭四、四生)ありA一〇二八(東京市四谷區北伊賀町三六電四三〇四五)參照 田村於免、吉田清の項

杉本卯之助

白蠟製造業  
 妻 白翁 大政元、一〇生  
 男 卯三郎 大六、九生

君は大阪府人六角メの私生子にして明治二十二年十月三十日を以て生れ同年先代卯之助の養子となり大正八年家督を相続し前名卯六郎を改め襲名す現時白蠟製造業を營む家族は尙長女せい(大九、八生)ありA七八三B九七(大阪市浪速區津町二ノ四一電一〇一九)

杉本榮助

木綿商  
 妻 きく 明七、一〇生、大阪、柳田庄助二女  
 男 誠三 明三四、六生  
 女 トセ 明四一、一〇生、長男誠三妻、大阪黒川與兵衛妹  
 女 芳子 明三九、一〇生  
 女 公三 明四二、六生  
 女 季子 大二、一〇生

君は大阪府人杉本新藏の長男同谷造の養兄にして明治二年十二月を以て生れ同十九年家督を相続す木綿商を營む家族は尙孫照子(昭四、三、長男誠三長女)同知子(同六、四生、同二女)同和子(同八、九生、同三女)あり長女ひで(明二九、三)は分家し弟幸次郎(同四、四生)は同妻繪榮(同二一、七生、大阪、吉野あき姉)を伴ひ分家し二女みつ(同三二、四生)は大阪府人吉野嘉三郎に嫁し四女あり(同四四、六生)は京都府土族佐藤安次郎の養子となれりA二〇三九(大阪府東區南久寶寺町二ノ四四電九二八)參照 黒川與兵衛、杉本谷造の項

杉本勝平

田中屋、乾物商  
 妻 ちよ 明元、一〇生、東京、高木鐵太郎  
 男 正勝 大一一、一〇生、千葉、小澤常太郎

君は東京府人杉本良太郎の三男にして明治二十九年九月を以て生れ同三十五年家督を相続す田中屋と稱し乾物商を營む家族は尙長女良子(大一一、〇五)二女美代子(同一三、二生)三女茂子(同一四、〇三)三男辰雄(昭三、五生)四女敏子(同五、四生)四男秀雄(同六、一〇生)五女笑子(同九、一〇生)弟國重(明三八、六生)あり妹ウメ(同三三、一〇生)は東京府人山口政吉長男幸吉に同エイ(同三四、六生)は神奈川縣人清田長太郎二男信治に嫁し同マツ(同三一、八生)は東京府人三角ケン母トクの養子となれりA三〇〇B一七八(東京市四谷區傳馬町三ノ三〇電四谷五六〇九)

杉本龜次郎 京都府多額納税者、京都商工會議所議員、京都取引所、取引員

君は京都府人先代龜次郎の二男にして明治二十五年八月を以て生れ大正十三年家督を相続し前名藤吉を改め...

杉本勘七 大阪府在籍

君は京都府人先代勘七は住友家より分れて心齋橋筋一丁目に住し現業の開始以来既に二十年餘を經たりと傳へら...

杉本金太郎 東京府在籍

君は東京府人杉本三郎助の長男にして明治七年三月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す製茶業を營む...

杉本順三 大阪府在籍

君は京都府人杉本新左衛門の弟にして明治八年十一月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す製茶業を營む...

杉本庄藏 大阪府在籍

君は大阪府人野々村善左衛門の三男同種藏の弟にして明治三年十一月十六日を以て生れ同二十七年先代其吉...

杉本信一 昭和棉花専務取締役

君は舊水口藩士杉本有信の二男にして明治二十年十月四日を以て生れ同三十九年京都商業學校を卒業後直ち...

以て生れ同十六年家督を相続す種家六四郎と稱し長男師匠たり長女久(明三四、四生)は東京府人遠藤妻吉...

杉本九八郎 山九商會、京津電鐵、南朝鮮鐵道各務取締役、富山縣在籍

君は富山縣人杉本吉兵衛の二男にして明治九年十二月を以て生れ同十年絶家杉本九八郎の家名を再興す現時...

杉本國太郎 衆議院議員(秋田縣選出)、杉本木村商店代表取締役、秋田縣在籍

君は東京府人宛澤六兵衛の長男にして明治八年九月を以て生れ先代はるの入夫となり同四十年家督を相続す...

杉本光平 牧師、日本同盟基督教會代表者

君は明治九年五月二十日を以て生れ名古屋英和學校神學部を卒業後多年宗教界に邁進す現に日本同盟基督教會...

杉本眞太郎 鐵工業

君は京都府人杉本傳治郎の長男にして明治十八年八月を以て生れ同三十九年家督を相続す鐵工業を營む家族...

杉本新左衛門 京都府多額納税者、三丘園、茶商

君は京都府人杉本爲七の長男にして明治六年八月を以て生れ先代新左衛門の養子となり同十六年家督を相続し...

杉本重吉 松北園、製茶業

君は大阪府人先代周藏の長男にして明治十四年十二月二十一日を以て生れ大正八年家督を相続す家主たり家...

杉本重吉 京都府在籍

君は愛知縣人先代周藏の長男にして明治十八年九月十日を以て生れ昭和二年家督を相続す家主たり家族は...

(※印は姻族關係)

杉本好太郎 關東電力電氣取締役兼支配人、鐵筋コンクリート淺野カトリック各務取締役、大阪府在籍

君は大阪府人杉本安兵衛の長男にして明治二十年二月二十一日を以て生れ現時關東電力電氣會社取締役兼支配人たる外前記會社の重役を兼ぶ家族は尙長女綾子...

杉本治三郎 大阪府在籍

君は大阪府人先代周藏の長男にして明治十四年十二月二十一日を以て生れ大正八年家督を相続す家主たり家...

杉本重吉 京都府在籍

君は京都府人杉本伊右衛門の二男にして明治十年三月を以て生れ大正九年家督を相続す東京專修學校並に國民英學會を出て現に大藏省稅關鑑定官補に任じ明治四十年三井物産會社に入り營業部横濱船積取扱所高尾出張所長本店受渡掛長同受渡課長を経て現に川崎埠頭事務所長たり家族は尙二男匡平(大一一〇、二生)四女濱路...

杉本新兵衛 吳服商

君は大阪府人西村利八の二男にして明治九年六月二十三日を以て生れ同三十二年先代新兵衛の養子となり大正二年家督を相続し前名熊吉を改め吳服商を營む家族は尙叔母(慶應二、一生)ありA一四二〇(大阪府南區内安堂寺町二)五六電氣(三三三三)

杉本甚藏 三井物産會社川崎埠頭事務所長

君は京都府人杉本伊右衛門の二男にして明治十年三月を以て生れ大正九年家督を相続す東京專修學校並に國民英學會を出て現に大藏省稅關鑑定官補に任じ明治四十年三井物産會社に入り營業部横濱船積取扱所高尾出張所長本店受渡掛長同受渡課長を経て現に川崎埠頭事務所長たり家族は尙二男匡平(大一一〇、二生)四女濱路...

杉本太一郎 愛知縣在籍

君は愛知縣人先代定吉の長男にして明治十八年九月十日を以て生れ昭和二年家督を相続す家主たり家族は...

前二男守彦(大六、八生)三男光彦(同八、一一生)二女喜美子(同二、一一生)の外養兄(明一、一一生)七生愛知(羽養長吉長男)同妻は(同四、三生)父定吉長女ありA三〇(一名古屋市西區伏見町三ノ七電本局九四四)

杉本 谷造

天満屋、木綿太物商 大阪府在籍 妻 ヘル 明八、六生、大阪、杉本榮助妹 男 健三 明四二、六生 女 幸三 明三五、九生 女 美知 明四五、一一生 女 英子 大二、一一生

君は滋賀縣人磯島晋次郎の二男にして杉本榮助の養弟なり明治七年四月を以て生れ杉本新藏の養子となり同三十七年分れて一家を創立す天満屋と稱し木綿太物商を営む長女知恵(明三二、六生)は大阪府人川郷利兵衛に嫁せりA四七一B二〇一(大阪府東區本町二ノ二電本局二九五二)

杉本 鶴五郎

杉本代表社員、鐘屋錦五郎商店 洋酒食料品商、東京府在籍 母 のぶ 明一二、一一生、祖父鶴五郎二女 妻 常子 明三六、一一生、東京、三枝代三郎 女 明三六、一一生、東京、三枝代三郎 女 明三六、一一生、東京、三枝代三郎

當家は其祖龜五郎越中の農家より出で、東京に來り龜屋と稱し舶來小間物商を営みしに始まる先々代鶴五郎其業を継ぎ店舖を銀座に移し業續大に振ふ君は先代鶴五郎の長男にして明治三十年十二月十九日を以て生れ昭和六年家督を相続す大正十年慶應義塾大學部理財科を卒業し父業を襲ひ洋酒食料品商を営み杉本合名會社代表社員たり家族は尙長女幸子(大一一、一一生)弟鶴次郎(明四四、一一生、慶大出身)ありA五三三B四六四(東京市本區區南町三ノ二電小石川五二七五)店舖同市京橋區區南町三ノ二電銀座九六六

杉本 傳

美本中學校教員、地主 大阪府在籍 父 伊三郎 安政元、八生

三、八生)は石川縣人福岡佐平治に嫁せり(東京市下谷區上根岸町八一電根津二七三)

杉本 甫

日本勸業銀行員、地主 東京府在籍 母 須美 明二二、六生、石川、長谷川大 女 明二二、六生、石川、長谷川大

君は東京府人杉本竹之助の長男にして明治四十四年八月八日を以て生れ大正十一年先代祖父三郎の後を承け家督を相続す昭和八年東京帝國大學法學部法律學科を卒業し直ちに日本勸業銀行に奉職今日に及ぶ地主たり家族は尙妹夫佐(大四、一一生)あり姉後子(明四三、一一生)は東京府人小川平吉長男一平に嫁し叔母春枝(同四一、一一生)は同府人小田親恵の家籍に入り叔父實(大五、一一生)は分家せり(東京市麹町區元園町一ノ五)電九段一四三七

杉本 初二

大阪府在籍 母 ユキエ 明二八、一〇生、大阪、島居重藏 女 明二八、一〇生、大阪、島居重藏

杉本 正幸

經濟學博士、東京府農工銀行取 締役兼支那人、北海道土族 妻 まさ 明三六、一一生、静岡、小川隆三 女 明三六、一一生、静岡、小川隆三

君は北海道土族杉本勝治の二男にして明治二十年七月を以て生れ同四十年家督を相続す同四十二年日本大學を卒業し現時東京府農工銀行取締役兼支那人たり著述に「最近の支那と滿洲」「不働産金融論」「市街地價格」「全國農工銀行發達史」「不働産金融論」等あり家族は尙二男正慶(昭三、五生)二女興子(同五、三生)三男正安(同八、四生)ありA一一七六(東京市澁谷區代々木山谷町一八五電四谷一七六〇)

母 マチ 慶應元、六生、大阪、吉岡利一 妻 ヨシエ 明二六、六生、大阪、島田萬次郎 男 博一 大五、七生

杉本 東造

醫學博士、杉本胃腸病院、醫師 東京府在籍 妻 ミサヲ 明一五、二生、新潟、間島和一郎 女 貞子 明三八、四生 養子 壽一 大六、七生、東京、山田泰作弟

君は新潟縣人杉本直形の二男にして明治六年十月十六日を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十五年東京帝國大學醫學科大學を卒業し醫師を開業し現に杉本胃腸病院を經營す先是大正四年醫學博士の學位を授けらるA六一八(東京市神田區錦町三ノ一電神田三五八一)

杉本 時三郎

從三位勳二等、辯護士 愛知縣在籍 妻 みわ 明一七、一〇生、愛知、土、近藤 女 明一七、一〇生、愛知、土、近藤

君は愛知縣人杉本新之右衛門の長男にして明治二年四月を以て生れ同二十八年家督を相続す同二十四年東京專門學校に學び判事任用試験に合格す同二十四年検事に任じ爾來長崎大分各區裁判所名古屋東京横濱各地方裁判所檢察官古屋控訴院檢察官富山前橋函館兒島山口金澤各地方裁判所檢察官を歴任し昭和七年四月之を辭し現時辯護士を開業す家族は尙五女裕子(大一一、一一生)あり二女淑子(明四一、一一生、函館高女出身)は同縣士族小山田昌長醫學士昌俊に嫁し(同九、九)同縣士族小山田昌長醫學士昌俊に嫁し(同九、九)同縣士族小山田昌長醫學士昌俊に嫁し(同九、九)同縣士族小山田昌長醫學士昌俊に嫁し(同九、九)

杉本 又三郎

朝日酒造取締役、大阪府水産會 大阪府在籍 妻 シナ 明元、一一生、養母ウタ孫 女 明元、一一生、養母ウタ孫

君は大阪府人酒井清太郎の弟にして帯谷傳三郎は其養弟なり慶應元年十二月を以て生れ明治二十五年先代ウタの養子となり家督を継ぎ生魚問屋を営み大阪府水産會長朝日酒造會社取締役たり義に大阪府議員同議長等に擧げられし事あり家族は尙孫女(大一一、一一生)あり養子惣治郎(同六次、同二生、同二男)あり長女マユ(明一七、一〇生、梅田高女出身)は大阪府人井上藤三郎に嫁し(同一九、一〇生、日本女大家政科出身)は京都府人野田鶴雄弟三に嫁し(同九、九)同縣人角田鏡彦に嫁せり(大阪府西區江戶堀南通五ノ一四ノ二電土佐堀一九九〇)

杉本 松之助

京商工會議所議員、絹織美術 品輸出業、京都府在籍 妻 すま 明六、一一生、京都、湯淺定助妹 女 明三二、四生、京都、足田新之助

君は京都府人杉本庄七の二男にして明治十年一月を以て生れ同三十五年兄庄三郎方より分れて一家を創立す絹織美術品輸出業を営み京都商工會議所議員京都府方面委員京中區區長調査員京都市生祥學區衛生幹事京都刺繍同業組合評議員京都市議會常任幹事たり家族は尙孫女(大一一、一〇生、養子武夫長男)同惠美(昭三、一一生、同長女)同榮子(同五、三生、同二女)同博三(同六、一一生、同二男)ありA二五九B一一三(京都市中區區三條通鉄屋町東入ル電本局二二二〇)

杉本 茂兵衛

愛知縣多額納稅者、中茂商店、味 噌醸造業、愛知縣在籍 妻 はま 明九、一一生、養父惣兵衛長女

族森田鉦三郎の養子となれりA二九三(名古屋市西區前ノ川町四ノ六電西一〇八九) 參照||中島信虎の項

杉本 徳次郎

精練業 京都府在籍 母 マイ 明六、一一生、京都、野洲キタ長女 男 文造 明三九、四生 女 良一 明四四、一一生 女 テイ 明三二、七生 女 マサ 明三五、七生 女 マサ 明四二、一一生

君は京都府人杉本徳次郎の長男にして明治七年四月二十一日を以て生れ昭和三年家督を相続し前名徳三郎を改め眞名ヲ精練業を営む家族は尙孫女(大一一、一〇生)二女テイ私生子ありA三二五B三六三六(京都市上京區橋木町衣柳通下ル電上三九九二)

杉本 徳三

東京モスリン紡織會社常務取締役 東京府在籍 妻 てい 明二〇、四生、京都、瀧野喜八郎 女 明二〇、四生、京都、瀧野喜八郎

君は京都府人杉本傳治郎の三男にして明治十五年十一月二十七日を以て生れ大正十三年兄眞太郎方より分れて一家を創立す明治三十九年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し現時東京モスリン紡織會社常務取締役たり家族は尙二男誠二(大五、一〇生)三男榮三(同四一、一〇生)ありA二六一(東京市小石川區大塚仲町四一電大塚二二八)

杉本 直寛

第一タクシー自動車取締役 石川縣在籍 妻 カツ 明一一、九生、東京、高橋静雄二男 女 明一一、九生、東京、高橋静雄二男

君は石川縣人杉本宗寛の長男にして明治六年十一月を以て生れ同十九年家督を相続す現時第一タクシー自動車會社重役たり長女寛子(明三三、七生)は東京府人高橋静雄に嫁せり(同九、三生)は兵庫縣人村井政吉に同菊(同二、一〇生)は東京府人齋藤太郎に同繁(同二、一〇生)は東京府人齋藤太郎に同繁(同二、一〇生)

杉本 彌左衛門

牛内商 愛知縣在籍 妻 秋太郎 明三六、一〇生 男 一市 明四三、一〇生 女 ひさ子 明四四、一〇生

君は滋賀縣人杉本彌左衛門の長男にして明治八年三月六日を以て生れ後家督を相続す牛内商を営む家族は尙孫女(大一一、一〇生)一男彌五平(同二七、一〇生)一男彌五平(同二七、一〇生)一男彌五平(同二七、一〇生)一男彌五平(同二七、一〇生)

杉本 義朗

從四位勳四等、南部鐵道常務取 締役、静岡縣在籍 妻 都 明二五、一〇生 女 直子 明四三、四生 女 信子 明四三、一〇生

君は静岡縣人杉本權兵衛の三男にして明治十四年六月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同四十一年

**杉本利七** 宇都宮商工會議所常務議員、宇都宮市會副議長、菓子商、栃木縣在籍  
 妻 キ ヌ 明二、七生、栃木、安野捨吉二女  
 男 博 明四、二生  
 女 フ ミ 明四、五、六生  
 女 喜代子 大正二年生  
 女 富子 大正八年生  
 君は先代利七の長男にして明治二十年五月七日を以て生れ同三十七年八月家督を相續し前名利七を改め幾名才菓子商を営み宇都宮商工會議所常務議員に擧げられ又同市會副議長たり旅行及書畫を趣味とす家族は尙三男壽(大正五年生)あり(宇都宮市新宿町三三三)

**杉森孝次郎**

早稲田大學教授、政治經濟學部文學部助務第二早稲田高等學院院長著述、東京府在籍  
 妻 ハ ナ 明二〇、一、生、東京、七條佐市郎二女  
 女 のぶ 大正二、二生  
 君は靜岡縣人杉森熊太郎の二男にして明治十四年四月九日を以て生れ大正元年兄染八方より分れて一家を創立す明治三十九年早稲田大學文學科を卒業し大正二年より同八年に至る間倫理學研究のため文部省海外留學生として獨逸に留學す先是明治四十年母校講師となり歸朝後同教授に進み昭和九年第二早稲田高等學院長に就任す傍ら著述の筆を執り「社會倫理學概説」他多くの著書あり養子みよ(明三三、一、生、父熊太郎長女)は北海道人伊藤道徳に嫁せりA一〇六(東京市澁谷區代々木西原町一〇〇一電四谷一八〇八)

**杉森染八**

都市衛生興業取締役、博善清毒(逕査)役、靜岡縣在籍  
 父 熊太郎 安政元、六生

君は靜岡縣人杉森熊太郎の長男にして明治十一年九月を以て生れ同三十年家督を相續す現時都市衛生興業會社取締役たる外前記會社の重役にして兼に東京畜産市場會社代表取締役たりしことあり家族は尙孫殿朗(昭四、一〇生、長男、長男、高橋光裕七女)は其二子と伴ひ分家し同孝次郎(同四、四生)も亦分家し妹みよ(同三三、一、生)は前記孝次郎の養子となり(東京市豊島區東馬場六ノ二九二)

**杉森文彦**

從五位勳五等、北海道總技師、札幌土木事務所長、千葉縣士族  
 父 菊次郎 安政六、一、生  
 母 さつ 明二、五、生、千葉、大網市長長女  
 妻 美智 明三、一、生、千葉、土、石川倉次五女、東京府立第二女中出身  
 男 正和 大九、九、生、札幌第一中學校在學  
 女 淑子 大八、三、生、札幌高女在學  
 君は千葉縣士族杉森菊次郎の長男にして明治二十二年六月十二日を以て生れ昭和七年家督を相續す大正四年東京帝國大學工學部土木工學科を卒業し直に北海道廳に奉職事業手同技師を経て同七年同廳技師に任じ室蘭土木事務所長を命ぜらる同十四年一年有餘歐米各國の土木事業を視察歸朝後札幌土木事務所長に轉じ今日に至る家族は尙二男英夫(大一一、七、生、三男弘明(同三一、二、生)四男勇夫(同六一、五、生)同六一、一、生)ありA一七七(札幌市北一條西七丁目官舎電一九八)

**杉山岩三郎**

從三位勳三等、第五高等學校名譽教授、愛媛縣士族  
 妻 コウ 明六、一、二、生、愛媛、士、加藤正長女

君は愛媛縣人森川又八の三男にして文久二年十一月を以て生れ同縣士族杉山吉光の養子となり明治二十九年家督を相續す同二十三年帝國大學理科大學數學科を卒業し現に第五高等學校名譽教授たりA一三五(大阪府泉北郡尾尾村)

**杉山岩三郎**

岡山縣多額納稅者、中國鐵道株式會社監査役  
 母 利 明二、一、生、岡山、猪木雄一郎長女  
 妻 郁 明二、八、四、生、兵庫、荒木重太郎  
 妻 美都 大六、三、生、縣立岡山高女出身、東京家政學院在學  
 女 千鶴子 大八、九、生、縣立岡山高女在學  
 君は岡山縣士族杉山新九郎の長男にして明治二十三年四月二十五日を以て生れ大正二年兄岩三郎の跡を承け家督を相續し前名文太郎を改め幾名才同七年京都帝國大學法政大學政治經濟科を卒業し現時中國鐵道會社長にして傍ら前記會社の重役たり直接國稅千六百五十圓を納め縣下の多額納稅者に列す趣味として柔道乗馬ゴルフを好む家族は尙三女吉美子(大一一、八、生)四女尚子(同四、四年生)第五郎(明三三、九、生、岡山醫大出身)あり同三郎(同二八、一、生)同妻貞(同三三、三、生、東京、崎川才四郎長女)は其二子と伴ひ分家し妹孝(同三一、一、生)は東京府人法學士海軍教授榎本重治に同時(同三一、一、生)は兵庫縣人人工學士荒木重義に各嫁し弟次郎(同二六、二、生)は同妻壽子(同三三、一、生、男爵千家尊統妹)と共に岡山縣士族稻川長曲に同四郎(同三七、六、生)は東京府人安山善五郎に叔父同次郎(同八、三、生)は岡山縣人山田春に各養子となり養叔母啓(同三、一、二、生)は分家杉山富の母にして同銀子(同二七、七、生)は京都府士族速水篤治郎の養母たり(岡山市西田町一七電二二二)

**杉山音吉**

島崎商店取締役  
 妻 セン 明二、二、生、神奈川、山本コマツ妹  
 君は東京府人杉山巳之助の長男にして明治二十三年二月十七日を以て生れ現時島崎商店取締役たり家族は尙長女清子(大九、八、生)弟富造(明三四、四、生、現戸主)妹啓(同三四、四、生)弟幸三郎(同三七、四、生)あり(東京市澁草區西三筋町三七)

**杉山喜三郎**

莫大小製造業  
 妻 ヌイ 明一、二、生、大阪、奥田作兵衛三女  
 男 嘉一 明三、五、生  
 女 貞子 明四、一、三、生  
 君は大阪府人先代喜三郎の二男にして明治八年一月を以て生れ同三十三年家督を相續し前名源之助を改め幾名才祖業肥料問屋を廢し莫大小製造業を營み今日に至る家族は尙孫弘子(大一一、一、生、長男、長女)同周子(同一四、一、一、生、同富子(昭二、一、生、同三女)妹トヨ(明一八、七、生)あり長女きぬ(同三五、一、三)は大阪府人濱野利次に嫁はる(同一四、三、生)は同府人寺田嘉三郎に同き(同二六、九、生)は同府人今津十郎に嫁し弟喜七郎(同二二、七、生)は同妻まさ(同二二、二、生、大阪、島治三郎伯母)と共に甥次郎(同二四、二、生、亡業兄拵造長男)同妻ユキキ(同二二、一、九、生、香川、上西卯吉妹)は其子女を伴ひ各分家し甥健三郎(同二七、一、二、生、同二男)同喜造(同七、四、生、姉)の長男も亦各分家せりA四七四B八一(大阪府西區西道頓堀通五ノ一九電櫻川一六七九)

**杉山儀三郎**

廣瀬商工會議所議員、杉山儀三郎商店代表社員、神奈川縣在籍  
 妻 コト 明一、二、八、生、神奈川、風間清次郎養子  
 男 義雄 明三九、一〇、生  
 女 キキ 明三六、一〇、生  
 君は神奈川縣人杉山庄平の長男にして明治十一年二月を以て生れ大正十二年家督を相續す現時杉山儀三郎商店代表社員にして廣瀬商工會議所議員たり

**杉山久之丞**

勳八等、青森縣參事會、漆物産  
 妻 まつ 明九、七、生、養父當古二女  
 男 常太郎 明二九、一、生  
 女 ハナ 明三二、二、生、長男常太郎妻、青森、飯田第次郎妹  
 男 常三郎 明三五、一、二、生、三男常三郎妻、青森、松本第太郎二女  
 君は青森縣人杉山久之助の二男にして明治十二年一月を以て生れ先代當古の養子となり大正五年家督を相續し前名健太郎を改め養父の舊名を襲ふ現時青森縣參事會員にして漆物産會社の取締役たり養父上北銀行取締役にして漆物産會社の取締役たり(大一一、六、生、長男常太郎三女)同二(昭三、五、生、同二男)あり長女チヘ(明三八、九、生)は青森縣人飯田協助に嫁せり(青森縣上北郡野邊地町)

**杉山金太郎**

東京府在籍  
 妻 はる 明二、一、生、東京、高崎喜代松妹  
 君は東京府人鈴木鐵次郎の長男にして明治九年五月五日を以て生れ先代三之助の養子となり同二十五年家督を相續す地主として知らるA二六六九(東京市小石川區口町一〇二)

**杉山金太郎**

豊年製油社長、葛城商會代表社員、和歌山縣在籍  
 妻 チヨ 明一五、二、生、神奈川、市川元八長女  
 男 元太郎 大七、一、二、生  
 君は和歌山縣人杉山元右衛門の長男にして明治八年九月十九日を以て生れ大正二年家督を相續す先是明治十七年大阪高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり弟元治(明一六、一、生)は同妻壽子(同三五、六、生)和歌山、山口楠之助二女)及其二子を伴ひ弟元信(同三一、四、生)は同妻光子(同四二、八、生、東京、南部謙次郎四女)及其一子を伴ひ各分家せりA二六六九(東京市品川區北品川三ノ三二二電高橋六〇一五)

**杉山九兵衛**

大阪府在籍  
 妻 益五郎 明一九、九、生、長女千代夫、大阪  
 女 千代 明二七、一、生、養子益五郎妻  
 君は大阪府人杉山由兵衛の二男にして安政三年二月を以て生れ明治十九年當家に入り先代九兵衛の跡を承けて家督を相續す材木商を營む家族は尙孫九一郎(大六、三、生、養子益五郎長男)ありA一〇八B九七(大阪府西區立賣堀通三ノ二電新町一〇八)

**杉山謙造**

神奈川縣多額納稅者、杉山商店社長、砂糖問屋業、神奈川縣在籍  
 妻 シゲ 明二六、一、生、神奈川、杉山龜吉三女  
 男 久一郎 明三六、五、生  
 女 光江 明三三、三、生、長男久一郎妻、神奈川、長島漸作孫  
 君は神奈川縣人杉山悅藏の兄にして明治十一年四月を以て生れ同二十七年家督を相續す砂糖問屋業を營み傍ら前記各會社の重役にして神奈川縣多額納稅者に列し直接國稅千四百四十圓を納む家族は尙孫久江(大一一、一、生、長男久一郎長女)同盛太郎(同二四、六、生、同長男)弟悅藏(明一三、一、生)同妻もと(神奈川、金澤藤一郎妹)及其一子あり(横濱市中區花咲町一ノ八電長者町二二五〇)

**杉山元**

正四位勳二等功五級、陸軍中將、參謀次長兼陸軍大學校長  
 妻 ケイ 明二二、二、生、神奈川、小山清次郎二女  
 君は福岡縣人杉山貞の長男にして明治十三年一月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十四年陸軍少兵少尉に任じ昭和五年陸軍中將に累進す其間陸軍省軍務局長事務局長兼本部補給部長陸軍省軍務局長兼參謀院參謀長等に歴補し昭和五年陸軍軍官に任ぜられ同七年第十二師團長に親補せらる後陸軍航空本部長たりしも同九年陸軍參謀次長兼陸軍大學校長に補せられ宮内省御用掛御侍眞尊(明二〇、一、生)同妻ハル(同三



○、一生、大分、河野豊蔵三女)は其子女を伴ひ分家せり(東京市杉並區高円寺一ノ三三電中野三五三)

杉山小兵衛

隆盛堂、製茶業  
大阪府在籍  
養子 民治郎 明一八、一〇生、大阪、青木忠兵衛

杉山公一

建築業  
岐阜縣在籍  
妻 明二六、一〇生、岐阜、小里治作  
男 健一 大七、一〇生、三子  
女 静子 大七、一〇生

君は岐阜縣人杉山廣造の長男にして明治十二年十一月二十九日を以て生れ同二十五年家督を相続す建築業を營む家族は尚二女美江子(大一一〇、一〇生)三女田子(同一三、七生)あり姉な(明七、九生)は岐阜縣人桑原實之助に同(同一〇、二生)は同縣人森本惣左衛門二男總四郎に嫁し弟三郎(同一六、一〇生)同妻たけ(同一二、四生)は岐阜縣人松岡愛之助に叔父辰次郎(同一七、三生)は同縣人山田與三松に各養子となれりA三三四(大阪府港區八雲町二ノ二二電西六五一四)

杉山高賢

岐阜縣多額納稅者、商業  
岐阜縣在籍  
父 新七 明元、七生  
妻 新子 明三四、一〇生、岐阜、太田藤十  
男 新一 大一二、二生

杉山榮

君は岐阜縣人杉山榮吉の長男にして明治十四年三月を以て生れ同三十八年東京帝國大學工科大学を卒業し矢作開渠矢作索道各會社長の外前記諸會社の重役たり(東京市品川區大井町二ノ一六電新町九〇四)

杉山作次郎

杉山作次郎商店代表社員、吳服  
京都府在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は岐阜縣人杉山新七の三男にして明治三十年四月を以て生れ昭和四年家督を相続す大正十年明治大學商科を卒業し商業に従事す養子家にして直接國稅一千九十五圓を納め岐阜縣多額納稅者たり(岐阜市杉山町九電一八六五)

杉山佐兵衛

杉山商店事務取締役、大阪杉山  
大阪府在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は岐阜縣人杉山新七の三男にして明治三十年四月を以て生れ昭和四年家督を相続す大正十年明治大學商科を卒業し商業に従事す養子家にして直接國稅一千九十五圓を納め岐阜縣多額納稅者たり(岐阜市杉山町九電一八六五)

杉山忠之助

金業  
東京府在籍  
妻 新一 大一二、二生

杉山鑄七郎

前大阪府電氣局技師  
兵庫縣在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は岐阜縣人杉山忠七の長男にして明治二十六年七月七日を以て生れ大正十四年家督を相続す金業を營む家族は尚二男忠二(大一一四、七生)長女君代(昭二、四生)あり養子(昭四、一〇生)は愛知縣人神田新助の之助に嫁しA三三三九(東京市品川區大井町三三三三電大森三〇五二)

杉山直治郎

正四位勳二等、法學博士、東京帝國大學教授、法學部勤務  
東京府在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は岐阜縣人杉山忠七の長男にして明治二十六年七月七日を以て生れ大正十四年家督を相続す金業を營む家族は尚二男忠二(大一一四、七生)長女君代(昭二、四生)あり養子(昭四、一〇生)は愛知縣人神田新助の之助に嫁しA三三三九(東京市品川區大井町三三三三電大森三〇五二)

杉山武夫

西島製作所取締役、杉山商店  
兵庫縣在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は千葉縣人戸邊彌兵衛の三男にして慶應二年七月二十七日を以て生れ先代教道の養子となり明治四十一年家督を相続す現時共同火災保險會社取締役にして傍ら前記會社の重役たり(千葉縣東葛飾郡市川町)

君は岐阜縣人杉山新七の三男にして明治三十年四月を以て生れ昭和四年家督を相続す大正十年明治大學商科を卒業し商業に従事す養子家にして直接國稅一千九十五圓を納め岐阜縣多額納稅者たり(岐阜市杉山町九電一八六五)

杉山佐兵衛

杉山商店事務取締役、大阪杉山  
大阪府在籍  
妻 新一 大一二、二生

杉山佐兵衛

杉山商店事務取締役、大阪杉山  
大阪府在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は岐阜縣人杉山新七の三男にして明治三十年四月を以て生れ昭和四年家督を相続す大正十年明治大學商科を卒業し商業に従事す養子家にして直接國稅一千九十五圓を納め岐阜縣多額納稅者たり(岐阜市杉山町九電一八六五)

杉山榮

君は岐阜縣人杉山榮吉の長男にして明治十四年三月を以て生れ同三十八年東京帝國大學工科大学を卒業し矢作開渠矢作索道各會社長の外前記諸會社の重役たり(東京市品川區大井町二ノ一六電新町九〇四)

杉山作次郎

杉山作次郎商店代表社員、吳服  
京都府在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は岐阜縣人杉山新七の三男にして明治三十年四月を以て生れ昭和四年家督を相続す大正十年明治大學商科を卒業し商業に従事す養子家にして直接國稅一千九十五圓を納め岐阜縣多額納稅者たり(岐阜市杉山町九電一八六五)

杉山佐兵衛

杉山商店事務取締役、大阪杉山  
大阪府在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は岐阜縣人杉山新七の三男にして明治三十年四月を以て生れ昭和四年家督を相続す大正十年明治大學商科を卒業し商業に従事す養子家にして直接國稅一千九十五圓を納め岐阜縣多額納稅者たり(岐阜市杉山町九電一八六五)

杉山忠之助

金業  
東京府在籍  
妻 新一 大一二、二生

杉山鑄七郎

前大阪府電氣局技師  
兵庫縣在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は岐阜縣人杉山忠七の長男にして明治二十六年七月七日を以て生れ大正十四年家督を相続す金業を營む家族は尚二男忠二(大一一四、七生)長女君代(昭二、四生)あり養子(昭四、一〇生)は愛知縣人神田新助の之助に嫁しA三三三九(東京市品川區大井町三三三三電大森三〇五二)

杉山直治郎

正四位勳二等、法學博士、東京帝國大學教授、法學部勤務  
東京府在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は岐阜縣人杉山忠七の長男にして明治二十六年七月七日を以て生れ大正十四年家督を相続す金業を營む家族は尚二男忠二(大一一四、七生)長女君代(昭二、四生)あり養子(昭四、一〇生)は愛知縣人神田新助の之助に嫁しA三三三九(東京市品川區大井町三三三三電大森三〇五二)

杉山武夫

西島製作所取締役、杉山商店  
兵庫縣在籍  
妻 新一 大一二、二生

君は千葉縣人戸邊彌兵衛の三男にして慶應二年七月二十七日を以て生れ先代教道の養子となり明治四十一年家督を相続す現時共同火災保險會社取締役にして傍ら前記會社の重役たり(千葉縣東葛飾郡市川町)



六、八生、京都高女出身)は東京府人...

鈴井茂三郎 鈴井藥局、藥種商...

鈴江繁一 神戸合同運送取締役、運送業...

鈴鹿和二郎 陸軍三等主計、鈴鹿商店事務取...

鈴江直三郎 徳島商工會議所議員、徳島縣多額...

男 正昭 大二、八生...

鈴鹿昌一 鈴鹿商店事務取締役、肥料輸出...

鈴鹿甚三郎 地主...

鈴木あぐ 地主...

鈴木阿具利 地主...

鈴鹿太郎 聖護院ハツ橋總本店事務長...

鈴鹿保家 鈴鹿商店事務社長...

鈴木章之 勲六等、熱海理立事務所取締役...

鈴木浅次郎 土木建築請負業...

鈴木章之 勲六等、熱海理立事務所取締役...

鈴鹿和二郎 陸軍三等主計、鈴鹿商店事務取...

鈴木阿具利 地主...

鈴木浅次郎 土木建築請負業...

同弘行(昭二、五生、同長男あり二男政治部(明三二、八生)同妻(明三六、二生、京都、富田巳之助(二女)は其二子を作ひ分家せりA五一、八二(七)(京都市下京區八條坊門町電下三八七〇)

鈴木伊十

日本建築紙工社長、日本人造洋毛織取締役、愛知縣在籍  
妻 久枝 明治九、二生、高知、島本伸道長女  
男 正二郎 明治四、一生、日本建築紙工會社勤務、慶大政治科出身  
女 正美 明治四、九生、長男正一郎妻、愛知、岸三郎三女、淑徳高女出身

鈴木幾三郎

日本ポッドル蓄音器專務取締役、蓄音器商、東京府在籍  
妻 ゆき 明三六、六生、東京、渡邊安太郎妹  
君は東京府八倉田繁太郎の叔父にして明治三十三年十一月十一日を以て生れ先代まきの養子となり大正十二年家を相続す現時日本ポッドル蓄音器會社専務取締役たる傍ら蓄音器商を営む家族は尙長女節子(大一、二、六生)二女明子(同一四、一生)三女節子(昭三、七生)ありA四六〇B二二〇(東京市橋區銀座三ノ二ノ三電京橋一七六七)

鈴木幾次郎

高松商工會義所顧問、中國銀行、朝鮮實業各專務取締役、香川縣在籍  
妻 ミス 文久二、五生、香川、渡邊孫四郎妹  
男 義 明九、一〇生、養父傳五郎長女  
女 登志 明二九、二〇生、養父傳五郎長女

鈴木岩藏

太陽電機社長、兵庫縣在籍  
妻 憲子 明二七、八生、高知、土井通  
男 治 大七、二生、兵庫縣立第三中學校  
女 英子 大三、二生、兵庫縣立第二高女出身  
女 貞子 大五、二生、兵庫縣立第二高女出身  
君は兵庫縣人鈴木岩藏の弟にして明治十七年二月を以て生れ現時太陽電機社長たり家族は尙三女淳子(大一、三生)四女光子(同一五、七生)あり(神戸市神戶區榮町通七ノ一電三宮八〇一)

鈴木梅四郎

勳三等、晩成事業取締役會長、イルドスミン鐵業社長、共同火災保險取締役、三誠洋行監査役、第一火災海上保險三誠洋行監査役、社團法人實業醫務所理事長、交詢社常議員、長野縣在籍

君は香川縣人佐々木清三の二男にして明治二年五月を以て生れ先代傳五郎の養子となり同三十七年家を相続す同二十六年早稲田大學英語政治科を卒業し前記會社の重役にして高松商工會義所顧問たり嘗て衆望を擔ひ高松市長に擧げらるる家族は尙四男義基(大四、一生)孫陽一(同一四、一生)、長男義伸(長男)同陽子(昭四、一生)、同長女あり長女富美子(明二七、二生)は香川縣人川崎會恒三に二女節子(同三二、五生)は岡山縣人林鹿太郎に五女宮子(同三九、四生)は兵庫縣人神藤彰造に六女光子(同四〇、一生)は岡山縣人片山虎男に嫁せり(高松市古馬場町二)

鈴木磯五郎

新橋根、料理業、東京府在籍  
妻 愛 明二三、八生、千葉、中原茂七二女  
男 松 久 明四〇、四生  
男 久雄 明四三、六生  
女 喜美子 大六、九生

鈴木一

安田信託審查課長、安井縣士族  
妻 とみ 明二五、七生、東京、酒井良明四女  
女 昭徳 大五〇、一生

鈴木一

安田信託審查課長  
妻 とみ 明二五、七生、東京、酒井良明四女  
女 昭徳 大五〇、一生

鈴木一

安田信託審查課長  
妻 とみ 明二五、七生、東京、酒井良明四女  
女 昭徳 大五〇、一生

井に同社關係會社南洋興業朝鮮鐵道肥料東洋畜産會社取締役にして又京城府道評議員に官選せられたる事あり後日本勸業銀行庶務課長日本勸業證券會社取締役安田信託會社大阪支店長を経て現時前記の職に在り家族は尙三女節子(昭三、五生)四女共子(同六、一〇生)あり(東京市品川區上大崎三ノ三〇〇)

鈴木一郎

三菱鐵業取締役兼生野鐵山長、慶應元、三生、群馬、荒川長三郎長女  
妻 甲子 明二八、九生、東京、平野甚三二女  
女 和子 大三、二生  
女 充子 大七、九生

鈴木之助

旭電化工業社長、日本農藝專務取締役、東京府在籍  
妻 トク 明四四、八生  
男 長市郎 明四四、八生  
女 子 春 大六、二生

鈴木英三郎

宮城縣國定教科書特約販賣所專務取締役、華商、書商、宮城縣在籍  
妻 やす 明六、一生、宮城、浮田善藏二女  
女 英治 明三六、六生、長男英治妻、宮城  
男 春雄 明三九、二生  
男 雄 明四四、二生  
男 英輔 明三九、二生  
男 春雄 明四四、二生  
男 英輔 明三九、二生  
男 春雄 明四四、二生

鈴木英三郎

宮城縣國定教科書特約販賣所專務取締役、華商、書商、宮城縣在籍  
妻 やす 明六、一生、宮城、浮田善藏二女  
女 英治 明三六、六生、長男英治妻、宮城  
男 春雄 明三九、二生  
男 雄 明四四、二生  
男 英輔 明三九、二生  
男 春雄 明四四、二生  
男 英輔 明三九、二生  
男 春雄 明四四、二生

君は長野縣人鈴木龍藏の二男にして文久二年四月を以て生れ明治三十一年家を相続す兄に慶應義塾を卒業し時事新報記者横濱貿易王子製紙社長三井銀行調査係長横濱神戸各支店長を経て現時事新報社長たり就任すること九ヶ年更に日本殖産合資會社社長たりること十餘年現時晩成事業會社取締役會長たる外前記各會社の重役たり明治四十五年以來衆議院議員に當選すること五回に及ぶ此間立憲國民黨の幹事長たり政界に活躍すること十餘年春天と號し『平和の世界統一政策』著譯先生の手紙『皇室社會新政策論』その他種々の著述あり家族は尙養子茂(大九、九生、長野、伊藤與三郎四女)孫一元(昭三、一〇生、養子五郎長男)同東里里(同五、一生、同長女)ありA三二五〇(東京市麹町區平河町五ノ二電九段六八八)

鈴木梅太郎

從三位勳二等、農學博士、帝國大學農學部、東京帝國大學農學部、農學部、大和農造各學部顧問、東京府在籍  
妻 ス 明一七、一〇生、故工學博士辰野金吾長女  
妻 文 助 明二〇、一生、長女久仁子夫、福島、荒木久太郎弟  
女 久仁子 明三五、五生、養子文助妻

鈴木榮吉

伊豆屋、砂糖商、静岡縣在籍  
妻 きん 慶應元、六生、静岡、佐藤孝平養母  
女 助 明一〇、二生、静岡、宮崎通之助  
男 圓子 明三七、九生、静岡、村上傳右衛門

鈴木英三郎

宮城縣國定教科書特約販賣所專務取締役、華商、書商、宮城縣在籍  
妻 やす 明六、一生、宮城、浮田善藏二女  
女 英治 明三六、六生、長男英治妻、宮城  
男 春雄 明三九、二生  
男 雄 明四四、二生  
男 英輔 明三九、二生  
男 春雄 明四四、二生  
男 英輔 明三九、二生  
男 春雄 明四四、二生

鈴木英三郎

宮城縣國定教科書特約販賣所專務取締役、華商、書商、宮城縣在籍  
妻 やす 明六、一生、宮城、浮田善藏二女  
女 英治 明三六、六生、長男英治妻、宮城  
男 春雄 明三九、二生  
男 雄 明四四、二生  
男 英輔 明三九、二生  
男 春雄 明四四、二生  
男 英輔 明三九、二生  
男 春雄 明四四、二生

○B二五〇静岡市馬場町九(電六八)

鈴木榮助

廣島縣多額納税者、鈴木商店務代表取締役、東洋コルク工業廣島支店先理立各務取締役、砂糖商廣島縣在籍
妻 ユキ 明元、五生、廣島、津田保次郎長女
養子 敬三 明二、五生、廣島、熊木義太郎三男
婦 マチコ 多賀俊司長女
須磨子 明四、六生、養子敬三長女
ヨシコ 大三、六生、養子敬三二女
君は廣島縣人難波榮次郎の弟にして慶應元年五月を以て生れ先代クラの養子となり明治二十七年家督を相続し前名寅之助を改む砂糖商を営み鈴木商店代表取締役たる傍ら前記各會社の重役たり廣島縣多額納税者に列し直接國稅千七百五十一圓を納む家族は尙孫榮太郎(大六、一、二生、養子敬三長男)同孝子(同一〇、五生、同三女)あり(廣島市塚本町)

鈴木榮太郎

大長、建築請負業
東京府在籍
母 とめ 明二、一、一、生、東京、渡邊章八四女
妻 もと 明二、七、一、生、東京、相川彌太郎長女
男 方一 大四、一〇、生
女 好子 大二、五、生
君は東京府人鈴木長次郎の長男にして明治二十年三月七日を以て生れ大正十四年家督を相続す大長と稱し建築請負業を営む家族は尙二男泰三(大八、七、生)二女登起子(同一四、一〇、生)四男貞夫(昭三、三、生)五男都宜(同四、九、生)六男克尙(同七、一、二、生)弟康雄(昭三、三、生)同妻ヒサコ(同三、七、六、生、福島、高松善妹)及其二男弟當之(同三、九、三、生)同妻壽々(同四、二、七、生、東京、浦野岩次郎二女)あり弟豊吉(同二、六、二、生)は同妻でつ(同二、四、一〇、生、東京、齋藤藤太郎長女)と共に其四男一女を伴ひ分家せりA三二一(東京市向島區寺島町七ノ二〇六電田三三八一三)

鈴木奥太郎

地主、農業
東京府在籍
妻 なか 明一〇、一〇、生、東京、長谷川文三郎養子

○B二五〇静岡市馬場町九(電六八)

鈴木賀一郎

正五位勳四等、少年審判官、東京少年審判所長、東京府在籍
妻 やす 明二、一、六、生、千葉、吉植庄一郎長女、東京高女出身
女 華江 大三、一〇、生
君は千葉縣人鈴木吉藏の三男にして故文學博士八代國治の弟なり明治十一年一月を以て生れ大正十年元藏方より分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十二年判事に任ぜられ大津地方同區各裁判所判事をを経て檢事に轉じ大阪同地地方同區各裁判所判事をを経て大正十四年東京同地地方同區各裁判所判事に任ぜられ昭和五年七月自國ブラツセルに開催せられたる國際少年保護協會會議及同國リエージュ市に開催せられたる國際少年保護協會會議に參列し次で歐米各國の少年保護所少年保護事業を視察せり又日本大學に於て教鞭を執り學生の薫育に従事し著書「不良少年の研究」「子の爲に泣く」「少年の不良化と矯正」等あり家族は尙二男正光(大五、八、生)三男進也(同一〇、一、生)三女芳子(同一三、一、二、生)あり(東京市麹町區富士見町一ノ一ノ一電九段二〇一〇)

鈴木角三郎

勢屋本店、米穀商
東京府在籍
妻 やす 明二、一、六、生、千葉、吉植庄一郎長女、東京高女出身
女 華江 大三、一〇、生
君は千葉縣人鈴木吉藏の三男にして故文學博士八代國治の弟なり明治十一年一月を以て生れ大正十年元藏方より分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十二年判事に任ぜられ大津地方同區各裁判所判事をを経て檢事に轉じ大阪同地地方同區各裁判所判事をを経て大正十四年東京同地地方同區各裁判所判事に任ぜられ昭和五年七月自國ブラツセルに開催せられたる國際少年保護協會會議及同國リエージュ市に開催せられたる國際少年保護協會會議に參列し次で歐米各國の少年保護所少年保護事業を視察せり又日本大學に於て教鞭を執り學生の薫育に従事し著書「不良少年の研究」「子の爲に泣く」「少年の不良化と矯正」等あり家族は尙二男正光(大五、八、生)三男進也(同一〇、一、生)三女芳子(同一三、一、二、生)あり(東京市麹町區富士見町一ノ一ノ一電九段二〇一〇)

○B二五〇静岡市馬場町九(電六八)

鈴木勝藏

地主
東京府在籍
妻 はつ 明一、二、八、生、東京、高田傳十郎長女
男 佳孝 大四、三、生
養子 八重子 明四、三、八、生、東京、士、内木茂
君は東京府人鈴木木吉五郎の長男にして明治十年四月二十四日を以て生れ大正三年家督を相続す地主たり家族は尙長女喜久子(大九、六、生)あり弟清三郎(明一、八、四、生)同妻總代(同七、二、生、東京、粕谷林蔵長女)は其一男を伴ひ分家せり(東京市荒川區町屋町二ノ二七六)

鈴木包教

長崎商工會議所理事
千葉縣在籍
母 しん 文久三、三、生、千葉、落合石五郎妹
君は長野縣人鈴木長兵衛の三男にして明治二十年十一月を以て生れ大正二年家督を相続す明治四十一年東亞同文書院商務科を卒業し現時前記會社の重役にして青島日本商工會議所會頭に擧げらる會て山東倉庫會社取締役たりし事あり家族は尙二男慎二(大八、七、生)亡兄良之助妻てる(明一、三、六、生、長野、宮崎龜太郎長女)あり姉みよ(同一三、三、生)は長野縣人花園健之助の養子となり弟桃四郎(同三、三、生)は同妻と(同二、六、七、生、長野、小林伊喜彌五女)を伴ひ分家せり(青島海陽路電三六一六)
參照 片倉武雄※片倉三平※片倉備一※武井覺太郎の項

鈴木覺四郎

從四位勳四等、元大阪警務局長
福島縣在籍
妻 由喜 明三、二、一、二、生、東京、野中寺三郎二女
女 慎一 大七、三、生
妙 大五、三、生
鈴木家は古くより福島縣下猪苗代に定住し代々製糸業を營める養家なり君は先代覺左衛門の三男にして明治十五年三月を以て生る同十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來山林局長事務官警務局長事務官東京警務局長農務書記官大臣官房統計課長大阪警務局長等に歴任昭和八年官を辭し現時閑地に在り家族は尙一女喜美(大一〇、一、一、生)二男朝雄(同一二、七、生)三女和子(同一五、一、一、生)三男健三(昭三、四、生)亡兄覺左衛門妻トキ(明一、二、一〇、一〇、生、福島、遠藤儀助長女)弟美一郎(同三、七、四、生)亡兄覺左衛門長男、現戸主)及其弟妹あり(東京市杉並區和泉町五〇)

鈴木覺次郎

建築請負業
京都府在籍
妻 ナカ 明二、三、九、生
男 善次郎 明三、九、生
女 いね 都、黒田清三郎妹
男 覺太郎 明二、七、一、生
女 麻子 明三、一、九、生、二男覺太郎妻、石川、八木秀太郎三女
養子 光義 明三、四、七、生、三女志津夫、愛媛三浦善次郎二男
女 志津 明三、七、七、生、養子光義妻
男 茂三 明四、一、四、生
男 四郎 明四、一、一、生
孫 みつ子 大四、七、生、長男善次郎長女
君は京都府人鈴木勇藏の二男にして慶應元年三月二十四日を以て生れ明治二十三年分れて一家を創立す建築請負業の傍ら食堂を経営す家族は尙孫善一郎(大六、九、生、長男善次郎長男)同妻也(大一〇、八、生、同二男)同妻可(同八、八、生、二男覺太郎長男)同智子(同一、九、生、同長女)同美代子(昭三、二、生、養子光義長女)同奈美子(同四、七、生、同二女)ありA九一六B二二七(京都市下京區朱雀賣賣町五二電下三三〇三三食堂電下八〇〇二)

鈴木一馬

正四位勳二等功五級、陸軍中將
東京府在籍
妻 チヨウ 明一、五、九、生、山口、渡邊泰造二女
男 太郎 明三、六、六、生、日本興業銀行員、法學士
婦 恭子 明四、四、一〇、生、茨城、中村庸長女
男 次郎 明三、八、一〇、生、國際通運會社員、慶大經濟學部出身
女 三重子 明四、一、一〇、生、山陽高女出身
男 三郎 明四、五、七、生、東大文學部在學
君は青森縣人鈴木義登の長男にして明治六年六月十八日を以て生れ同二十六年家督を相続す同二十七年陸

鈴木 兼重 大連商工會議所常議員、星ヶ浦土...

鈴木 龜治郎 鈴木、魚問屋業...

鈴木 龜次郎 鈴木、舊炭商金融業...

鈴木 貫太郎 侍従長兼樞密顧問官、千葉縣士族...

鈴木 寬一 正五位勳五等、地方技師、岐阜縣...

鈴木 寬剛 天龍運輸、天龍木材各務取締役、...

鈴木 喜三郎 正三位勳一等、法學博士、立憲政...

鈴木 喜平治 鈴木商店代表取締役、大同銀行...

鈴木 喜太郎 東京市、鈴木木太...

鈴木 敏子 大正、一、生、熊本縣立第一高女出...

鈴木 紀一郎 正五位勳四等、第二高等學校教授...

鈴木 喜三郎 宮城縣多額納稅者、鈴木陶器商...

鈴木 喜太郎 正三位勳一等、法學博士、立憲政...

鈴木 喜平治 鈴木商店代表取締役、大同銀行...

鈴木 喜太郎 宮城縣多額納稅者、鈴木陶器商...

鈴木 喜太郎 正五位勳五等、置業試験場技師、...

鈴木 喜平治 鈴木商店代表取締役、大同銀行...

鈴木 喜太郎 宮城縣多額納稅者、鈴木陶器商...

鈴木 敏子 大正、一、生、熊本縣立第一高女出...

鈴木 紀一郎 正五位勳四等、第二高等學校教授...

鈴木 喜三郎 宮城縣多額納稅者、鈴木陶器商...

鈴木 喜太郎 正三位勳一等、法學博士、立憲政...

鈴木 喜平治 鈴木商店代表取締役、大同銀行...

鈴木 喜太郎 宮城縣多額納稅者、鈴木陶器商...

鈴木 喜太郎 正五位勳五等、置業試験場技師、...

鈴木 喜平治 鈴木商店代表取締役、大同銀行...

鈴木 喜太郎 宮城縣多額納稅者、鈴木陶器商...

鈴木喜兵衛

徳力本店、金銀地金商  
東京府在籍

男 一郎 明三〇、二生、長男一郎妻、東  
婦 ちか 明三一、一一生、長男一郎妻、東  
男 香 明三八、二生  
婦 香 明二〇、一〇生、東京、根岸吉松二女  
當家は先代喜兵衛より起る喜兵衛は江戸の人金銀地金  
商徳力商店の支配人たりしが維新の際倒産に瀕するに  
當りて喜兵衛代りて主家の事業を継承し辛苦經營遂に  
今日の基を成せり君は其長男にして明治三年三月一日  
を以て生れ同十二年家督を相續し前名長次郎を改む  
家業を守り現に同業者間の老舖として知られ曩に東京  
府多額納税者たり家族は尙孫基之(昭九、三三、二男壽  
郎長男)あり長女多代(明二七、九生)は東京府人曲淵  
景賢に二女都爾(同三一、五生)は同府人山田是に三女  
壽滿(同三五、九生)は同府人若林大次郎に四女千枝(同  
四四、一〇生)は同府人吉澤忠兵衛長男慶太郎に嫁せ  
りA二一三二B二六〇一(東京市神田區鍛冶町二ノ  
一六電報田二六・三三)

參照 根岸由松、若林大次郎の項

鈴木喜代藏

家主  
東京府在籍

妻 けい 明一八、六生、東京、土、林錦次  
郎長女  
君は東京府人鈴木彌藏の長男にして明治十年十一月二  
十四日を以て生れ大正四年家督を相續す家主たりA五  
三〇(東京市本所區林町一ノ六電本所五〇八五)

鈴木儀一

警備隊司令官  
東京府在籍

君は明治十五年五月十三日を以て生れる同三十七年十一  
月海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ後海軍大學校  
を卒業す大正十三年同大佐に昭和五年海軍少將に累進  
第三艦隊司令官を経て佐世保警備隊司令官に補せら  
れ今日に及ぶ(佐世保市佐世保警備隊司令部内)

鈴木儀兵衛

大谷、酒類商  
東京府在籍

妻 けい 明一二、一一生、祖父和助二女  
養母 し け 明一二、一一生、祖父和助二女

鈴木儀三

地主  
東京府在籍

君は東京府人鈴木儀三郎の長男にして明治二十一年  
七月十三日を以て生れ昭和七年家督を相續す地主たり  
家族は尙二男辰男(大五、三三)三男庄三郎(同二〇、六  
生)三女カツ(同二二、九生)五男昌雄(昭二、八生)四  
女幸子(同七、一一生)ありA四五四(東京市荒川區尾  
久町一ノ九四四)

鈴木吉三郎

支店長  
東京府在籍

妻 マツ 明二七、二生、兵庫、吉原政道三女  
男 彰 明三七、五生  
君は静岡縣人鈴木儀三郎の二男にして明治十一年四月  
十五日を以て生れ大正九年分れて一家を創立す現時福  
壽火災保險會社取締役にして同社東京支店支店長を兼  
ぬA二二一(東京市品川區大井町五三三電大森  
三四六九)

鈴木吉次郎

飲料水商  
愛知縣在籍

妻 つせ 明五、四生、愛知、小田玉三郎長  
女

鈴木菊藏

白石興産社長、仙南銀行、白石  
倉庫各取締役、白石醸造監査  
役、宮城縣在籍

妻 貞 明二七、八生、法學博士内池謙吉妹  
君は宮城縣人鈴木菊藏の長男にして大正五年十月二  
十四日を以て生れ同十五年祖父徳太郎の跡を継承し家  
督を相續す家主たり家族は尙弟勝巳(大九、六生)同信  
幸(同二一、一一生)妹久美子(昭八、二生)叔父正右衛  
門(同三三、五生)同正雄(同四二、五生)同小太郎(同  
四四、二生)あり叔父梅五郎(同三三、四生)は分家せ  
りA三五一(東京市澁谷區桑丘町四一)

鈴木菊男

地主  
東京府在籍

妻 カツ 明四、八生、東京、齋藤庄右衛門  
繼父 森之助 明三一、一一生  
君は東京府人鈴木石太郎の長男にして大正五年十月二  
十四日を以て生れ同十五年祖父徳太郎の跡を継承し家  
督を相續す家主たり家族は尙弟勝巳(大九、六生)同信  
幸(同二一、一一生)妹久美子(昭八、二生)叔父正右衛  
門(同三三、五生)同正雄(同四二、五生)同小太郎(同  
四四、二生)あり叔父梅五郎(同三三、四生)は分家せ  
りA三五一(東京市澁谷區桑丘町四一)

鈴木久吉

地主  
東京府在籍

妻 トメ 嘉永元、一一生、東京、小島喜兵  
衛妹  
男 嘉一郎 明二一、七生、養父嘉七三女  
女 千代子 明四五、五生  
君は東京府人灰谷清助の四男にして明治十八年九月を  
以て生れ同四十五年先代嘉七の養子となり大正九年家  
督を相續す地主たり家族は尙二男友次郎(大一一、一  
生)ありA一五九九(東京市日本橋區島町一ノ三七)

鈴木久三郎

地主  
東京府在籍

妻 静枝 大元、一一生、東京、鈴木鐵三郎  
繼父 茂 昭八、三生  
君は東京府人鈴木久三郎の長男にして明治四十二年七  
月十九日を以て生れ大正十一年家督を相續す地主たり  
(東京市向島區寺島町六八四二電報田三六九〇)

鈴木久兵衛

大阪堂島米穀取引所取引員、米穀  
問屋業、大阪府在籍

妻 光 明一三、三三、三重、林くめ養子、  
林まさ妹  
男 久彌 昭二、五生  
君は奈良縣人志野コトの私生子にして明治二十九年三  
月二十二日を以て生れ大正九年大阪府人鈴木いしの養  
子となり昭和四年前名徳太郎を改め名十米穀問屋業  
を營み現時大阪堂島米穀取引所取引員たり家族は尙長  
女愛子(大九、七生)二女幸子(同二一、一〇生)二男久明  
(昭四、九生)三男久治(同六、二生)四男久靖(同八、  
四生)あり(大阪市南區横堀町七ノ二三電報田五九九)

鈴木清子

愛知縣在籍

君は和歌山縣人土井準善の二女同廣次郎の姪にして大  
正元年十月十四日を以て生れ同十一年先代しもの後を承  
け家督を相續す家主たりA三三三(名古屋市東區西二  
葉町)

鈴木清秀

從五位勳六等、鐵道書記官兼選信  
書記官、運輸局旅客課長  
東京府在籍

妻 喜代 明四、一〇生、岡山、谷龜太郎妹  
男 壽子 昭二、二生  
君は東京府人鈴木秀次郎の長男にして明治二十七年二  
月二十五日を以て生れ大正八年家督を相續す同年東京  
帝國大學法科大學獨法科を卒業文官高等試験行政科に  
合格し鐵道局副參事に任ず爾來東京鐵道局庶務課文書

鈴木吉之助

衆議院議員(京都府選出)、京都府  
會議員、京都府商工會議所常務議員、  
京都土地興業株式會社取締役、活動  
常設館經營主、京都府在籍

妻 フク 明三〇、八生、東京、松本清吉二  
長女  
君は京都府人鈴木伊兵衛の三男にして明治二十年一月  
を以て生れ大正十四年家督を相續す夙に日本大學商科  
を卒業し京都毎日新聞社長京都お伽俱樂部主幹同兒童  
愛護聯盟理事長等に就任し京都少年義勇軍を創設す現  
時前記會社の重役にして京都府會議員京都府商工會議所  
常務議員に當選する事三回立憲政友  
會所屬たり曩に京都府會議員同副議長京都府市會議議長  
等に擧げらるる家族は尙二男昭三(大一一、一〇生)長女

鈴木吉太郎

東京市四谷區會議員  
東京府在籍

妻 セイ 明二五、三三、東京、福井久信姉  
共立女子職業學校出身  
男 重一 大五、九生  
女 喜代子 大七、一一生  
君は東京府人鈴木金太郎の長男にして明治二十四年一  
月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正三年早稲田大學商科  
を卒業し現に四谷區會議員たり家族は尙二男英男(大  
一一、三三)ありA九九六(東京市四谷區坂町三一電四  
谷三二八)

鈴木久次郎

農林工專請負業  
東京府在籍

妻 タカ 明九、三三、神奈川、小川清左衛  
門養子  
男 彌太郎 明二九、一一生  
女 富喜 明三六、一一生、長男彌太郎妻、  
東京、和田あい長女  
女 輝子 明四四、九生、川村女學院出身  
女 美江 大七、三三  
君は東京府人田中富藏の二男にして明治元年五月二日

鈴木清

從五位勳六等、鐵道書記官兼選信  
書記官、運輸局旅客課長  
東京府在籍

妻 壽子 昭二、二生  
君は東京府人鈴木秀次郎の長男にして明治二十七年二  
月二十五日を以て生れ大正八年家督を相續す同年東京  
帝國大學法科大學獨法科を卒業文官高等試験行政科に  
合格し鐵道局副參事に任ず爾來東京鐵道局庶務課文書

又之部 鈴木

掛長兼掛長同水戸運輸事務所長を経て米獨各國に出張し...

鈴木 金吾

君は東京府人先代和吉の二男にして明治二十三年六月二十日...

鈴木 金十

君は東京府人鈴木幸七の長男にして明治八年六月を以て...

鈴木 金藏

君は東京府人鈴木長次郎の長男にして明治七年十月を以て...

鈴木 金藏

君は東京府人鈴木長次郎の長男にして明治七年十月を以て...

又之部 鈴木

養子 小たけ 治郎二女 明二、三、七、生、養子縁部妻、父藤...

鈴木 金太郎

君は東京府人鈴木重吉の長男にして萬延元年二月二十日...

鈴木 銀次郎

君は東京府人鈴木半右衛門の三男にして明治八年二月二十日...

鈴木 敬一

君は愛知縣人鈴木藤五郎の二男にして明治五年二月十日...

鈴木 敬一

君は東京府人鈴木長次郎の長男にして明治二十二年七月...

鈴木 九三 日本建設銀行藤布支店長 明二、五、七、生、東京、菊川菊松二...

鈴木 國吉

君は宮城縣人鈴木伸五郎の二男にして明治二十五年十一月...

鈴木 國右

君は東京府人鈴木鐵造の二男にして大正二年九月三日を以て...

鈴木 熊太郎

君は東京府人鈴木松五郎の長男にして明治十八年九月二十五日...

鈴木 慶四郎

君は東京府人鈴木賢治の長男にして明治十一年六月を以て...

鈴木 健三郎

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

又之部 鈴木

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

鈴木 圭三

君は東京府人鈴木長次郎の三男にして明治二十三年十月七日...

又之部 鈴木

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

又之部 鈴木

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

又之部 鈴木

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹

鈴木 圭三

鈴木 圭三 喜美 明一、八、生、東京、加茂拾次郎妹



一〇生)ありA四七六(東京市向島區島町七ノ一六六  
電話二〇八三)

鈴木憲太郎 正八位、延岡電氣代表取締役、  
高崎縣士族

妻 セイ 明一八、四生、宮崎、工藤熊治二女  
男 皓 明三四、八生

君は宮崎縣士族小林乾一郎の二男にして明治十五年九  
月を以て生れ同三十四年先代シマの八夫となり家督を  
相続す同三十七年明治大學を卒業し現時前記會社の重  
役たり茲に宮崎縣會議員に擧げられ又衆議院議員に當  
選する事二回に及ぶ家族は尙四男(大五、五生)五男  
兼夫(同一、一、一)二女多賀子(同一三、二生)あり(延  
岡市大字同富九五電一四九)

鈴木謙吉 正五位勳六等、名古屋高等商業學  
校教授、東京府在籍

妻 ユリ 明三二、一、生、岐阜、高橋義哉長女  
男 謙 大九、八生  
女 和子 大八、七生

君は東京府人鈴木幸吉の五男にして明治十九年九月九  
日を以て生れ後名鎌吉を改め大正十年兄無十より  
分れ一家を創立す明治三十六年米國に留學し同四十  
三年パナマエラオアアーツ同四年米國マスタオア  
Iツの船長を授けられ大正四年歸朝同九年廣島高等師  
範學校教授に任ぜられ翌年現職に轉ず(名古屋市中區  
徳山町二ノ四七)

鈴木謙三郎 住友銀行常任監査役、佐賀百六  
銀行、三州平和銀行各監査役  
大阪府在籍

妻 トサ 明一三、八生、大阪、士、鈴木仁  
十郎姉、大阪梅花女學校出身  
養子 保 明三六、一、生、二女、咲子、佳友  
出所  
女 咲子 明四三、三、生、養子、保、佳友  
子門出

君は兵庫縣人岡田榮五郎の兄同他太郎の弟にして明治  
十年五月十五日を以て生れ同三十八年鈴木家に入り家  
督を相続す同三十三年東京高等商業學校を卒業し住友  
銀行に入社し各地の支店勤務を経て本店營業部長とな

其次で本店支店人に擧げられ現時同行常任監査役にし  
て傍ら前記各銀行の重役を兼ねぬA一六〇二(大阪市東  
區清水谷東之町四三三電六五〇)

鈴木謙造 地主  
東京府在籍

妻 光子 明三七、八生、東京、堀江勘五郎  
長女

君は東京府人先代清藏の二男にして明治三十一年八月  
三十日を以て生れ大正五年家督を相続す地主たり家族  
は尙二男(明三、七生)長女和子(明六、五生)あり叔  
父福次郎(明一六、一〇生)同妻まつ(同一六、一、二生、  
東京、小杉徳次郎長女)は其二子を伴ひ分家せりA三  
三〇(東京市世田谷區下代田町二〇電世田谷三六二九)

鈴木謙則 滿洲中央銀行營業部管理課長  
福島縣在籍

妻 文 明三二、二、生、東京、不破橋三妹  
男 謙 大七、三、生  
女 登志 大六、三、生

君は福島縣人鈴木市三郎の二男にして明治二十四年十  
二月を以て生れ先代定八の養子となり同二十八年家督  
を相続す大正六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業  
し直に臺灣銀行に入り厦門支店支店長廣東支店支店長  
たり滿洲中央銀行創立と共に聘せられて現に營業部管  
理課長たり家族は尙二男(明二、五生)三男(明三、  
三、一、二生)四男(明七、二生)あり(滿洲國新  
京市城後路四一五滿洲中央銀行會宅電三〇三)

鈴木元 古河電氣工業取締役兼營業部長  
兼臨時販賣部長、東京府士族

妻 富美 長女  
女 美子 明四五〇(東京市淀橋區東大久保二ノ一七  
太郎妹)ありA四四〇

鈴木源四郎 地主  
東京府在籍

妻 なつ 明八、六生、茨城、藤田きく母  
男 榮次郎 明二七、一〇生  
女 キン 明二七、一、生、長男榮次郎妻、東  
京、鈴木忠藏長女

君は東京府人鈴木源四郎の長男にして明治二年七月二  
十二日を以て生れ大正三年家督を相続し前名彌三郎を  
改め榮次郎と改めたり家族は尙孫三(大九、二生、長  
男榮次郎二女)同(同一、一、一、同三女)同(同  
同一五、一、生、同四女)同(明二、一〇生、同長  
男)あり三男榮次郎(明三八、八生)は同妻とみ(同三六、  
三、生、茨城、平塚麻吉長女)及其一子を伴ひ五男(同  
同三五、九生)は同妻タケノ(同三六、一、一、生、新潟、  
安達駒吉五女)を伴ひ各分家せりA三七七(東京市東  
區龜戸町五ノ一六二)

鈴木源次 關東燃料、日本石膏、關東運輸、  
日之出汽船、内外石油各監査役  
淺野同族會社理事、東京府在籍

妻 トワ 明七、七、生、靜岡、鈴木伊三郎長女  
養子 利代 明三一、七、生、國吉幸吉長女

君は靜岡縣士族鈴木辰次郎の二男にして慶應三年四月  
を以て生れ明治三十七年兄寛市方より分れて一家を創  
立す同十八年神奈川縣官吏となり同二十一年辭職し淺  
野總一郎經營の諸事業に従事し現時淺野同族會社の囑  
託たる外前記諸會社の重役たり家族は尙孫三(大一  
五、九生、養子利代長女)ありA二五七(東京市品川區  
大井瀧王寺町四四四五電大森三〇九)

鈴木源次郎 鈴源商店、洋傘ショール商  
東京府在籍

妻 てら 明七、一、生、山梨、佐々木權左  
衛門妹  
男 徳藏 明三二、一〇生  
女 三郎 明三四、二、生、二男徳藏妻、山梨  
宅間八十八妹

君は山梨縣人鈴木元七の二男にして慶應三年九月二日  
を以て生れ明治二十七年兄彦太郎方より分れて一家を  
創立す鈴源商店と稱し洋傘ショール商を營む家族は尙  
孫五男(大一、四、四生、長男徳藏長男)あり二女(明  
三五、五生)は山梨縣人岩田朝雲に嫁し三男(明三三、  
三、八、八生)同妻貞子(同四〇、四、生、東京、兩宮良平  
長女)は其一子を伴ひ分家せり(東京市四谷區舟町六七  
電四谷三三八)

鈴木源十郎 濱松屋、米穀商  
東京府在籍

君は東京府人鈴木常武の三男にして明治三十八年三月  
三十一日を以て生れ大正七年先代源十郎の養子となり  
同十五年家督を相続し前名源三郎を改め榮次郎と米穀商  
を營み濱松屋と稱すA六三二六(東京市神田區平水町  
四電濱花五一九九)

鈴木源之助 日露實業、三益興業各事務取締役  
濱松屋、小林毛皮貿易取締役、哈爾  
濱皮革、龍玉木材工業、日露海運  
各監査役、愛知縣在籍

妻 キキ 明一八、四生、島根、士、成瀬民  
之丞長女  
男 太郎 明四三、一、生

君は愛知縣人鈴木禮助の二男にして明治八年七月を以  
て生れ同二十八年家督を相続す現時前記會社の重役  
にして茲に東京銀行事務取締役たりし事あり家族は尙  
三男(明三三、三、五、一、生)四男(明三三、三、五、  
三、男)五男(明三三、三、五、一、生)あり二女(明三三、  
三、五、女)あり(東京市世田谷區  
世田谷二ノ一三〇三)

鈴木好一 資産家  
東京府在籍

妻 けい 明一三、一〇生、東京、辻庄兵衛  
長女

君は東京府人鈴木清助の長男にして明治四十四年七月  
二日を以て生れ昭和五年家督を相続す同九年東京帝國  
大學理學部地質學科を卒業す資産家たり家族は尙孫三  
子(明四一、一、一、生)ありA四〇二(東京市麻布區新網  
子(明四一、一、一、生)ありA四〇二)

鈴木孝一郎 鈴木、演藝場主  
東京府在籍

妻 久 明一九、三、生、養父龍助長女  
養子 萬龜 明三〇、五、生、長女貞子夫、埼玉  
吉野嘉之助二男

君は東京府人今井貞平の長男にして明治十三年三月を  
以て生れ後先代龍助の養子となり大正十二年家督を相  
續す鈴木と稱し演藝場を経営す家族は尙孫三(大一二、  
二、二、生、養子萬龜長男)同(同一五、八、生、同二男)  
同(慶子(明六、五、生、同長女)あり二女(貞子(明四〇、  
一、生)は東京府人三和村太郎長男一雄に嫁せりA一〇四  
七(東京市下谷區上野元黒門町一電下谷五三五)

鈴木孝助 川崎第一銀行營業部支店長  
東京府在籍

妻 なつ 明二七、八、生、東京、松本金作二女  
男 孝二 大八、三、生

君は東京府人鈴木孝達の二男にして明治二十三年四月  
七日を以て生れ同三十四年家督を相続す大正四年早稲  
田大學商科を卒業し現時川崎第一銀行營業部支店長たり  
家族は尙長女(信子(大一一、四、六、生)二女(慶子(明四〇、  
三、生)あり父孝達(嘉永二、一、生)は遺言サト(明元、五、生、  
東京、石川銀次郎妹)を伴ひ絶家本家を再興し二男  
孝三郎(大一一、七、生)は其養子となれりA一四〇(東京  
市深川區東六間堀町一)

鈴木孝三 萬生石炭工業社長  
東京府在籍

妻 妙子 明一一、九、生、茨城、初見謙助姉  
養子 光子 明四三、一、一、生、東京、山口藤三  
郎二女

君は東京府人鈴木佐兵衛の二男にして明治八年五月十  
九日を以て生れ大正四年兄俊助方より分れて一家を創  
立す現時前記會社の社長たり(東京市本郷區駒込曙町  
一一電六五五八五〇)

鈴木孝之助 正四位勳二等、醫學博士、海軍軍  
醫中將、呼吸器病科醫院院長、醫  
師、東京府士族

妻 しん 明七、六、生、東京、野口直三郎養  
子

君は三河國濱田原藩士鈴木方伯の三男にして安政元年  
七月十二日を以て生れ明治十二年家督を相続す夙に醫  
學を修め同十六年十月海軍大軍醫に任じ其間演習費與  
て海軍軍醫監總(海軍軍醫中將)に昇任し其間演習費與  
佐世保旅順鎮守府軍醫長及び病院長艦隊軍醫長軍醫學  
三十五年醫學博士の學位を受く現時前記醫院を経営し  
別に相州七里ヶ濱に鈴木養所を設立す呼吸器病科の  
診療に従ふ書に題あり家族は尙孫三(明三、一〇  
生、養子哲夫長男)同(和子(同六、三、生、同長女)あり  
長女方(明二〇、四、生)は子爵押小路公知の母にして二  
女(同二五、一、生)は醫學博士八田善之進に嫁し六女  
敏子(同四四、三、生)は埼玉縣人平野常造長男に嫁し  
二男忠之(同二二、六、生)は分家し三女愛(同三六、三  
生、山崎高女出身)は同夫五郎(同三三、五、一、生、神奈川  
沼上權太郎弟)と共に分家せり(東京市麻布區飯倉片町  
五電赤坂二一九)診療所神奈川縣鎌倉郡腰越町電片瀨  
一九)

鈴木幸作 貴族院議員、濱松商工會議所會頭  
靜岡縣多額納稅者、濱松委託社  
長、濱松鐵道、城北鐵道各監査役、  
濱松銀行、濱松貯蓄銀行、日本製  
鐵製造、山梨洋行、日本形染各監  
査役、濱松製糖、靜岡縣在籍

父 五郎作  
母 こと  
妻 まさ



區鶴羽町一ノ六五(電話三九一八)  
鈴木 茂 中興銀行頭取  
靜岡縣在籍

鈴木 茂 正五位勳三等功五級、陸軍少將、  
參謀本部第四部長、石川縣土族  
妻 美子 明二、二生、石川、吉野文四郎  
君は石川縣土族鈴木重直の二男にして明治十九年九月  
一日を以て生れる同三十八年陸軍士官學校を卒業し歩兵  
少尉に任じ昭和三年同大佐に同八年三月陸軍少將に累  
進す其間波蘭國駐在公使館附武官兼ラトヴィヤ在勤波  
蘭國駐在員取締に歴任歸朝後參謀本部課長近衛歩兵第  
一聯隊長及陸軍大學校長兼教官同研究部主事を經て同  
九年三月參謀本部第四部長に補せらる(東京市澁谷區  
代々木大山町一〇六〇電話三二九〇)

鈴木 繁太郎 新川屋、酒商  
東京府在籍

鈴木 茂雄 日本郵船株式會社代表取締役  
大阪府土族  
妻 龍子 明三、一〇生  
君は大坂府土族鈴木三郎の三男にして明治十九年五月  
を以て生れ同二十六年兄龍五郎の跡を承け家督を相續  
す自動車商を營み現時日本タタ自動車株式會社代表取  
締役たりA五四〇B二六一(大阪府港區九條南通二ノ  
一五八電話二五六一)

鈴木 茂雄 日本郵船株式會社代表取締役  
大阪府在籍

鈴木 茂雄 日本郵船株式會社代表取締役  
大阪府在籍  
妻 龍子 明三、一〇生  
君は大坂府土族鈴木三郎の三男にして明治十九年五月  
を以て生れ同二十六年兄龍五郎の跡を承け家督を相續  
す自動車商を營み現時日本タタ自動車株式會社代表取  
締役たりA五四〇B二六一(大阪府港區九條南通二ノ  
一五八電話二五六一)

阪電氣分銅會社に入り現時同社監査役たり尙義に推さ  
れて大阪商工會議所議員たり家族は尙五男呂雄(六八、  
九生)孫瑞子(同一〇、四生、長男)同百合子  
(同一二、八生、同三女)同正治(昭二、一〇生、同長  
男)同三男進(昭三、一〇生)は大坂府人林千賀子に三  
男弘(同三五、七生)は岐阜縣人堀崎子に四男進雄(同三  
七、二二生)は前大阪商工會議所議員吉田鹿之助長女信  
子に各一人夫となり長女駒子(同四〇、八生)は大阪府人  
中川良太郎長男正男に嫁し四女桂子(四五、八生)は岐  
阜縣人森實一郎の養子となり(大阪府住吉區天王寺  
町二一六九電天王寺二五九)  
參照：吉田鹿之助の項

鈴木 茂次 農學博士、東京農業大學教授、日  
本勳章製作監査役、岐阜縣在籍  
妻 倉 明二、四生、岐阜、倉矢信之助  
君は岐阜縣人鈴木喜三郎の長男にして明治十一年十  
一月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十六年東京  
帝國大學農學院農學科を卒業し大正十二年農學博士  
の學位を授けらる現時東京農學院理事大日本林  
業會社の重役たりし事あり家族は尙五男五郎(大五、九  
生)あり妹徳(昭二、四生)は東京府人伊部廣一に嫁せ  
り(東京市澁谷區柏木三ノ四四五電話四二八五)

鈴木 茂次 農學博士、東京農業大學教授、日  
本勳章製作監査役、岐阜縣在籍

鈴木 茂太郎 大山商店、酒商  
東京府在籍  
妻 登 慶應二、一〇生、神奈川、齊藤安  
君は東京府人鈴木清五郎の長男にして明治十九年一月  
二十一日を以て生れ同三十八年家督を相續す新川屋と  
稱し酒商を營む家族は尙二女榮子(大〇、九生)三男  
精造(昭五、三三)弟泰之助(昭三、三三)同男次郎(同  
三五、一〇生)あり妹きみ(同二二、九生)同こと(同三  
一、八生)は各分家し弟嘉吉(同二六、七生)は東京府  
人鈴木まきかの家督を相續せりA五二一B二七(東京市  
日本橋區室町二ノ一電日本橋一六三八)

鈴木 茂太郎 大山商店、酒商  
東京府在籍

鈴木 茂太郎 大山商店、酒商  
東京府在籍  
妻 登 慶應二、一〇生、神奈川、齊藤安  
君は東京府人鈴木清五郎の長男にして明治十九年一月  
二十一日を以て生れ同三十八年家督を相續す新川屋と  
稱し酒商を營む家族は尙二女榮子(大〇、九生)三男  
精造(昭五、三三)弟泰之助(昭三、三三)同男次郎(同  
三五、一〇生)あり妹きみ(同二二、九生)同こと(同三  
一、八生)は各分家し弟嘉吉(同二六、七生)は東京府  
人鈴木まきかの家督を相續せりA五二一B二七(東京市  
日本橋區室町二ノ一電日本橋一六三八)

三二、三三)は分家せりA五〇二B七四(東京市芝區田  
村町二ノ一七電銀座二六〇七)

鈴木 重孝 正五位勳四等、宮内事務官、内  
務省出陣、鹿兒島縣土族  
妻 重子 昭二、一〇生、鹿兒島、上田  
君は鹿兒島縣土族鈴木和介の長男にして明治十五年三  
月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十三年東京  
帝國大學法政大學政治學科を卒業し大正六年帝國會社審  
査官補に任じ尋で審査官、陸軍同三十三宮内事務官に  
轉じ圖書寮庶務課長兼圖書課長を経て昭和九年七月内  
務省庶務課長を命ぜらる家族は尙二男孝之(大一一、〇、四  
生)三男孝允(同一二、四生)弟重威(昭一、七、七生)同  
妻知恵(昭三、四生、鹿兒島、養田正直養子)及其三男  
弟忍(昭二、六、九生)同妻靜子(昭三七、八生、東京、歐  
東太郎二女)及其二女あり妹藤(昭三二、二生)は鹿  
兒島縣人藤村常義に嫁せり(東京市澁谷區上落合一ノ  
四二四電大塚二九六)

鈴木 重孝 正五位勳四等、宮内事務官、内  
務省出陣、鹿兒島縣土族

鈴木 重隆 日本簡易火災保險株式會社代表取締役  
愛知縣土族  
妻 孝 明三、二生、養子操夫、石川、  
兵衛二女  
君は愛知縣土族鈴木重信の長男にして明治十九年八月を  
以て生れ明治十五年家督を相續す現時日本簡易火災保  
險株式會社代表取締役たり家族は尙孫美江子(大一一、一  
生、養子孝長女)同不也(昭三、八生、同長男)あり  
弟彦兵衛(慶應三、一〇生)同妻り(昭四、七生)愛知、  
荒川郡(は其子女を伴ひ分家し伯母のぶ(嘉永三、九  
生)は愛知縣人伊藤忠太郎に嫁せりA一九三(大阪府  
南區西區町二電東八〇九)  
參照：鈴木彦兵衛の項

鈴木 重隆 日本簡易火災保險株式會社代表取締役  
愛知縣土族

鈴木 重道 正四位勳二等功三級、海軍軍醫中  
將、東京府土族  
妻 以 昭二、八生、東京、佐々木勇之  
助妹  
君は靜岡縣人鈴木與作の弟にして明治十七年八月二十  
一日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治四十  
一年東京商船學校航海科を卒業し甲種二等司一等各運  
轉士同船長選任海軍醫學校海軍醫官等を経て  
同十三年高等海員審判所審判官となり通信局長兼通信  
技師を兼任し現在に至る昭和四年海軍府に開催の國際勞  
働總會に政府代表委員顧問として出席す家族は尙二男  
滋(大七、一〇生)三男實(昭八、一〇生)長女宮(同一五、  
一〇生)あり(東京市品川區大井出町五〇六四電大森  
三〇一〇)

鈴木 重道 正四位勳二等功三級、海軍軍醫中  
將、東京府土族

鈴木 重道 正四位勳二等功三級、海軍軍醫中  
將、東京府土族  
妻 以 昭二、八生、東京、佐々木勇之  
助妹  
君は靜岡縣人鈴木與作の弟にして明治十七年八月二十  
一日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治四十  
一年東京商船學校航海科を卒業し甲種二等司一等各運  
轉士同船長選任海軍醫學校海軍醫官等を経て  
同十三年高等海員審判所審判官となり通信局長兼通信  
技師を兼任し現在に至る昭和四年海軍府に開催の國際勞  
働總會に政府代表委員顧問として出席す家族は尙二男  
滋(大七、一〇生)三男實(昭八、一〇生)長女宮(同一五、  
一〇生)あり(東京市品川區大井出町五〇六四電大森  
三〇一〇)

鈴木 重直 正五位勳三等功五級、陸軍少將、  
參謀本部第四部長、石川縣土族  
妻 美子 明二、二生、石川、吉野文四郎  
君は石川縣土族鈴木重直の二男にして明治十九年九月  
一日を以て生れる同三十八年陸軍士官學校を卒業し歩兵  
少尉に任じ昭和三年同大佐に同八年三月陸軍少將に累  
進す其間波蘭國駐在公使館附武官兼ラトヴィヤ在勤波  
蘭國駐在員取締に歴任歸朝後參謀本部課長近衛歩兵第  
一聯隊長及陸軍大學校長兼教官同研究部主事を經て同  
九年三月參謀本部第四部長に補せらる(東京市澁谷區  
代々木大山町一〇六〇電話三二九〇)

鈴木 重直 正五位勳三等功五級、陸軍少將、  
參謀本部第四部長、石川縣土族

鈴木 重直 正五位勳三等功五級、陸軍少將、  
參謀本部第四部長、石川縣土族  
妻 美子 明二、二生、石川、吉野文四郎  
君は石川縣土族鈴木重直の二男にして明治十九年九月  
一日を以て生れる同三十八年陸軍士官學校を卒業し歩兵  
少尉に任じ昭和三年同大佐に同八年三月陸軍少將に累  
進す其間波蘭國駐在公使館附武官兼ラトヴィヤ在勤波  
蘭國駐在員取締に歴任歸朝後參謀本部課長近衛歩兵第  
一聯隊長及陸軍大學校長兼教官同研究部主事を經て同  
九年三月參謀本部第四部長に補せらる(東京市澁谷區  
代々木大山町一〇六〇電話三二九〇)

鈴木 重直 正五位勳三等功五級、陸軍少將、  
參謀本部第四部長、石川縣土族

鈴木 重直 正五位勳三等功五級、陸軍少將、  
參謀本部第四部長、石川縣土族  
妻 美子 明二、二生、石川、吉野文四郎  
君は石川縣土族鈴木重直の二男にして明治十九年九月  
一日を以て生れる同三十八年陸軍士官學校を卒業し歩兵  
少尉に任じ昭和三年同大佐に同八年三月陸軍少將に累  
進す其間波蘭國駐在公使館附武官兼ラトヴィヤ在勤波  
蘭國駐在員取締に歴任歸朝後參謀本部課長近衛歩兵第  
一聯隊長及陸軍大學校長兼教官同研究部主事を經て同  
九年三月參謀本部第四部長に補せらる(東京市澁谷區  
代々木大山町一〇六〇電話三二九〇)

鈴木 重直 正五位勳三等功五級、陸軍少將、  
參謀本部第四部長、石川縣土族

鈴木 重直 正五位勳三等功五級、陸軍少將、  
參謀本部第四部長、石川縣土族  
妻 美子 明二、二生、石川、吉野文四郎  
君は石川縣土族鈴木重直の二男にして明治十九年九月  
一日を以て生れる同三十八年陸軍士官學校を卒業し歩兵  
少尉に任じ昭和三年同大佐に同八年三月陸軍少將に累  
進す其間波蘭國駐在公使館附武官兼ラトヴィヤ在勤波  
蘭國駐在員取締に歴任歸朝後參謀本部課長近衛歩兵第  
一聯隊長及陸軍大學校長兼教官同研究部主事を經て同  
九年三月參謀本部第四部長に補せらる(東京市澁谷區  
代々木大山町一〇六〇電話三二九〇)

鈴木 重直 正五位勳三等功五級、陸軍少將、  
參謀本部第四部長、石川縣土族

鈴木 重直 正五位勳三等功五級、陸軍少將、  
參謀本部第四部長、石川縣土族

鈴木 繁太郎 洋反物商  
京都府在籍  
妻 照 昭三、一〇生、東京、鹽田清次  
君は京都府人上田光厚の三男にして明治五年三月二日  
を以て生れ先代八重の養子となり同三十二年家督を相  
續す洋反物商を營むA四一五(京都市中區區松原柳馬  
場東電下二二七)

鈴木 繁太郎 洋反物商  
京都府在籍

鈴木 繁太郎 洋反物商  
京都府在籍  
妻 照 昭三、一〇生、東京、鹽田清次  
君は京都府人上田光厚の三男にして明治五年三月二日  
を以て生れ先代八重の養子となり同三十二年家督を相  
續す洋反物商を營むA四一五(京都市中區區松原柳馬  
場東電下二二七)

鈴木 繁太郎 洋反物商  
京都府在籍

鈴木 繁太郎 洋反物商  
京都府在籍  
妻 照 昭三、一〇生、東京、鹽田清次  
君は京都府人上田光厚の三男にして明治五年三月二日  
を以て生れ先代八重の養子となり同三十二年家督を相  
續す洋反物商を營むA四一五(京都市中區區松原柳馬  
場東電下二二七)

鈴木 繁太郎 洋反物商  
京都府在籍

鈴木 繁太郎 洋反物商  
京都府在籍

鈴木 七郎 正四位勳五等、海軍豫備少佐、高  
等海員審判所審判官兼通信局長技師  
妻 昭 昭二、一〇生、福島、遠藤鐵吉妹  
君は石川縣土族鈴木重直の二男にして明治十八年十二  
月二十九日を以て生れ大正十四年兄長之助より分れて  
一家を創立す大倉高等商業學校卒業後直ちに米井商店  
の前身磯野商會に入店し現時前記會社の取締役兼外國  
部長たり家族は尙二女陽子(大一一、六生)ありA一五  
〇(東京市荏原區中延町一〇二)

鈴木 七郎 正四位勳五等、海軍豫備少佐、高  
等海員審判所審判官兼通信局長技師

鈴木 七郎 正四位勳五等、海軍豫備少佐、高  
等海員審判所審判官兼通信局長技師  
妻 昭 昭二、一〇生、福島、遠藤鐵吉妹  
君は石川縣土族鈴木重直の二男にして明治十八年十二  
月二十九日を以て生れ大正十四年兄長之助より分れて  
一家を創立す大倉高等商業學校卒業後直ちに米井商店  
の前身磯野商會に入店し現時前記會社の取締役兼外國  
部長たり家族は尙二女陽子(大一一、六生)ありA一五  
〇(東京市荏原區中延町一〇二)

鈴木 七郎 正四位勳五等、海軍豫備少佐、高  
等海員審判所審判官兼通信局長技師

(※印は姻族關係)

ス七七

鈴木周三郎

杉妻村長、福島縣多額納税者、福島貯蓄銀行、長澤澤造、福島毎日新聞社、福島縣二重各務取給役、農業、福島縣在籍。
父 周次郎 明二五、八生
母 八ナ 明七、六生、福島、瓶子長六長女

鈴木修三

新橋倉庫社長、八千代興業取締役、東京府士族、東京人、造紙業監督。
父 一夫 明三一、三生、美父清美長女、府立第一高女出身
母 七 明三一、三生、美父清美長女、府立第一高女出身

鈴木重三郎

尾久信用組合理事、地主、東京府在籍。
父 尾久 明七、五生、埼玉、押田安兵衛四女
母 雅之助 明二九、五生、長女、埼玉

鈴木充形

日清レイヨンの専務取締役、日清紡績取締役、三重縣在籍。
父 明二五、一〇生、榑木、川村朝次
母 圭一 大三、一一生

鈴木重吉

大阪府在籍。
父 明三五、二生
母 明三七、二生、三男重男妻、兵庫坂田幸太郎長女

鈴木周次郎

計理士、福島縣在籍。
父 周三郎 明九、九生、現戸主
母 明二六、二生、福島、渡邊彦太郎

鈴木脩治

正四位、男爵、宮城縣郡族。
父 大亮 明一、一〇生、山形、大亮、同族
母 明二八、一〇生、山形、大亮、同族

鈴木重三郎

尾久信用組合理事、地主、東京府在籍。
父 尾久 明七、五生、埼玉、押田安兵衛四女
母 雅之助 明二九、五生、長女、埼玉

鈴木重兵衛

仙臺市議員、宮城管署銀行常務取締役、仙臺五軒取給役、若生本店監査役、宮城縣在籍。
父 明一三、九生、宮城、宮本益輔長女
母 明三九、四生、亡妻、京大出身

鈴木春

永樂殖産社長、東邦證券保有取締役、愛知県士族。
父 明二一、八生、群馬、湯淺治郎三女
母 明三、五生

鈴木舜次

水産業、静岡縣在籍。
父 明二七、四生、静岡、鈴木又重二女
母 明二九、一〇生、長男、静岡

鈴木重郎治

福島縣農工銀行監査役、福島縣士族。
父 明一五、四生
母 明三三、一〇生

鈴木俊一郎

白石町長、宮城銀行頭取、白石製絲代表取締役、仙臺電氣興業監査役、宮城縣在籍。
父 明三二、六生、宮城、鈴木半助三女
母 明三一、一〇生、現戸主

鈴木淳弘

千葉縣在籍。
父 明三一、四生、千葉、小谷久松二
母 明三、一〇生

(※印は姻族關係)

戸市林田區大塚町一二五電濱川六四八
鈴木正吾 衆議院議員(愛知縣選出)、著述家

鈴木正二 醫學博士、醫師
鈴木正七 愛知縣多額納稅者、かみみや本店

以て生れ大正十二年家督を相続し前名英二郎を改め
鈴木正平 中屋三間印刷製本屋、中屋商店

鈴木庄三郎 東京府在籍
鈴木信一 天龍運輸、濱松電氣鐵道、遠州電

鈴木信吉 朝日土地建物経営取締役、愛知
鈴木信太郎 正四位勳二等、長崎縣知事

(※印は姻族關係)

鈴木信太郎 正四位勳二等、長崎縣知事
鈴木信三郎 東京府在籍

鈴木庄三郎 東京府在籍
鈴木信一 天龍運輸、濱松電氣鐵道、遠州電

(※印は姻族關係)

戸市林田區大塚町一二五電濱川六四八
鈴木正吾 衆議院議員(愛知縣選出)、著述家

鈴木正二 醫學博士、醫師
鈴木正七 愛知縣多額納稅者、かみみや本店

以て生れ大正十二年家督を相続し前名英二郎を改め
鈴木正平 中屋三間印刷製本屋、中屋商店

鈴木庄三郎 東京府在籍
鈴木信一 天龍運輸、濱松電氣鐵道、遠州電

鈴木信吉 朝日土地建物経営取締役、愛知
鈴木信太郎 正四位勳二等、長崎縣知事

(※印は姻族關係)

鈴木信太郎 正四位勳二等、長崎縣知事
鈴木信三郎 東京府在籍

鈴木庄三郎 東京府在籍
鈴木信一 天龍運輸、濱松電氣鐵道、遠州電

(※印は姻族關係)

戸市林田區大塚町一二五電濱川六四八
鈴木正吾 衆議院議員(愛知縣選出)、著述家

鈴木正二 醫學博士、醫師
鈴木正七 愛知縣多額納稅者、かみみや本店

以て生れ大正十二年家督を相続し前名英二郎を改め
鈴木正平 中屋三間印刷製本屋、中屋商店

鈴木庄三郎 東京府在籍
鈴木信一 天龍運輸、濱松電氣鐵道、遠州電

鈴木信吉 朝日土地建物経営取締役、愛知
鈴木信太郎 正四位勳二等、長崎縣知事

(※印は姻族關係)

鈴木信太郎 正四位勳二等、長崎縣知事
鈴木信三郎 東京府在籍

鈴木庄三郎 東京府在籍
鈴木信一 天龍運輸、濱松電氣鐵道、遠州電

(※印は姻族關係)

引續き其豫科教授に任じ今日及び兼ねて同大醫學
鈴木庄太郎 從五位勳五等、檢事、京都府裁判

鈴木昌吉 正五位勳五等、農林技術師、農務局
鈴木信一 天龍運輸、濱松電氣鐵道、遠州電

以て生れ大正十二年家督を相続し前名英二郎を改め
鈴木正平 中屋三間印刷製本屋、中屋商店

鈴木庄三郎 東京府在籍
鈴木信一 天龍運輸、濱松電氣鐵道、遠州電

鈴木信吉 朝日土地建物経営取締役、愛知
鈴木信太郎 正四位勳二等、長崎縣知事

(※印は姻族關係)

鈴木信太郎 正四位勳二等、長崎縣知事
鈴木信三郎 東京府在籍

鈴木庄三郎 東京府在籍
鈴木信一 天龍運輸、濱松電氣鐵道、遠州電

三十一家... 鈴木信太郎... 從六位、東京帝國大學助教、文學部勤務、埼玉縣在籍

鈴木進一郎... 從五位、臺灣總督府技師、殖産局勤務、福井縣在籍

鈴木新吉... 萬新、小間物商、東京府在籍

鈴木新治郎... 海老新、鐵道屋業、東京府在籍

鈴木眞七郎... 濱松貯蓄銀行取締役、静岡縣在籍

鈴木新吉... 萬新、小間物商、東京府在籍

鈴木新吉... 萬新、小間物商、東京府在籍

鈴木新吉... 萬新、小間物商、東京府在籍

鈴木新治郎... 海老新、鐵道屋業、東京府在籍

鈴木新治郎... 海老新、鐵道屋業、東京府在籍

鈴木新治郎... 海老新、鐵道屋業、東京府在籍

鈴木新治郎... 海老新、鐵道屋業、東京府在籍

鈴木壽傳次... 從四位勳四等、前通信技師、茨城縣土族

鈴木捨藏... 大日本麥酒工務部警務課長、東京府在籍

鈴木正美... 三井報恩會理事、文書課長、三重縣土族

A五五三(東京市澁谷區榮通二ノ二電番山三〇〇) 參照川根井鏡二、鈴木充形、鈴木庸生の項

鈴木清一郎

雙馬商會社員 大阪府在籍 明二、一〇生、和歌山、鈴木菊松長女

君は大阪府人鈴木林吉の長男にして明治二十一年六月を以て生れ大正四年家を相續す現時雙馬商會社員たり

君は大阪府人鈴木清三の長男にして明治二十一年六月を以て生れ大正四年家を相續す現時雙馬商會社員たり

鈴木清三郎

大阪府多額納税者、大阪三品取引所取引員、卸甲船商 大阪府在籍 明三七、一二生、生母、姪、小島、美代子

君は大阪府人鈴木清三の長男にして明治二十一年六月を以て生れ大正四年家を相續す現時雙馬商會社員たり

鈴木清二

ベルツ丸本舖、鈴木日本製菓社、製菓業、愛知縣在籍 明三三、四生、東京、伊藤公夫婦

君は愛知縣人鈴木重五郎の二男にして明治二十一年一月二十五日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す

鈴木清助

山形縣會議員、羽陽銀行、山形電氣、東北各縣取締役、山形縣在籍 明六、五生、山形、白田彌次右衛門長女

君は山形縣人先代清助の長男にして明治二十六年二月を以て生れ大正九年家を相續し前名亮一郎を改め

鈴木清藏

横濱植木社社長、神奈川縣在籍 明二五、一〇生、神奈川、角田若

君は神奈川縣人鈴木清藏の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正九年家を相續す現時横濱植木社社長たり

鈴木清太郎

五位勳四等、理學博士、九州帝國大學教授、香川縣在籍 明二五、五生

君は香川縣人鈴木清太郎の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正九年家を相續す現時九州帝國大學教授たり

鈴木善作

果物問屋、東京府在籍 明三一、一〇生、青森、今村たま三

君は東京府人鈴木善作の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正九年家を相續す現時果物問屋

鈴木善四郎

春日屋、白米商、東京府在籍 明二五、七生、東京、山本重次郎

君は東京府人鈴木善四郎の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正九年家を相續す現時春日屋

鈴木善七

東海紡績常務取締役、豊島商會、山一商店各取締役、協同土地、山一商店各取締役、協同土地、山一商店各取締役

君は愛知縣人鈴木善七の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正九年家を相續す現時東海紡績常務取締役

鈴木善藏

帝國博品館委員、若松兩替店主、東京府在籍 明九、四生、東京、山田金次郎三女

君は東京府人鈴木善藏の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正九年家を相續す現時帝國博品館委員

鈴木善吉

東京株式取引所取引員、東京府在籍 明二三、五生、東京、龍宮利光姉

君は東京府人鈴木善吉の長男にして明治二十一年一月三日を以て生れ大正九年家を相續す現時東京株式取引所取引員

鈴木善積

長野縣多額納税者、長野縣在籍 明二八、五生、長野、金澤宗純二

君は長野縣人鈴木善積の長男にして明治二十二年五月十五日を以て生れ大正九年家を相續す現時長野縣多額納税者

鈴木善吉

鈴木保善取締役、萬安樓、料理業、東京府在籍 明二七、三三、東京、武神清吉妹

君は東京府人鈴木善吉の長男にして明治二十五年三月七日を以て生れ大正九年家を相續す現時鈴木保善取締役

鈴木宗竹

鐵路商工會議所議員、鐵路運送、代表取締役、鐵路運送、代表取締役

君は千葉縣人鈴木宗竹の長男にして明治二十三年五月を以て生れ現時鐵路商工會議所議員

鈴木莊一

臺灣銀行東京支店員、辯護士、東京府在籍 明二五、一〇生、島根、杉本辰三

君は東京府人鈴木莊一の長男にして明治二十七年一月五日を以て生れ昭和三年家を相續す大正八年東京帝國大學法學部法科を卒業す現時臺灣銀行東京支店員

鈴木仙吉

淺草區會議員、松家支店、牛島料理業、東京府在籍 明二八、四生、東京、川邊喜右衛門

君は東京府人鈴木仙吉の長男にして明治二十一年十月四日を以て生れ後祖母鈴木なをの養子となり大正元年家を相續す明治十四年慶應義塾理財科を卒業し松家支店と號し牛島料理業を営み推されて淺草區會議員たり

鈴木善五郎

東京府在籍 元治元、一〇生、養父後兵衛長女

君は神奈川縣人鈴木善五郎の長男にして明治二十一年十二月を以て生れ明治十一年五月先代東京府人鈴木後兵衛の養子となり前名善吉を改め同十五年家を相續す地家主たり

又之部 鈴木

女)及其一子弟假介(同三七、五五)あり妹清(同四二、一七)生)は東京府人前田孝義弟孝哉に嫁せり(東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ九〇二)

鈴木 莊六 從二立勳一等功二級、陸軍大尉、機務顧問官、帝國在郷軍人會長、少佐

妻 妻 明四〇、九生、高知、士、森岡正元長女、明四〇、四生

鈴木 惣七 宮城縣多賀郡酒田、栗原軌道、澤宮城縣在籍、取締役、金銀業

妻 はなよ 明二七、四生、宮城、菊地嘉左衛門、明三六、七生

鈴木 惣八 東京織物用品取締役、鈴木惣八商店代表社員、東京玻璃器商同

(※印は姻族關係)

男 三太郎 明三五、一二生、經濟學士、明四三、六生、長男三太郎妻、山口、河口作助長女

鈴木 治夫 明四四、九生、東京、川口彌三郎弟、若くは東京府人川口彌三郎の長女にして明治十九年八月十三日を以て生れ大正元年前家先代鈴木源之助に嫁し同六年源之助死亡に因り家督を相続す地主たり家族は同養子貞子(大九五、四生、埼玉、齊藤大郎孫あり)A三六四(東京市豊島區巢鴨町一ノ六五電大塚三八一)

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

又之部 鈴木

鈴木 謙叶 酒食料品商、東京府在籍

妻 妻 明二〇、一五生、山梨、士、三科順

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 太郎 帝國生命保險取締役、東京府在籍

妻 妻 明一四、一〇生、宮城、木村一、是

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 太平 鈴木工務書、土木建築請負業、東京府在籍

妻 妻 明二七、一一生、静岡、伊藤恭太

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

(※印は姻族關係)

鈴木 隆晴 帝國電氣社長、小山南郵便局長、山梨縣在籍

妻 妻 明一九、四生、山梨、山田忠蔵、明四四、九生

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹

鈴木 孝雄 正三位勳一等功三級、陸軍大尉、千葉縣在籍

妻 妻 明一七、五五生、子爵立見登丸妹



一日を以て生れ同二十七年祖母マワの後を承け家督を...

鈴木 健弘 正五位勳三等、京都高等工業學校...

鈴木 健弘 正五位勳三等、京都高等工業學校...

鈴木 健弘 正五位勳三等、京都高等工業學校...

鈴木 健弘 正五位勳三等、京都高等工業學校...

鈴木 健弘 正五位勳三等、京都高等工業學校...

鈴木 忠雄 東京府在籍、活字製造業...

鈴木 忠雄 東京府在籍、活字製造業...

鈴木 忠雄 東京府在籍、活字製造業...

鈴木 忠雄 東京府在籍、活字製造業...

鈴木 忠雄 東京府在籍、活字製造業...

鈴木 忠雄 東京府在籍、活字製造業...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 達治 正四位勳二等、廣島高等工業學校...

鈴木 千代吉 大日本特許肥料専務取締役、長...

鈴木 千代吉 大日本特許肥料専務取締役、長...

鈴木 千代吉 大日本特許肥料専務取締役、長...

鈴木 千代吉 大日本特許肥料専務取締役、長...

鈴木 千代吉 大日本特許肥料専務取締役、長...

鈴木 千代吉 大日本特許肥料専務取締役、長...

鈴木 忠吉 東海自動車代表取締役、伊豆製...

鈴木 忠吉 東海自動車代表取締役、伊豆製...

鈴木 忠吉 東海自動車代表取締役、伊豆製...

鈴木 忠吉 東海自動車代表取締役、伊豆製...

鈴木 忠吉 東海自動車代表取締役、伊豆製...

鈴木 忠吉 東海自動車代表取締役、伊豆製...

鈴木 忠藏 地主、東京府在籍...

鈴木 忠藏 地主、東京府在籍...

鈴木 忠藏 地主、東京府在籍...

鈴木 忠藏 地主、東京府在籍...

鈴木 忠藏 地主、東京府在籍...

鈴木 忠藏 地主、東京府在籍...

**父** 源太郎 慶應二、二二生、現戸主  
**母** ちか 明女  
**妻** 博香 明三五、七生、東京、有賀定吉長女  
 君は千葉縣人現戸主源太郎の長男にして明治二十二年四月十一日を以て生れる現時朝鮮銀行山支店支配人たり家族は尙長女喜美子(大、四、五生)二女美禰子(昭二、七生)妹雪江(明三八、二生)弟俊男(同三九、九生)妹とめ子(同四四、一生)あり同トク(同二三、二生)は千葉縣人川奈部慶之助二男武治郎に同トク(同二五、三三)は東京府人渡邊清治に同トク(同三一、八生)は茨城縣人小池愛雄に嫁し弟二郎(同二七、六生)は分家せり(群山市本町朝鮮銀行支店内)  
 參照 有賀定吉の項

**鈴木 仲輔** 正五位勳六等、海軍豫備機關大尉  
 神戶高等商船學校教授  
**妻** ナカ 安政元、七生、濱田平兵衛長女  
**母** イチ 明二七、七生、鹿兒島、二川榮三女  
**男** 正雄 大五、八生  
**女** 正雄 大五、八生

**鈴木 長九郎** 紀新銀行頭取  
 三重縣在籍  
**妻** まさ 明五、九生、三重、奥川吉三郎叔母  
**母** よねを 明三、二〇生、亡長男櫻藏妻、三重、山口勘太郎長女  
**男** 義雄 明四一、五生  
**女** 義雄 明四一、五生  
**孫** 政次 明四三、九生  
**男** 政次 明四三、九生  
**女** 貞子 大五、九生  
**孫** 茂子 大五、九生、亡長男德藏長女

**鈴木 長藏** 三長商店、青物卸商  
 東京府在籍  
**妻** なつ 嘉永五、六生、千葉、山口徳松姉  
**母** 久 明一六、一生、東京、川島徳太姉  
**男** 長一郎 明三三、六生  
**女** 玉子 明四五、二生、長男長一郎妻、神奈川、横山留蔵三女

**鈴木 恒** 岩手無盡取締役  
 岩手縣在籍  
**妻** エキ 元治元、一生、岩手、栗谷川金智  
**母** 文一 明三六、四生  
**男** 文一 明三六、四生  
**女** あや子 大六、九生  
**孫** 富子 大六、九生  
**女** 富子 大六、九生

**鈴木 恒三郎** 帝國生命保險取締役、古河石炭礦  
 業、古河電氣工業各責任役員、古河林業部部長、無限責任社員  
 大分縣土族  
**妻** 齋 門一、九生、東京、淺田甚右衛門姉  
**母** 齋 明一、九生、東京、淺田甚右衛門姉  
**養子** 齋 明一、九生、東京、淺田甚右衛門姉  
**孫** 齋 明一、九生、東京、淺田甚右衛門姉  
**女** 齋 明一、九生、東京、淺田甚右衛門姉

**鈴木 庸生** 勳六等、理學博士、理化學研究所  
 主任研究員、日滿アルミニウム  
 顧問、東京府土族  
**妻** さき 元治元、一生、石川、櫻井作長女  
**母** 文 明二二、一生、理學博士櫻井鏡  
**男** 健治 大七、五生  
**女** 由美 大六、二生、櫻井高女出身  
**女** 美 大五、八生、櫻井高女出身

**鈴木 禎次** 從四位勳四等、鈴木建築事務所主  
 任、東京府土族  
**妻** トキ 明一、二生、廣島、中根重二女  
**母** トキ 明一、二生、廣島、中根重二女  
**養子** トキ 明一、二生、廣島、中根重二女  
**孫** トキ 明一、二生、廣島、中根重二女  
**女** トキ 明一、二生、廣島、中根重二女

**鈴木 鏡藏** 勳四等、東京硫磺總監査役  
 茨城縣土族  
**妻** まつ 明七、九生、茨城、永井苗圃二女  
**母** まつ 明七、九生、茨城、永井苗圃二女  
**養子** まつ 明七、九生、茨城、永井苗圃二女  
**孫** まつ 明七、九生、茨城、永井苗圃二女  
**女** まつ 明七、九生、茨城、永井苗圃二女

**鈴木 常吉** 從五位勳四等、検事、大阪控訴院  
 検事、福島縣在籍  
**父** 喜三郎 文久二、三三、現戸主  
**母** ハツ 明一、四生、福島、菅野ミキ伯  
**妻** ノア 明三二、二二生、福島、立岩俊作  
**男** 彰 明三三、三三

**鈴木 鶴治** 長野縣多額納税者、八十二銀行總  
 取締役、大倉製糖工場監査役  
 長野縣在籍  
**妻** しげ 明一五、四生、長野、神林、小一  
**母** しげ 明一五、四生、長野、神林、小一  
**養子** 英次 明四〇、二生、長野、寺澤準四郎  
**孫** 英次 明四〇、二生、長野、寺澤準四郎  
**女** 英次 明四〇、二生、長野、寺澤準四郎

**鈴木 網次郎** 地主  
 東京府在籍  
**妻** クワ 明一〇、二二生、東京、鈴木定吉  
**母** クワ 明一〇、二二生、東京、鈴木定吉  
**養子** クワ 明一〇、二二生、東京、鈴木定吉  
**孫** クワ 明一〇、二二生、東京、鈴木定吉  
**女** クワ 明一〇、二二生、東京、鈴木定吉

**鈴木 常松** 大阪書務總務取締役、修文館、  
 書籍商、大阪府在籍  
**妻** ハル 明一三、一生、大阪、平田松之助  
**母** ハル 明一三、一生、大阪、平田松之助  
**養子** ハル 明一三、一生、大阪、平田松之助  
**孫** ハル 明一三、一生、大阪、平田松之助  
**女** ハル 明一三、一生、大阪、平田松之助

**鈴木 禎次** 從四位勳四等、鈴木建築事務所主  
 任、東京府土族  
**妻** トキ 明一、二生、廣島、中根重二女  
**母** トキ 明一、二生、廣島、中根重二女  
**養子** トキ 明一、二生、廣島、中根重二女  
**孫** トキ 明一、二生、廣島、中根重二女  
**女** トキ 明一、二生、廣島、中根重二女

**鈴木 鏡藏** 勳四等、東京硫磺總監査役  
 茨城縣土族  
**妻** まつ 明七、九生、茨城、永井苗圃二女  
**母** まつ 明七、九生、茨城、永井苗圃二女  
**養子** まつ 明七、九生、茨城、永井苗圃二女  
**孫** まつ 明七、九生、茨城、永井苗圃二女  
**女** まつ 明七、九生、茨城、永井苗圃二女



女 千草子 大四、一生  
若 榮 大八、三生  
君は東京府人鈴木久右衛門の二男にして明治元年四月二十二日を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す退役海軍少將にして現時前掲各會社の重役たり家族は尙六男豊彦(大六、三生)五女重(同二、二生)あり長女櫻子(同三九、三生)は東京府人久保來復長男正に嫁し五男仙(同四三、二生)は同府人鈴木幸次郎の養子となれりA一二七(東京市豊島區西巢鴨二ノ三九四電六塚五八〇)

鈴木留次郎

赤坂區會議員、揚心館、柔道師範  
東京府在籍  
妻 与 明一、二生、茨城、平井文右衛門二女  
養子 住 三 明三七、九生、養父熊治郎二男  
明三八、六生、養子住三妻、茨城  
婦 ひき 島田勘太郎二女

君は茨城縣人中條勝太郎の弟にして明治四年十月を以て生れ後東京府人鈴木熊治郎の養子となり同二十九年分れて一家を創立す柔道師範として知られ揚心館道場を開き現に赤坂區會議員に擧げらるる家族は尙孫一(昭三、一〇生、養子住三長男)同敬(同七、八生、同三男)あり(東京市赤坂區青山北町一ノ八電青山三八〇)

鈴木友吉

從五位勳五等、神宮皇學館教授兼  
教授、普通科主事、愛知縣士族  
妻 綾子 明二六、九生  
男 邦彦 大六、七生

君は三州板倉藩士鈴木林治郎の孫にして明治十三年十月を以て生れ同三十九年専門學校入學資格檢定試験に合格同四十二年神宮皇學館本科を卒へ大正二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業す同三年鹿兒島縣加治木中學校教諭に任ぜられ奈良縣農林學校東京府第六中學校各教諭を経て同十五年神宮皇學館教授となる昭和七年同教諭兼教授に任ぜられ現に普通科主事たり(我國體と國民精神)「吉野哀史」「日本神話」等の著書あり家族は尙二男豊彦(大八、二生)二女安子(同一、一生、宇治山田市立高女在學)あり長女芳子(大一、二生)は他に嫁せり(宇治山田市岡本町八幡山六

鈴木友三郎

明治書院取締役  
東京府在籍  
妻 スミ 明七、一〇生、長崎、下島安三長女  
明二六、九生  
男 敬三 明三一、一〇生、長男敬三妻、東京  
明三九、一〇生、長男敬三妻、東京  
女 民子 明三九、一〇生、長男敬三妻、東京  
明三八、五生

鈴木伴實

東林商船取締役  
東京府在籍  
妻 初恵 明二八、六生、福岡、中村眞一姪  
明一三、三生  
男 卯太郎 大六、九生  
女 ササ 大六、六生

鈴木豊吉

不二屋、洋酒食料品商  
東京府在籍  
妻 千代 明二二、三生、東京、濱田傳三郎  
明二五、二生  
男 敏道 大五、二生

鈴木直衛

草津電氣鐵道、群馬新聞社各取締役  
群馬縣在籍  
妻 ヤ 門五女  
明一九、一〇生、群馬、林九右衛門五女

鈴木直彦

愛知縣士族  
安政四、七生、愛知、浦庄兵衛二女  
妻 麻子 明二六、一〇生、愛知、山田嘉穂妹

鈴木豊平

鈴豊商店、白米商  
東京府在籍  
妻 よし 元治元、一〇生、東京、友田磯八  
明二九、一〇生、長男清一妻、東京  
男 清一 明二九、一〇生、長男清一妻、東京  
明三三、一〇生、長男清一妻、東京  
婦 美作穂 阿川信平長女

鈴木虎一

地主  
福井縣士族

妻 みね 明元、三生、福井、士、鈴木準道長女  
女 志津枝 明二五、三生  
明三九、七生  
女 内子 明四一、六生  
明四四、六生  
女 芬子 明四四、六生  
君は福井縣士族鈴木豊の長男にして元治元年三月を以て生れ明治十年家督を相続す地主たり三女采(明二六、六生)は岡山縣人山口易之に四女千畝(同二九、四生)は東京府人石原石彦に六女三保(同三五、一生)は兵庫縣人芝虎一に嫁せりA四五(東京市本郷區駒込四片町一〇)ノ三三

鈴木虎雄

正四位勳二等、文學博士、京都帝國大學教授、文學部勤務  
新潟縣在籍  
妻 鶴代 明二二、三生、東京、陸四郎姉  
明二八、七生  
男 雪江 明四四、一〇生  
女 美津保 明四四、一〇生  
はるみ 大五、二生

君は新潟縣人鈴木健蔵の五男にして明治十一年一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同三十三年東京帝國大學文科大學漢學科を卒業し同四十二年東京高等師範學校教授に任ぜられ後京都帝國大學文科大學助教授を経て大正八年同大學教授に進み現に文學部勤務たり現に漢學研究の爲め支那に留學し同九年文學博士の學位を受く昭和四年歐洲に派遣せられ翌年歸朝し「支那詩論史」「支那文學研究」「樂問錄」「白樂天詩解」「社那詩論史」等の著あり家族は尙四女(大)一(大)一少陵詩集譯解」等の著あり家族は尙四女(大)一(大)一(九生)五女(大)一(同二、七生)あり(京都市上京區相國寺東門前町六八四電上京四一九)

鈴木虎次郎

茨城縣多額納稅者、筑波山銅業鐵道、筑波鐵道各取締役、農業  
茨城縣士族  
妻 美母 さい 嘉永五、四生、養父金吾長女  
明二、三生、養父金吾長女  
男 達衛 明三〇、一二生

生(二女三千(同一〇、二生)三女若(同一二、一生)三男三之(昭三、一生)あり長女登代(明四三、七生)は東京府人保岡藤也長男勝に嫁せりA七二〇B二三七(東京市芝區琴平町一ノ五電芝三三八)

鈴木豊次郎

湯崎温泉文里土地總監査役、辯護  
東京府在籍  
妻 りやう 明二五、四生、大阪、信達ハナ妹  
明二二、二生、養子千秋妻、東京  
明二二、二生、養子千秋妻、東京  
婦 キミエ 阿部マサ養女

鈴木豊平

鈴豊商店、白米商  
東京府在籍  
妻 よし 元治元、一〇生、東京、友田磯八  
明二九、一〇生、長男清一妻、東京  
男 清一 明二九、一〇生、長男清一妻、東京  
明三三、一〇生、長男清一妻、東京  
婦 美作穂 阿川信平長女

鈴木豊平

君は茨城縣人鈴木金四郎の三男にして慶應元年九月十日を以て生れ明治二十八年兄巳之次郎方より分れて一家を創立す鈴豊商店と稱し白米商を營む家族は尙孫良子(大一、一〇生、長男清一長女)同市造(同一五、一〇生、同長男)同康司(昭三、七生、同二男)同徳子(同五、一〇生、同二女)同敬三(同八、四生、同三男)あり二男關之助(明三三、二生)同妻みつ(同三四、五生、東京、堀口四郎吉長女)は其一女を伴ひ分家し長女クニ(同三四、二生)は東京府人上岩助の長男好時に嫁し二女アツ(同三六、六生)は同府人小野よしの養子となれりA三六四(東京市京橋區新富町一ノ一四電京橋三二〇)

鈴木仁一郎

濱松商工會議所議員、帝國製糖社長、濱松倉庫、濱松合同運送、丸善各取締役、城北機業監査役、静岡縣在籍  
妻 ひる 明二〇、三生  
男 潤爾 明四四、六生  
女 増子 大四、九生

鈴木仁一郎

君は静岡縣人鈴木女平の二男にして明治六年一月を以て生れ大正九年兄幾太郎方より分れて一家を創立す現に實業界に入り現時帝國製糖社長の外前記各會社の重役として知らるる又推されて濱松商工會議所議員たり家族は尙六女(大九、二生)あり長女壽美(明三九、一〇生)は静岡縣人鈴木繁治に二女美代(同三七、一〇生)は大坂府人妻馬之助に三女敏子(同三九、六生)は東京府人伊達研三に四女みき(明四五、七生)は野口宗光に嫁き(同三四、五生)は静岡縣人山田眞平に嫁し弟省三(同九、六生)は同縣人佐藤健作に同義一(同二〇、二生)は同縣人佐藤千代次に各養子せり(濱松市廣澤町二五一電三六七)

鈴木仁一郎

琴平參宮電鐵、豊國自動車各取締役、鈴木藥業本店主  
大阪府士族  
妻 ヒデ 安政四、五生、愛知、富田若水長女  
明二八、一〇生、香川、士、大西虎之介妹  
養子 哉 明四〇、一〇生、香川、士、大西  
明二二、二生、養子哉妻、岡山、日笠祐太郎長女  
婦 三枝子 大正二、二生、養子哉妻、岡山、日笠祐太郎長女

鈴木仁一郎

君は大阪府士族鈴木謙次郎の二男にして明治二十年二月二十四日を以て生れ同四十二年慶應義塾理財科を卒業し大正十五年家督を相続す現時鐵業を營む鈴木鐵業本